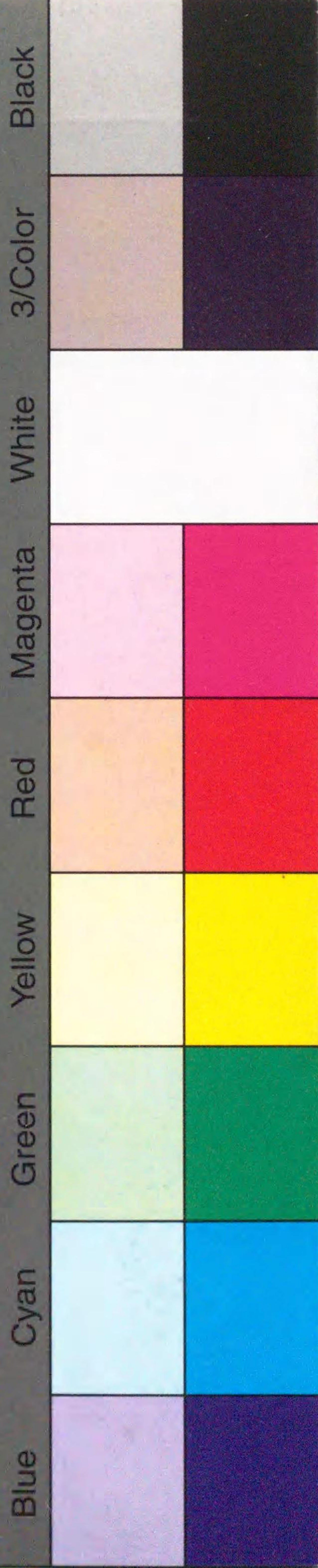


法律學士古賀廣造講述
刑法各論
全

和第五百九拾壹號
政第三五八號

inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches



Kodak Gray Scale

C Y M

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

刑法各論目次

第二編 各論

第一章 國ノ治安ニ関スル罪

第一節 皇室ニ對スル罪

第二節 内乱外患ニ関スル罪

第一欸 内乱ニ干スル罪

第二欸 外患ニ干スル罪

第三節 兇徒聚集ノ罪

第四節 官吏抗拒罪

第五節 囚徒逃走罪及罪人ヲ藏匿スル罪

第一欸 囚徒逃走罪

第二欸 罪人藏匿罪

第六節 附加刑ノ執行ヲ逃ルル罪

第七節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ

所有スル罪

藏置欄
第五節
子欄

三 一 三 〇 八 二 三 二 三 一 六 二 三 三 一 一



古加天

第八節

往來通行妨害罪

三一

第九節

人ノ住所ヲ侵スル罪

三二

第十節

官ノ封印ヲ破棄スル罪

三八

第十一節

公務ヲ行フヲ拒ム罪

三九

第二章

信用ヲ害スル罪

三九

第一節

貨幣ヲ偽造スル罪

三九

論論

貨幣偽造罪ノ論

四〇

貨幣偽造罪ノ各論

四〇

第二節

印章偽造罪

四九

第一款

官印偽造罪

五〇

第二款

私印偽造罪

五三

第三款

印章盗用罪

五六

第三節

文書偽造罪

五九

第一款

官文書偽造罪

五九

偽造變造ノ區別

六一

第二款

私文書偽造罪

六五

第四節

免狀鑑札及疾病証書ヲ偽造スル罪

七〇

第五節

偽証罪

七一

第一款

偽証罪ノ論

七一

第二款

刑事ニ干スル偽証罪

七一

第三款

民事裁判ニ於ケル偽証罪

七六

第六節

私ニ医業ヲナスノ罪

七九

第三章

風俗ヲ害スルノ罪

七九

第一種

猥褻ノ所為

七九

第二種

賭博

八二

第三種

神佛ニ對スル公然ノ不敬

八六

第四章

死屍ヲ毀棄シ及墳墓ヲ弁堀スル罪

八六

第五章

收賄罪

八八

第三編

身体財産ニ對スル重罪輕罪

八九

第一章 身体ニ対スル罪

第一節 殺人罪

第二節 殴打創傷罪

第二章 財産ニ対スル罪

第一節 竊盜罪ニ付テ

竊罪ニ付テハ如何ナル標準ニヨリ未遂ト

既遂トハ區別ヲナスヲ得ルヤ 一〇一

墳墓ヲ奔堀シ死者ノ死体ニ属スル財産ヲ

トリニテ盜罪ヲ以テ論スルコトヲ得ルヤ 一〇二

盜罪ト詐欺取財ノ比較

強盜ニ付テ 一〇三

詐欺取財ト受寄物貰消罪トノ區別

委託ノ物件ハ之ヲ竊盜スルヲ得ルヤ 一〇六

委託物ハ詐欺取財ノ目的トナルヲ得ルヤ 一〇七

刑法各論目次完

最高裁判所図書館

刑法

第二編 各論

明治三十三年度講義

第一章 國ノ治安ニ関スル罪

第一節 皇室ニ対スル罪

皇室ニ対スル罪ハ刑法規定中特別ノモノニシテ殆ント総則ノ原理ヲ以テ之シカ

説明ヲナスニ窮スル如キモノアリ

何故ニ刑法ハ皇室ニ対シテハ特別ナル規定ヲ設クルニ至ルカ思フニ皇室ニ関スル罪

ハ國家ノ生存ニ関スル罪トモ云フコトヲ得ハキモノニシテ之ニ対シテ特別ノ保護ヲ

ナサレハ恰モ國ノ存亡ヲ輕クスルニ至ルモノナリ憲法ノ規定ニヨリハ我々天皇陛下ハ

統治權ヲ總攬シ凡テノ政令 天皇ヨリ出ツ 天皇ハ帝國ノ代表政治ノ動

機ノ原ニシテ 天皇ノ安危ト國ノ安危トニワニスハカラサルモノナリ憲法中ニ 天皇

神聖不可侵ト云ハルニヨリ故ニ 天皇ノ安危ニツキ特別ノ規定アルハ理ノ當然

ナリ今講義ノ順序トシテ皇室ニ対スル罪ヲ以テ國家ノ治安ニ関スル罪ノ部

中ニ置ク所以ナリ

刑法ノ主意 天皇ヲ以テ國家ノ安危ニ関スルモノトナシタルニ付テハ其結果トシテ

刑法

國家ノ安危ニ関セサル場合ニ於テハ後令皇室ニ対スル罪ナレ氏之ヲ茲ニ規定ス
 皇室ニ対スル罪トハ廣クシテ他ノ条ニ規定スル所ヲ包含スル如ク思ハル然ルニ刑法
 ハ皇室ニ関スル罪ニ於テ身体名譽ニ関スル罪ニシテ揚ケ財産ニ対スル罪ハ他ノ
 場所ニ讓レリ蓋シ財産ニ対スル罪ハ後令 天皇ニ対スル罪ナレモ國ノ安危ニ関
 スルコトナケレハナリ論者或ハ曰ク皇室ノ特別ノ財産即三種ノ神器ハ國家ノ安危ニ
 関スル皇統相續ノ重宝ナリ此神器ニ対スル罪ハ國ノ安危ニ関スルモノト云ハルハカラ
 ガハニマラスヤト即チ之ハ皇室ニ対スル罪ノ中ニ規定スハナレモアラヌヤト是レ或ハ然ラ
 ン然ラ氏今日皇室典範ニヨリテ收部ノ規定アリテ其ノ中ニ三種ノ神器ヲ相傳
 ノ必要トモス然ラハ之ヲ規定セザルモ刑法ノ欠矣ニアラヌトナスナリ
 皇室ニ対スル罪ヲ分テニトナス

名譽ニ対スル罪

- 一、身体ニ対スル罪ハ第十九条第百八条ニ規定シ
- 百十六條ニハ天皇三右皇太子ニ対スル危害
- 百十八條ニハ皇族ニ対スル危害

此二条ノ規定ニ付テ説明ヲ要スルコトハ安危ノ文字並ニ加ハントスルノ語ナリ
 余ハ此ノ二条ヲ以テ身体ニ対スル罪トス然ルニ条文ニハ身体ノ字ナシ故ニ余ノ解釈
 ノ批難スルモノアリ然レモ 天皇三皇^后皇太子ニ対シトハ人ニ対スルナリ即チ身体ニ
 対スル安危ナルコトハ解釈正當ナリトス皇族ニ対スル云々又モ有体ノ身体ニ
 対スルヲ云ヒモノナリ和蘭刑法ハ明クニ國王ノ生命若クハ身体ニ対シ云々トマ
 アリテ此矣明白ナリ

危害ノ文字ノ意味如何危害ノ文字ハ之ヲ身体ニ対スルモノトスレハ其意味至
 テ廣シ身体ニ対スル罪ハ違警罪ノ殴打罪ヨリ重罪ノ殴打罪ニ至ルマテテ
 合ミ之ヲ分拆スレハ九個アリ輕キハ違警罪ノ殴打罪第二輕罪ノ殴打創傷
 罪第三日以後ノ疾病休業ニ至ル殴打創傷罪第四日以後ノ疾病休
 業ニ至レル殴打創傷罪第五癩疾ニ至ル殴打創傷罪第六癩疾ニ至レル
 殴打創傷罪第七死ニ致シタル殴打創傷罪第八故殺ニ至ル殴打創傷
 罪第九謀殺ニ至レル殴打創傷罪此ノ九種ノ罪ハ身体ニ対スル危害罪ナリ
 故ニ本条中此ノ九種ノ危害罪ヲ含ハント云フハ結果ニテ然ラハ刑法ノ特別ノ驚
 カサレ得ス普通ノ場合ニハ危害罪ヲ九階トシ違警罪ヨリ重罪ニ至ルマテ

刑罰ヲ田共ニセルモ拘ハラス凡テ本条ハ死刑トセリ故ニ天皇三后皇太子ニ對シ
 殴打創傷ヲ犯スモ死刑トス普通犯罪ノ場合ニ於テ犯罪ノ輕重ニ從テ刑罰
 ヲ輕重スルモノトスハ本条ハ總則ノ原則及ハカハ特別ナル莫ナリトス
 加ヘントシタルトアルハ稍危害ヲ加フル罪ノ末遂犯ノ如ク思ハル危害實行ノ末遂
 犯トセハ又ハ加ヘントストノ一句ヲ加ヘハルモ末遂罪ノ原則ヲ適用スヘキナリ而ルニ總則
 ニ未遂犯ノ原則ヲ掲ケタルハ拘ハラス本条ニ此規定アルハ末遂犯ノ原則及ハカ
 ルコトヲ示シタルモノナリ未遂犯ハ三要件アリテ先ツ第一ニ行フコトヲ要ス第二ニ
 行フニ當リ大策スルコトヲ要ス第三ニ實行ヲ遂ケサルコトヲ要ス然ルニ本条ハ
 未遂犯罪第一ニ條件ヲ欠キナリ即チ行ヒシコトヲ行フ以前ノコトヲ規定セリ又第二
 ニ未遂犯ニハ錯誤ヲ要スルモノナレバ本条ハ此ニ條件ヲ欠キスルモノナリ然ラハ
 本条ノ精神ハ末遂罪以外ノモノヲ罰セントスルモノナルコトヲ知ル故ニ此ニ同取アリ
 本条ハ身體ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルモノヲ罰スルコトヲ知ル故ニ此ニ同取アリ
 然レモテ支配ヤス今強迫ヲナスモノアリ(而シテ強迫ニ二種アリ身體ニ對シ強迫ス
 ハテト無形上ノ強迫トナリ)今無形上ノ強迫例ハ余自身ニ對シテ危害ヲ加ハス
 余ノ子又ハ母ニ對シテ危害ヲ與ヘント強迫スルモノアル場合加ナリ今ニ天皇皇太子

子ノ寵セラハ第三者ニ對シテ危害ヲ加フルヲ以テ強迫セルモノアリトセハ如何本条ヲ
 以テ支配スルヲ得ルヤ否ヤ

天皇三后皇太子云々トアリテ此以外ノモノニ及ホスコトヲ得ス第一ニ皇太子孫ノ掲ケス
 此ハ刑法ノ欠点ナリ三后トハ歴史上ハ之ヲ知ルコトヲ得皇室典範ニハ陛下ト稱ス
 ハテハ天皇皇太子皇后皇太子后ノ敬稱ハ陛下トスアリ刑法ノ定義トシテ
 三后トハ不明ナリ此ハ明白特受詞ヲ掲クルヲ可トス

攝政タル人シ此ニ掲クルヲ要スト云フ人モアレバ攝政タル人ハ皇族ナリ皇族ニ對
 スルニハ別ニ規定アレハ之ヲ除クモ可ナリ

二、名譽ニ干スル罪
 名譽ニ干スル罪ハ第百十七條第百十九條ナリ之ヲ不敬罪ト稱ス不敬ノ文字ハ加
 何ナル義ヲ有スルヤ其主義漠然タリ普通人間ニ於ケル敬禮ノ失体ヨリ刑法ノ規
 定ニ誹譏侮辱罪追テモ包含ス不敬ノ字ヲ解スルヤ根柢ナキ論トナル、恐アリ余
 ハ不敬ノ文字上ニ根柢ヲ得ト欲ス

凡ソ人ノ社交ニハ一定ノ禮式習慣上行ハルナリ而シテ禮式ハ法律命令ノ命スル如ク
 アラスト雖モ能ク行ハル、禮式ハ和ヲ目的トス實際ヲ内滑ニスルヲ目的トス禮式

ナケル交際間ニ如何ナル状態ヲ表スルカ貪獸ト異ルカハハシ故ニ社交ニハ礼式ヲ
 要スルナリ今陛下ニ対シ脱帽又カハハ此ニ掲クル不敬罪ナリ不敬罪ナル意味
 廣大ナル故ニ此条ノ適用甚々大ナリ故ニ不敬トハ習慣上ノ礼式ヲ破リタルモノヲ云
 フト解スヘシ皇陵ニ対スル不敬罪ハ第百十一條ニ規定セリ
 墳墓奈堀ノ罪カ普通人ノ場合ニアル故皇陵ニ対スル不敬罪ノ規定アルハ当然
 ナリトス普通人ノ場合ニモ死者ヲ誹譏シテ誣妄ニ出テタル場合ヲ規定セシカ天
 皇ノ場合ニハ前代ノ天皇ニ対シ誹譏罪ヲ規定セサリシハ欠点ナリ

第二節

内乱外患ニ干スル罪

内乱ニ干スル罪ハ之ヲ二分ス第一内乱ニ干スル罪第二外患ニ干スル罪是レナリ

第一款

内乱ニ干スル罪

内乱ニ干スル罪ヲ區別シテ三トス

- 一、政府ノ団体ニ対スル罪
- 二、政府ノ個人ニ対スル罪
- 三、其豫備陰謀ニ関スル罪

第一場合、政府ノ団体ニ対スル罪

此犯罪ハ不明ナリ(百廿一條)此規定ハ甚々困難ナル規則ナリ

此ヲ論スルニ先立テ國事犯ト常事犯トノ區別ニウキテ言セン余ハ常事犯國

事犯ノ區別ヲ論スルヲ好マヌ何トテ各条ニ於テ其區別判明セカハ莫ク多ク

其六ナリ若シ此ニ於テ此ノ區別ヲナス必要アリトセハ今シテ各犯罪ニ付テ區別ヲナス

必要ナラン只此ニ言スヘキハ此犯人ハ國事犯ヲ以テ名譽ト忘想シスリ此觀念ハ

非常ニ國ノ治安ヲ害スル原因ヲナスナリ刑法學者トシテ飽迄此ノ觀念ヲ打破

スルコトヲ勉メサルヘカラス凡ソ刑法ニ規定スル各種ノ犯罪中尤モ恐ルハハ國事

犯ニ如クモナシ國事犯以下ノモノハ其犯罪ノ区域至テ狭ク社会ヲ組織スル或ハ一

部ニ対シテノミ或危害シ及ホスニ至ルノミ之ニ反シ國事犯ハ社会ノ基本ヲ破壊スル

目的ヲ有シ其危害ハ一國全体ニ波及スルモノニシテ其犯罪ノ区域至テ廣クシテ其

危害モ又々甚々大ナリ其犯罪ハ社会ノ治安ヲ維持スル根本トナリ居ハ政府ヲ動

カシトスルモノニシテ國ノ統治權ヲ破壊セシトスルモノナリ國ハ統治アリテ初メテ人民

ノ安寧ヲ得ルニ至ルト云フナラハ其統治權ヲ破壊スルハ一國全体ノ安全ヲ妨害

スルモノナリ然ラハ則チ犯罪ノ中尤モ恐ルハハ國事犯ナリト云フモ過言ニアラス如

シ重キ犯罪ヲ減セントスル刑法ノ主旨ニ余ク及スルモノナリ若シ夫レ國事犯カ果シテ世人ノ妄想スル如ク名譽ナリトモハ寧ロ刑法ヨリ削除スヘシ名譽事業ハ人ノ好ム如クリ國事犯罪ニテ名譽犯罪トナカハ何人モ之ヲ行ヒ社会ハ遂ニ破壊スヘシ如何ナル理由アルモ如何ナル道理アルモ苟クモ刑法ニ罪ヲ犯シテ尚犯人ノ名譽ニナルヘシト云フニ至リテハ到底刑法ノ威信地ニ墜ツル至ラン此故ニ余ハ世人ノ妄想ニ及シ國事犯ハ常事犯ヨリ其罪大ニシテ尤モ嫌疑スルハキ性履ヲ有スル罪ナリト云フテシモ之ヲ優遇スルノ理ナシト信ス寧ロ常事犯ヨリ之ヲ冷遇スルノ優レハアルヲ知ル諸君者或ハ國事犯ハ個私ニ原因スル罪ニアラス國家ノ利害ニ干スルニトシテ實施セントスルニ原因ス故ニ高尚ナリト若シ果シテ之ヲ真ナリトモハ我國ノ外國ニ賣ルモ尚名譽罪ト云フテ後身ノ論者ノ言フ如取ルニ足ラザリナリ故ニ常事犯ト異ナル刑ヲ加フルノ必要ナキナリ然レ余ノ議論行ハス

第百廿二條ニ政府ノ団体ニ對スル罪ヲ規定ス此第一項ノ規定ヲ今折シニ各條件トナス

一 内亂ヲ起スコト

二 朝憲紛亂ヲ目的トスルコト

第一條件 内亂

内亂ハ詞ニ自テ解釈ノ困難ヲ生ス内亂ナリモハ如何ナル行為ヲ云フカ内亂トハ國政ニ於テノ戰爭ノ意味ストナスハ普通解釈ナリ戰トハ如何ナル行為ヲ云フカ今日ノ規則ニ戰ヲナスニ戰ハ法則エテ戰ニテ資格ヲ有ス權利ヲ有スルモノニアラザルハ戰ヲナスコトヲ得ル兵士ニアラザルヨリハ戰ヲナス權利ヲ有ス今兵士ニアラザルモノカ一度目的ヲ達マン爲メニ干戈ノ動カストアリトセシカ此果シテ戰ナリト云フコトヲ得ルカ或ハ喧嘩私闘或ハ騷動等ノ名ヲ付スルコトヲ適當トス然レ此ニ對スルニ戰爭ノ名ヲ以テスハ道理不可ナル如クナリ疑フ

此解釈ニシテ穩當ナリシハ此如ク用ル内亂ノ字ハ稍々正鵠ヲ欠ク故之ヲ解スルニ騷動暴動等ノ意味ヲ以テスハ適當ナリト信ス此理由ヨリ草案ニモ暴動ナル文字ヲ用クタルナリ其結果及令兵隊カ内亂ヲ起スモ苟クモ天皇ノ命令ニ依ラザル出兵ナラハ全シノ暴動ノ名稱ヲ下スヘキモノト信スルナリ之ニ付テ實際奇談アリ今台灣ニ於テ屢々暴動アリ然レ總督府ハ兵ヲ動カス之ヲ正セハ一理アリ即テ兵ヲ動カスニ兵法ニ依ラザルハカラス又地形ニヨルモ兵ヲ動カスコト困難ナリ却テ憲兵ニ巡查方宜シト云フニアリ

第二章 朝憲紛乱

之ヲ明カニスルニ先テ一言セシテ然則於テ犯罪ニ罪ヲ犯スノ意思アリテ罪ヲ犯
スハ常ニ之ヲ罰スルコトヲ得犯罪ノ意思ノ依テ起リシ原因ハ敢テ尚フ如ニアラヌ
然レニ國事犯ニハ犯罪ノ依テ起リシ原因ヲ問フナリ國事犯ヲナス意思ノ依テ
起ル目的即朝憲紊乱ト云フモノヲ構成条件トナスナリ目的即テ一ノ犯罪
構成ハ一ノ元素トナリ居ル故此目的ナクニテ凶乱ヲ起スハ刑法ハ之ヲ罰スルコ
ト得ルコトアラヌヤ或ハ他ノ犯罪ヲ以テ強テ罰スルコトヲ得ハキモ凶乱トシテ之ヲ
罰スルコトヲ得ルハニ

朝憲紊乱トハ如何ハ行爲ヲ云フヤ朝憲ト云フ文字ハ何ノ指スヤ欧州ニニ
刑法ヲ見ルニ此場合ニ於テハ大抵國ノ憲法ヲ破壊シ若シハ停止セシメントスルモ
ノヲ指ス吾日本刑法モ果シテ憲法ノミヲ指スヤ果シテ憲法ノミトマハ皇室
典範ノ廢止若クハ天皇ノ廢止皇太子ノ廢止ヲ謀ルモアラハ朝憲中ニ入ラサ
ハヤ決シテ其然ラサルヲ知ルハニ然ラシテ法律ハ天皇ノ法律ナラハナシ然ラハ天
皇ノ法律即朝憲ナリト云フモ不可ナシト云フハ之レカ廢止ヲ謀ルモアラハ之
レ凶乱ヲ謀ルト云フカ茲ニ至テ朝憲ノ文字ノ辭根ニ付テ困難ヲ生ス然レノ

法律中ニテ朝憲トシ朝憲トモサルモノト甄別スルコトヲ得ス思フニ朝憲ナル文字
ハ國家ノ基本ヲ規定シタル法律ヲ指シタルモノナラシ然レ此辭根モ根柢薄弱
ナリ果シテ余ノ云フ如クナラハ憲法皇室典範ヲ朝憲ト云フモノナラン然レ余ノ辭
根ノ根柢ニナリ政府ヲ転覆シ邦上ヲ濫竊シトナリ此ハ朝憲紊乱ノ例ヲ示シ
タルモノナリ其例ヲ示シタルハ我刑法中多クマア一即共犯ノ怒ニ於テ(笑則)然レ
ウ如シ此政府ヲ顛覆シ邦上ヲ濫竊ストハ朝憲紊乱ノ一例ヲ示シタルニ過キ
サルナリ而シテ朝憲紊乱ノ例示トナリタル政府顛覆トハ如何ナル行爲ヲ
云フカ之レ又想像ニ浮ク事又ルモノナリ先フ政府トハ如何統治權ノ機關ナル
怒ナリ統治權ヲ行フヤハ天皇ヨリ内閣大臣其他全國ニアル官有ニ至ルマテ
皆テ之レ政府ニアラサルハナシ然ラハ政府ノ意味ニ至テ廣ク内閣ノ更迭ノ計ル
コトモ大ニテハ我日本國體ノ變更ヲ計ルコトモ下テハ縣廳ノ官吏ヲ逐フコトモ
小ニテハ巡査派出所ヲ襲フコトモ凶乱ト云フカ外國刑法ノ議論ヲ見ルニ先フ
此日本刑法ノ政府顛覆ニ當ルコトニ付テニ此ノ意味アリトス即テ一ハ革命ハ
凶亂ノ變動ナリ

革命ハ支那ノ歴史ニ文字ナリ支那ニテハ時マ一國ノ主宰者ニ變更アリ其場合ニ

若し姓ヲ異ニスル主宰者代テ統治推テ握リニ命草マハト云フ命トハ即チ天ノ命ノ意味ス故ニ革命ナハ詔ハ一國ノ國体ノ変更スル場合ニテ日本ノ國体ク今日ノ國体ニテラザル他國體ヲ起サントスル目的ヲ以テ改メテ起スハ政府顛覆ノ一行ヲナリ他國體ノ變動ニテラス其國ノ概然タル内閣大臣ニ變更セントスル目的ニテ改メテ起スハ政府顛覆ノ一ナリト論セシムルアリ果シテ此議論ヲ現行刑法ニ當テ得ルハ此政府顛覆ニ付テハ文字上奪者ノ云フ第一ノ革命ノ場合ハ之レヲ蓋ニ包含スルモノニテラザルハ何ナレハ政府トハ天皇ノ命ニヨリ國分ノ取ル人國體ヲ指シヌルモノニテラ一建造物ヲ指シヌルモノナリト信ス故ニ此意味ハ只内閣大臣ノ更迭セシムル目的ヲ以テ云フト信スルナリ從テ某知事ヲ更迭シ巡査ヲ代ハタル如キ一之包含スルモノトスヘカラス然ラハ國ノ革命ノ文字ハ如何政府顛覆中ニ入ラザルモ朝憲ニ紊乱中ニ入リモ故無論之ヲ四訓スルコトヲ得ルナリ

封土濫竊

此行為ニ之ヲ想像スルニ困難ナリ今仮リニ台灣ノ總督ク反ストモハ封キ土濫竊ナル國ノ土地ノ大抵一己ノ所有權ノ目的ヲ以テ國自ラ所有スル土地甚ク少シ

今一己ノ所有スル地ノ竊ハ一得其場合ニ封土濫竊スハト云フコトヲ得ルヤ此ノ如ク解スルハ封土濫竊ノ意味ヲナリハナリ此意味ヲ解シテ日本國ノ或部分ニ於テ主權ノ交通ヲ遮断スルノ意味スト為スナリ此ノ如ク或ハ政府ノ閣臣ノ更迭セシメ或ハ主權ノ布及ノ妨ケハハ如キ行為其他之レニ準スル所ノ行為ハ即チ朝憲ニ紊乱スト解スルナリ

此目的ヲ達スルヲ為メ改メテ起スハ國事他々ハナリ若シ此方法以外ノ方法ヲ以テ改メテ起スハ内亂ナリトシテ四訓スルコトヲ得ス國民權利ニヨリテナスカ如キ決シテ罪トナラス此目的ヲ以テ此行為ヲナスハ初メテ改メテ起ス

刑法ニ不法ノ方法ヲ以テ政府顛覆ヲ計ル云云トナリ此ノ改メテ起スハ故不法ノ字ヲ要セス、ホムラシド、(一)ノ法ノ字ヲ要スルモ我刑法ニハ改メテ起スハ故不法ノ字ヲ要セス、ホムラシド、(一)ノ

Hand) 此内亂ヲ罰スル制裁ヲ四種トス吾刑法ノ制裁ヲ合テハ特色ナリト信ス余ハ罪ノ輕重大小ニヨリ刑ノ輕重アリトモハ國事犯ニ付テモ然ルハナリモナリ共犯ニ於テハ各共犯人ノ於テ其責任ノ輕重ヲナスハ当然又ハモナリ但シ其區別ノ中ニ責任者ノ撰ヒ方ニ付テハ此難ナリ第一區別ハ可ナリ首魁教唆者ハ死刑トナスハ可ナリ何故此等ノモノヲ死刑トナスカ筈則シ共犯例ニ讓リテ可ナリ即チ教

唆者ハ正犯トス思フニ國事犯ハ殺人ノ共謀犯ニテ共犯ハ尤モ著名ナルモノナリ而シテ
 共犯ノ所為其ノモトニ付テ之ヲ見ルハ首魁ハ多ク自ラ其犯罪行為ニ手ヲ下スコト
 至ラズナシ坐シテ謀ラシメテ居ルコト多ク故ニ若シ共犯例ニ讓ルハ首魁
 ハ手ヲ下サハル故之ヲ罰スルコトヲ得ルハハシ故ニ首魁ニ付テハ何事ヲナスナキモ首
 魁トシテト云フ条件ニテ死刑ニ値ストナラハナリ而シテ此教唆者ニ付テハ如何
 何ノ教唆シタルモノヲ云フ乎凶乱ヲ起セト教唆ニ加入シヨ金ヲ出セト教唆シタル
 一トヒテ若シ正確ニ云ハハ是等ハ皆今等ニ罪ヲ受ケサハハカラサルハハ然レド
 乱ニ付テハ教唆罪カ尤モ恐ルハハモトニテ凶乱ハ教唆ニヨリ多ク成立ツモノナリ故
 ニ教唆者何等ノ教唆ヲナスモ皆之ヲ死刑ニ処ス即チ教唆者ハ特別ノ性質
 ノモノトナセリナリ

前四ニ於テ國事犯ノ責任者ノ區別ニテ四種トナセリ我刑法ノ特色ナリ次ニ
 教唆者ハ後則ニ支配ヲ受ケハカラサルモノアルヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタルナリ其ノ
 教唆者ノ向敷ハ現行刑法カ注意過キタル為ニ却テ不条理ノ規則ヲ設ケ
 ルニ至レルモノナリ

教唆ハ一定ノ目的ヲカハハカラス其一定ノ目的ヲ実行シタルモノカ正犯トナリ正犯カ

テ初メテ教唆主ス故ニ國事犯ニ於テモ又教唆ノ目的トナリタル正犯ヲ受メテ
 而シテ後ニ教唆ヲ議ヒリルハカラス此ノ如クスレハ無論教唆ハ後則ノ規定ニ從ヒテ
 次ニ不可ナシ然レニ現行刑法ハ國事犯ニ對スル教唆ヲ惡ク甚メシキ前モ教唆
 者トナリタルモノハ其教唆ノ區別如何ノ間ハ悉ク之ヲ死刑ニ處ストナリ各國ノ刑
 法ヲ比照スルニ國事犯ニ對シテハ其所為ノ大小輕重ヲ問ハス各犯ニ對シテ單一ノ刑ヲ
 科スルモノニシテ若其例ヲ取リタルモノトスレハ後則ノ教唆者ニ對シテ單一ノ刑ヲ科
 スルモ敢テ不可ナリ所ナシ然レニ各國刑法ニ及ニ國事犯ノ種々ノ區別スルノ主義
 ラトリ独リ正犯者ニ四種ヲ立テ之レク教唆者ニ單一ノ刑ヲ科スルハ如何教唆ハ正
 犯ノ刑ヲ科スルナリ教唆ハ正犯ノ四種中ノ最上級ノ刑ヲ科ス余ハ正犯ノ區別スルノ理
 由ヲ認メタル以上ハ教唆者ノ責任ヲ區別セリハハカラスト信ス之ヲ換言スレハ教
 唆者ニハ四種ノ區別ヲナサハルハカラストナリ

果シテ此ノ如クスレハ教唆罪ハ後則ニ支配ヲ受ケ不可ナリ故特別ノ規定ヲ設ケ
 ルノ理由ナキナリ刑法ノ規定ニ於テ兼護スルノ必要ナシ

其他極要ノ職ニ任ズルモノヲ罰スルノ規則ナリ群衆ノ指揮ヲナシタルモノノ責任
 ニ付テハ又次ニ刑法ヲ批難セサルヲ得ス刑法ハ群衆ノ指揮ヲナスモノハ皆全一ノ

地位ニアルモノトス然ルニ實際ニ於テハ群衆ノ指揮ノナラズモ全一ノ地位ニアルモノトナスハカラス旅團長、師團長、大隊長トアルハ皆全一ノ一部ノ長ナリ其長ノ責任皆一トナス故ニ刑法上ニテ誤リ群衆ノ指揮ヲナスコト第ニ項ノ適用ノ眼目ナリ其權衡ニ於テ誤リト云フハシ徒フ其他權要ノ職務ヲナシタルモノト云フニ付テハ殆ト其意味ノ際限ヲ知ルニ得ス只各場合ニ事實ニ於テ裁判官ノ認定ニヨリテ知ル外ナシ

第三項ノ兵器金穀ノ運送ニ從事セルモノハ此責任者ニ付テモ大ニテ現行刑法ニ考メテ是ラサルルアラハカラス疑フ兵器金穀ヲ供給スル者ヲ以テ指揮者ヨリ控ヤモノトナリ凡ソ兵ヲ遣ルニ元モ必要ナルハ輜重ヨリ輜重ノ供給ニ置キテ得ハ兵ニ以テス勝ツ故ニ軍事ニ付テハ兵器金穀ノ供給者ハ常ニ卓越ノ人ヲ以テス乃ケ其ノ要ナルコトヲ知ル此ハ戰地ニ運送スルモノヲ含ム運送ニハ戰地ニ陸上ニ又戰場ニ運ハルハカラス普通ノ場合ニハ運送ノ途ニ置キテ此戰時ニ於テハ普通ノ運送ノ途ニ取ルモ困難ヲ知ルニ足ル其要務ニ任スルモノヲ群衆ノ指揮者ノ下ニ置ク不為ナリト云フハシ

第四項此ハ刑期カ大ニテ長ニキニテヤカルカヲ疑フ

第二の場合 個人ニ対スル犯罪

個人ニ対スル内乱ハ第百廿三条ニ規定ス
政府ヲ変乱スル目的ヲ以テ云マトアル百廿三条殺人罪ニ付テハ身体ニ対スル罪ニ於テ規定ス人ヲ殺ス意思ニテ人ヲ殺シタルモノハ故殺謀殺ヲ以テス併シ人ヲ殺ス目的カ政府ヲ変乱スルニテハ故殺謀殺ヲ以テス論ニス内乱罪ヲ以テスレテ論ス法律ノ規定ハ明確ナルカ故ニ今日内乱ノ目的ヲ以テ人ヲ殺カハ此規定ヲ適用スルニ此規定ハ立法ヨリ本条ノ觀察スルハ之ヲ可トスヘキカ不可トスヘキカ余ハ本条ノ規定ハ不可ト信スルナリ

古ヨリ一國ノ命脈ヲ變動セシメテ為シ辱々暗殺ノ企テヤルモノナリ之ハ和漢西洋ニ連シ歴史中ニ辱々見ハ所ナリ也氏目的ニ一國ノ変乱ヲナスニテ暗殺ノ結果ハ未ダ嘗テ一國ノ變動ヲ来セルコト甚メテ始メトナシト云フテ可ナリ中世紀ノ頃伊不利ノ乱レテ麻ノ如ク暗殺セシメテ行ヒタリヨシユレト歴史ヲ作ル其時代ノ政事家ノ詳ニテ曰ク以テ不利ノ犯人ハ一國ノ命脈ノ一己ノ手裡ニ繫カレモノトナスハ誤レリト此語ハ格言ト云フテ可ナリ一國ニ在リ政府ヲ握有シ政權ヲ擅ニスルモノハ一國ノ命脈絶ハ變化スヘキト信スルハ事實ナリ也一國ノ政事ハ

一人ノ命脈ニ繫ケタルモノニアラス。寧ろ國ハ之ヲ為シ益々強盛トナリニテハアリ
 只一國ヲ其人ノ死ノ為メ衰フルコトアルモ其ハ生存中多クノ瑕瑾アリニヨル若シ
 果シテ然ラハ仮令殺人ノ目的ヲ以テ人ヲ殺シテ一國ノ変乱ヲ起スルコト云フハ
 ラス一國ノ变乱ヲ一人ノ死ノ為メ引起スルコトモハ何故殺人ノ目的ヲ以テ内乱ト同
 視スルコトヲナセシカ若シ目的ニヨリテ以テ犯罪ノ性質ヲ変スルコトハ必要トハ親
 ノ仇ヲ打ツノ目的ヲ以テ一罪ヲ設ケサルハカラス凡ソ犯罪ノ目的ハ犯罪ノ構成要
 素ヲナスモノニヤラス只刑法ハ其禁セントシ命令セント欲スル処ノモノニ背反ス
 ハモノヲ罰スル可ナリ故ニ殺人罪ヲ課セルハ其殺人ノ目的ヲ親ノ仇ヲ報シ又政
 府変乱ノ目的ニアルモ又所有権ヲセズノ目的ニアルモ殺人犯トシテ罰スルハ可ナ
 リ別ニ國事犯トシテ罰スルノ要ナレ畢竟本条ヲ設ケタルハ歴史家ノ批評
 ニ及レタルモノヲ設ケナリ
 之レト全ク第百廿二条ノ場合モ同一論結テ下スコトヲ得之ハ元来強盜犯ナ
 リ強盜犯ハ國事犯トナリシナリ兵器彈藥其他云々トアリ即暴行及脅迫
 トアリ他人ヲ嚇カシテ物ヲ取ルモノ等全ク強盜ニ過キタルナリ
 人ノ財物ヲ強盜ニスルモノニ對シテ國事犯ナリトシテ之ヲ尊ハハ不理ナリ顧フニ

立法者ハ兵器彈藥船舶トアリテ大抵政府ノ所有物ヲ指サントスルニアラザリシカ
 政府ノ所有物ヲ奪フハ内乱ノ端緒ト云フモ不可ナシト云フニ在リシナラン然レ此等
 ハ必ズシモ政府ノ所有物ニ限ラス殊ニ兵器ト現在軍隊ノ有スル兵器ト只民間ニ有
 スルモノモ兵器ナリ而シテ民間ニ於テ兵器ヲ有シ製造スルモノナシ彈藥船舶ニ於
 テモ又然リ民間貯藏者ノ此等ヲ強奪セハ強盜タルナリ若シ強盜ヲナシテ國事
 犯タルコトヲ得ハ強盜ノ名ヲ國事犯ニ藉リテ名譽アル人トナラントスルモノアリ
 現ニ此刑法制定ノ當時ニ國事犯流行セリ名ヲ國事犯ニ借リタルモノ多カリシニ
 第三場合 豫備陰謀ノ場合

刑法ニ於テ豫備以下ノ所為ハ之ヲ罰セザルヲ原則トシ此原則ハ例外ナシ然レニ
 總則ノ從犯ノ場合ニ豫備ノ詞アリ又第百廿五条ノ場合ニ此詞アリ猶此論者
 從犯ヲ罰スルハ之ニ豫備ノ場合ナリ又第百廿五条ニ豫備ヲ罰スルノ例外ナリ
 トス余ハ此ノ如キ辭款ハ刑法ノ主意ニ違ヒサレト信ス
 刑法ニ於テハ之ヲ罰スルノ所為ヲ規定スルニ當リ二ツノ區別ヲナセルカ如ク男ハル犯
 罪ノ結果ヲ合セテ一既遂罪トナシタル場合アリ或ハ或所為ノ成立ノ所為ヲ既
 遂罪トナシタルモノアリ(結果ヲ與ス殺人罪ハ其罪ヲ成立セバ已遂ナリ)勅令

偽造官用印盗用ノ如キハ之何ノ結果ナキモ他罪ヲ構成ストスル罪ノ豫備
ノ所為ヲ罰スルモ此理由ニ等シ或ハ豫備ノ所為ハ之ヲ罰セサルモアリ而シテ本
場合ハ或ル犯罪アリテ此犯罪ニ対シテ考フルハ恰モ豫備ノ如ク考ヘラハ如キ
場合ナキニアラサルモ刑法ハ此豫備ヲ罰スルニ至ラザル犯罪ノ豫備タルニアラ
スニテ其所為カ已ニ豫備トシテ社会ニ害害ヲ存スルアルヲ以テ其害害ヲ一ノ
犯罪行為トナセシナリ今試ニ兵ヲ招集シ兵器金穀ヲ集ムルモノアリトモハ兵
隊ヲ招集スルヲ見ルナラハ人民ハ恐マツテ其職業ニ専ラセラルヘシ金穀ノ供給
モ又又全シカラシ此故ニ法律ハ兵隊招集ノ事實カ已ニ社会ヲ紛乱スルニ足ルモ
ノナリ金穀ノ準備ク社会ヲ乱スニ足ルモノトナシ此ノ所為ヲ以テ充分ナリトシ此
処為ノ發生ヲ禁セシトスルナリ即チ豫備ハ豫備ノ所為其物ニシテ社会ノ害
スル價アル故其ヲ特別罪トシテ罪セントシタリ故ニ豫備ノ所為ク重罪
ナリトモハ豫備ノ所為ノ着手カ未遂罪ヲ構成スルニ足ラサルハ之ニ至ラズ解
釈ニ從ハハ豫備ノ所為カ或特別ナル処為トスルモノトモハ豫備ノ着手カ未遂犯
トシテ罰セサルハカラス陰謀ニ於テモ又即チ陰謀ハ未タ人ノ意中ニアル故犯罪
ノ主思ハ之ヲ罰セサルカ原則ナル故原則上之ヲ罰スルヲ得ス然レシテ罰ス

开

ルハ原則一例外トシテ罰スト説明スルモノアリ然レ刑法ニ於テ犯意ヲ罰スル場合
全クナキニアラズ未遂犯ノ規定ハ犯意ヲ罰スル例外ナリト信ス未遂犯ノ規定ノ外ハ
全クナシ本条第二項ニ於テ陰謀ヲ罰スル規定ハ固事犯ノ意思ヲ罰スルニ依リテ
陰謀ノ所為ヲ罰スルナリ
現行刑法ニテ陰謀ノ定義ヲ下サズ故ニ其意義判然セズ又ハ刑法ハ定義ヲ下シホ
ルラントモ定義ヲ付セリ今西者ヲ参照スルニ陰謀トハ二人以上ノ固事犯ニ付テ
根議(通謀)ヲナシタルコトヲ云フアリ外國刑法ノ規定スル所ニモニ依リテ或ハ
二人以上ノ通謀ヲ意味スルニアラザル者一人ノ内乱ヲ起シトスルモ未タ意中ノ
事項ハ之ヲ發表セサルナリ其間ニ於テ社会ハ刑罰權ヲ行フ理ナシ社会ト其一人
ト同等ノ干係ヲ生セサルニ刑罰權ヲ行フコトヲ得サルナリ故ニ单独ノ陰謀ハ社会
ハ刑罰權ヲ行フコトヲ得サルナリ然レハ人ノ单独ノ意思ニ止マリタルニアラズ二人以
上ノ通謀ノ意思ハ恰モ地中ノ埋没アル地雷火ノ導火線アルト全シ通謀ノ処為アル
ナリ初メテ内乱ノ爆裂ヲ見ルナリ故ニ通謀ノ罰スルナリ此場合二人ノ意思ヲ罰ス
ルトモアラザルナリ

第百廿七条 第百廿八条 場合

刑法

第百廿七条の場合其性質は從犯ナリ只從犯ト異ル所ハ犯罪ヲ補助セムコトノ
 此場合ニハ集會場ニ供給スル一罪ヲ構成スルナリ補助ヲナスコトナリルコトハ
 其ノ從犯ノ場合ニハ器具ノ供給ヲナスコトニ合ハス此ノ犯罪ハ器具以外ノ不動產
 ヲ給與シ補助ノ爲メナリ故ニ從犯ト異ル故ニ此規受ハ必要ナリ
 第百廿八条ノ規受本条ハ内亂罪ヲ以テ特別ノ犯罪トナシタル結果ニ外ナラス内亂
 ニ干渉ナキ犯罪ヲ行フナラハ此ハ内亂罪ニ包含スルモノトシテ之ヲ罰スルコトヲ得ヌ
 然レ本条ノ適用ニ難カラシム内亂ノ目的ニ干スルト否トハ困難ナルモノナリ内亂ノ
 目的ニ全ク干渉ナキ行爲ヲナスコトアリ又全ク干渉アルモノアリ其内亂ノ當時ニ判
 断スルコトヲ得ルナリ然レ本条ノ説ニ從ヒ第百廿九条第百廿六条ノ條スレトモ
 ハ此ニ条モ不用ナリ

第ニ款 外患ノ罪

此外患ニ干スル罪ハ或ハ詳ニキニ失スル起アリ或ハ疎ニ流ル、起アリテ殆ント講義
 目的トスルニ足ラサルモノアリ故ニ之ヲ論スルニ陸海軍ノ刑法ヲ对照スルノ要アリ

(補充前ノ内亂罪)

陸軍刑法第百廿九条

軍人虎ヲ結ビ擅ニ兵器ヲ執リ反亂スナス者ニマノ規受ト刑法第百廿一条ト殆
 ニト今レ普通刑法ハ普通人ヲ支配シ軍律ハ軍人ヲ支配ス内ハ軍人ハ軍人ノ
 ニラ罪ヲ犯シ普通人ハ普通人ノノテ犯罪セハ可トルモ然レ實際軍人ハ普通人ト
 罪ヲ侵ニシ普通人ノ軍人ト罪ヲ侵ニスルコトアリ軍人ノ若シ軍人ノ虎ヲ結ビ兵器
 ヲ執リ反亂スレハ軍律百廿九条ニテ罰スルコトヲ得ハシ而シテ普通人モ軍人ニ加担セハ
 今シテ百廿九条ニテ罰スルコトナリ然レハ普通人ハ第百廿一条ニ範圍ヲ有ス犯罪ヲ犯ス目
 的ハ朝憲紊亂ニアリ其所爲ハ百廿九条ノ規受ニアリ此場合ハ何規受ニヨリ罰
 スハキ是第百廿九条ニテ此場合ニハ余ハ普通人ニ付テハ普通刑法ヲ適用シテ罰スルコト
 ナリ如何トモ軍律ハ軍人ノ虎ヲ結ビ反亂ヲ計リシハ何規受ニ普通人ノ反亂ヲ規
 定セス故ニ普通人ノ犯罪ノ意思ハ朝憲紛亂ニアラハ夜令軍人ト供ニ干スモ普
 通刑法ニテ反亂スルハ此朝憲紊亂ノ外ノ目的ニテ軍人ト共ニ反亂ヲ計ルハ
 何ヲ以テ罰スルコトナリ軍律ハ軍人ニテラサレハ適用セズ軍律第三條ニ普通人ニ適
 用セバハ第百廿九条以下ニ限ル故ニ普通人ハ朝憲紛亂ノ條件ヲ欠ク故ニ之
 ノ百廿一条ニテ反亂スルコトヲ得ヌ又軍人ニテラサル故ニ百廿九条ニテ反亂スルコトヲ得
 廿八十一

又普通人カ内乱ヲ起シニシテ軍人カ之ニ加担セリトモハ之ト軍人ト罰スルニハ普通
刑法ニヨルカ軍律ニヨルカ普通人ハ勿論百廿一条ニテ罰ス軍人ニ付テハ百廿一条ニ
軍人虎ノ結ニ反乱セルモノナリ此場合ニハ若シ其軍人カ叛意ヲ乱ラ目的トシテ
内乱ヲ起リハ内乱罪ヲ以テ罰ス之不可ナシ若シ軍人カ他ノ目的ヲ以テ普通人ト共
ニ反乱セル中ハ目的ナキ故第百廿一条ニヨリテ得ス五十条ニテ軍人虎ノ結ヲ
ニテラス故ニ其条件ヲ欠ク故ニ該条ヲ適用スルコト得ス(此ニ因テ諸君ノ研究ノ材
料トシテ残ス)

外患罪ヲ區別シテ四トナス

第一、本國ニ抗敵シタル場合

第二、軍用品ヲ敵國ニ交附シ又ハ機密ヲ洩シタル場合

第三、軍需ノ欠亡ヲ生ゼシメタル場合

第四、局外中立ノ布告ニ違反シタル場合

凡ソ犯罪中残酷ナルモノアリ破廉恥ノモノアリ就中最破廉恥ニシテ最残酷
ナハ罪ハ此外患罪ナリトス詐欺取財ハ人ヲ欺キ一部ノ財物ヲトリス過キス外
患罪ハ一國ヲ賣リテ依テ以テ財物ヲ得ントスルモノナリ信義ヲ背スル爲中國

ニ対スル信義ニ背反スルノ罪ナリ

而シテ國ノ防禦タル兵カヲ表沮セシムルニ至ラシムル之レ國ヲ亡ス行爲ナリ人ヲ殺ス
ヨリ國ヲ殺スハ尤モ残酷ナル処爲ト云ハカハカラス故ニ犯罪中最廉恥ハキハ
此罪ナリ國事犯ヲ以テ名罪罪、如ク論スルモノアリ然シ其論者ハ外患罪ニ
対シテハ國事犯ノ名譽ヲ与ルコトヲ得入然ハ現行刑法ハ共ニ之ヲ特別ノ規定ニテ
中罰セントスルニ至リテハ犯罪ノ主旨ヲ混スルモノト云フハシ

改正草案ニハ内乱罪ヲ犯スモノハ死刑以下ニハ皆禁錮ノ刑ヲ科スルモ外患罪
ニハ死刑又ハ懲役ヲ課スルコトハセリ此外患罪ハ多ク軍人ノ賣買特許ニ屬ス
ル罪ニシテ普通人ノ多ク犯スルハサルモノナリ故ニ此外患罪ハ寧ロ悉ク軍律ニ
讓リ普通刑法ヨリ劇陣人ハト論スルモノアリ若シ事實ノ想像ヲナセハ外
患罪ト雖モ普通人モ之ヲ犯シ能ハサルト云フコトナシ故ニ刑法ハ只其比優マハ場
合ヲ慮リ之ヲ現行刑法ニ規定シ草案ニモ又ハ齊セサルナリ特ニ草案ノ現
定ニヨリ共犯例ノ新マルニ至リ猶普通刑法ノ適用多シ軍事裁判所ニテ普
通刑法ノ共犯例ヲ採用セントス然ラハ尙普通刑法ノ適用多シ
今日普通刑法ノ適用又ハ軍律十三條アル故ニ敵前軍中云々トアリテ外患

罪ヲ犯セハ普通人モ軍律ニヨリ処罰スルハナリ只軍中敵前臨戦合圍地以外
ニ於テナラズ場合ニ限リ普通刑法ヲ適用スルモノナリ

第一場合

外國ニ組ミテ本國ニ抗敵スル外國ト交戦國ニ合盟スル場合

此場合ニトナル戦時ニ於テスル場合ト平時ニ於テスル場合トアリ
外國ニ組ミ本國ニ抗敵スルハ戦時ノ場合ナリ外國ト云フハ未タ我敵國トナシ
ル國ニテ未タ宣戦ノ布告ヲナカル時ノ場合ナラサルハ未タ我敵國トナシ
ラサル外國ニ組ミ本國ニ抗敵スルハ得ルハ思フハ之ハ外國ニテ我國ニ対シテ戦
端ヲ開カシムルト云フノ意味ナラン然ラバ未タ敵國ナラサルモノカ我ニ抗敵スル
コトヲ得ス敵國ナラスミテ我ニ抗敵スルト云フハ今日ヨリ我ニ抗敵スルモノヲ云フ
ナラン

次ニ第二項ハ戦争ニ中ナリ戦時我同盟國ニ抗敵スル場合ナリ然ルハ第一項ハ平

時本國ニ抗敵シタルヲ罰シ第二項ハ戦時同盟國ニ抗敵シタル場合ナリ此ハ

戦時本國ニ抗敵シ平時同盟國ニ抗敵スル場合ヲ欠ク此場合ニハ何ヲ以テ罰ス

ルヤ

戦時本國ニ抗敵シタル場合ハ末項ニ於テ規定ス其他本國ニ抗敵シ敵兵ニ云イ

トアリ故ニ之ヲ罰スルコトヲ得然レニ平時同盟國ニ抗敵シタル場合ニハ何ヲ以テ

罰スルヤ思フニ此同盟國ハ之ニ平時戦時ノ區別ヨリ起ル同盟ハ戦時ノ同盟ナリ

トスト辭釈セザルハカラス國際公法ニハ同盟ニハ戦時ヲ目的トシ然ラサルモノハ

条約國ニ違キス同盟國ト云ハハ戦争ノ目的トス *Anterbellum* ノ戦役 *War*

War ノ *Anterbellum* ニ於テ万国會議ヲ開ケリナボレオニノ為メニ破ラレタ

ル各國領土ヲ復旧セントスルニ至リハヨリハハタレランニ委員タリ會議開ケタ

ルハ其議事ノ各条ヲ論シタルニ當リ合盟ナル文字ヨリタレラン直ニ故障ヲ

入レシメ取除ケリ故ニ千八百五十八年以來同盟ハ交戦中ニ限ルナリ故ニ刑法ノ

規定ハ誤リナシ

此犯罪セ大抵軍人ニアラサレハ犯スコトヲ得ナルモノナリ

第二場合

第二場合モ軍人ニ限リテ犯スヲ多キ犯罪ナリ軍用物ヲ敵兵ニ與フルモノナリ

交戦中ニ敵兵ヲ誘導シテ本國ニ入ラシム交戦時ニハ兵ヲ以テ往來シ守ル故ニ普

通ニ守備スルコトヲ得ス故ニ軍人ナリ又本國ノ都府城堡ヲ守ルモノモ軍人ナリ兵

刑去

刑去

一四

卷彈丸軍人係管係人故此第二の場合普通人之於テ犯スコトヲ得ルナリ
 但シ兵器彈藥ハ平時普通人ノ所有ニ係ルコトアリ又船マ普通人ノ所有ニ係ル
 コトアリ故ニ此第二の場合普通人ノ犯ス場合ハ稀有ナリ只普通人ノ教唆スルコ
 トヲ得ルナリ故ニ本条適用ノ自ラ実行ノ場合ニ當ルナリ即チ教唆トシテ此刑
 適用ヲ見ルコトヲ得ハシ明ラカニ教唆ノ場合ニ於テ「交戰中」ト云フコト本条ノ冒頭
 ニ掲グル文字ナリ茲ニ議論アルモ余ハ此ノ字一宇カ全体ニ懸ルモノト信ス果シテ
 然ラハ陸軍刑法第十三条故シ利スル為メ云々トアリ而シテ第五十三條ニアル故
 之ヲ犯スハ軍律ノ支配ヲ受クルコトナリ

第二場合ノ内機密洩洩ノ犯罪ハ當年合四月軍機洩洩ノ罪トシテ別ニ規則ヲ
 設ケ公布セラレタリ此規則ニ於テ別ニ制裁アル故ニ本条規定ノ支配ヲ受クルコトナ
 ラン

此犯罪セ又軍中敵前若クハ臨戰合出ノ場合ニハ軍人非軍人トナリ軍律ニヨリ各
 ヌ断スル故本条通則ナシ軍律五十一條

此第二場合ニ於テ軍用出テ敵ニ交付若クハ機密ヲ敵ニ識ルニ時ハ或ハ刑法ニテ
 罰スルコトヲ得ヘシ茲ニ茲ニ故ニ交付セシ場合ニ限ルナリ故ニ敵ヲ利スル為メ都府

城堡等ヲ破壊シ若クハ使用スルコトヲ得ル有様ニ至ラシムル時ニ物品ノ毀壞等
 輕キ罪トナリテ刑ヲ輕トス其目的ニ於テ全クモ交付セテサハ輕キ刑ニ及ストナシ

軍律ニ於テモ之ヲ罰ス規定ナシモ久矣トナス

第三場合

此犯罪ハ普通人ノ犯シ得ヘキモノナリ第三百二十二條ニ規定ス此罪ハ有期徒刑ニ及ス
 トアリ余ハ内亂罪ノ場合ニ違ハル如ク戰ノ場合ニ軍需ヲ充テシメルモノノ刑ハ輕
 キニ過ラハコトヲ解テリ之トシテ軍備ノ欠セシマセシメタル時ハ戰ノ敗北ハ明ラカ
 ナリ物品供給ハ軍事上大ニ重要ナリ故ニ第一第二の場合格別差異ナシ故ニ有
 期徒刑トスルハ刑ヲ輕重具トシ得ス

第四場合

局外中立ノ規定ニ違及ニメル者(百三十五條)此規則ハ了解ニ苦ミハ規則ナリ其違
 及ハ如何ノモノナルカ今後リニ英米兩國ニ戰シナストシテ日本ハ局外中立ヲ為ス其ノ規
 則ニ違背シタル行為トハ如何一國ノ具布告ニ違背シタル行為ハ想像スルコト
 得ルモノ一人ノ之ニ違背スルコトヲ想像スルコトヲ得ス此ニ布告トハハ局外中立
 ノ布告其モノニアラズ其中立ノ結果トシテ今時ニ遵守スルハ本項ヲ奉ケテ國民ニ

ホサハルハカラス其条項ニハ制裁ヲ付ス故ニ中五ノ布告ニ背違シタル場合ニモ
本条ノ適用殆ントナシト云ハサルハカラス

尚終リニ一言セン内乱ノ豫備陰謀ハ之ヲ罰スルノ規定アル故ニ之ヲ罰スルコトヲ
得然ルニ内乱ヨリ一層悪クハキ外患罪ニハ此規定ナシ之レ又々現行刑法ノ欠矣
ナリ草案ニハ此規定ヲ設ケメ

又々外患罪甲外國ニ対シ私カニ戦端ヲ開キ云々ノ規定ヲ設ケメリ前述ノ如ク兵
馬ノ權ヲ有セサルモノナカラスコトヲ得ス外國ニ対シテ兵馬ノ權ヲ有セサルモノカ
何ニシテ戦端ヲ開キ得ルカ之レ又々理由ノ説明ニ苦ミヨモノニテ刑法ノ文字当ヲ
得リハモノナリ故ニ之レハ内乱罪中ニ設ケラルハキモノニアラズ一私人カ私ニ暴行ヲ
スルハ其レニヨリテ戦國ニ直ニ攻撃シ来ルコトナカルハ

第三節 兇徒聚集ノ罪

之レモ内乱ノ一種ナリ内乱罪ニ付テハ百二十一条ニ之レカ定義ヲ掲メリ此ノ如ク朝憲
ヲ乱ル目的ヲ有セスニテ暴カヲナセルハ何ヲ以テ罰スルコトヲ得ルカ朝憲紛乱
ノ目的ニアラカル場合ニ於ケル兇徒聚集ノ規定ノ必要アリ故ニ内乱罪ト兇徒
聚集罪トノ區別明カラシ

定義、兇徒ナル語ヲ掲ゲタルハ兇徒ナル資格ヲ有スル人民カ日本中ニアラ

カハカラス疑ヘキ兇徒トハ何ヲ指スヤ若シ兇徒ナル資格ヲ有スルモノアラハ本条ヲ
適用スル場合ニ疑ナシ之ヲ適用スルコトヲ得ルナリ然ルニ兇徒ナル資格ヲ有スルモノ

ナカラニハ如何ニ聚集シ暴動スルモ之ヲ罰スルコトヲ得サルハ故ニ兇徒ハ到底
字ノ如ク解釈スルコトヲ得ス故ニ之レヲ普通ノ人民ト解散スルモノトス草案ニハ多

衆集合ノ罪ト改正セリ此規則ハ五ツノ場合ニ區別スルコトヲ得

第一場合、暴動ノ豫備ニ其ル場合

第二場合、暴動ノ決行ヲナシタル場合

第三、多集衆リテ暴動ノ豫謀ヲナシ官吏カ之ニ対シテ説諭ニテ尚散セザルハ

本条ノ適用ヲナス故ニニ条件アリ

(1) 多集衆タルコトヲ要ス
(2) 暴動ノ豫謀有ルコト
(3) 官吏ノ説諭ニ服セザルコト
二三ノ人々暴動陰謀ヲナシ官吏カ説諭ニテ尚解散セザルモ本条ノ適用ヲ受ケス
又多集衆ノ人カ集リ暴動ヲ企テザルハ解散スルモノ本条ノ適用ヲ受ケス又

一旦集リテ暴動ヲ企テタルモ説諭ニ依リ解散セハ本条適用ノ受ケス此ハ官
吏トハ公吏ヲ含ム法律第百号ニ依リ市町村長モ含ム又首魁及教唆者ハ内
乱ノ場合ノ如ク別ニ規定ヲ要セスニテ遂則ノ支配ヲ受ケルモノナリ

兇徒聚集ノ罪質トシテ犯罪ノ目的如何ハ之ヲ問フ必要ナシ則チ兇徒ハ何事
ノ目的ニ出ルトモ内乱外患ノ主意ノ外ニ於テハ皆本条適用ヲ受ケケルハカラス
暴動決行ノ場合ニ教団ヤリ而シテ之ハ唯刑法ノ例示ニ過キス必スモ為ニ掲グルモノ
限ラザルナリ茲ニ掲グルモノハ官廳ニ喧騒ニ官吏ヲ脅迫シ又ハ村市ヲ騷擾シ

其他暴動ヲナシタルモノトアリ官廳ニ喧騒ニ官吏ヲ脅迫スルハ官廳若クハ官吏
ニ對シテ請願スル如クアル若クハ不平ヲ鳴ラス如クアルカ免ニ官廳官吏ニ對スルモ
ハ抑テ兇ハルモ目的如何ハ本罪ノ重キヲ置カサル故ニ兇徒ノ首ハ官廳官吏
ニ在ルヤ否マハ措テ問フ如クアル例ハ栃木ノ銅山事件ハ傳々本罪ヲ構成セシト

スルノ行為アリ若クハ彼地ノ人民ヲ銅山ノ持主ニ請求セシトスルカ免アリテ又教集リテ
直ニ所有主ニ迫ラントスルハ官廳官吏ニ迫ルニアラザルモ其勢トシテ或ハ沿岸ノ
警署署長ニ押入り警署署長ニ抗敵シタルモ本条ノ罪ヲ構成ス例令警署署長ニ

侵入又ハ官吏ニ抗敵セザルモ其轄下ノ村市ヲ騷擾セハ其目的如何ヲ問ハル
此騷擾トハ何シ云フカ何レニ迫リ騷擾ヲ極マルヲ云フカ多衆ノ通行ヲ以テ市村
騷擾トナスヲ見ルヤ

今日多々教ノ人々集リテ静南ニ運動スルハ之ヲ禁セス小學校ノ運動会ノ如キ然
リ然レハ栃木ノ人民カ一國ノ人民ヲ救ハシカ為メニ多々教集リテモ是又騷擾アリト
云フコトヲ得ス騷擾ト云フハ勿論事實ノ同題ニ屬スルキモノナリト雖モ必ス其

村市ノ安寧秩序ヲ妨害スルノ所為ナカハカラス之レアラハ其ノ大小ノ問ハス騷
擾ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得第百三十八条ニ於テ暴動ノ結果ヲ現安ス暴動ノ
際人ヲ殺死シ云々トアリ殺人罪放火罪ニ依リ現ニ手ヲ下シタルモノヲ死刑ニ処ス

トナス於是百三十七条ニ暴動ノ区域ヲ定マハルヲ得百三十七条ノミニアラハ暴動ハ
何進進ノ程度ヲ云フモノナリトシ得ザルナリ然レ百三十八条ニ依リ殺人放火ヲ
除キ他ノ氏ヲ行為シ暴動中ニ含蓄スルヲ容スルヲ容易ナハハシ

第四節 官吏抗拒罪

本節モ又々之ヲ二分ス

第一場合 暴行脅迫ヲ以テスル抗拒 (三九、一四〇)

第二場合 暴行脅迫ナキ抗拒 是レナリ

第百三十九条 第百四十条 罪ヲ構成スル各件ハ甚ク多シ

第一 官吏タルコトヲ要ス

第二 其官吏ハ職務執行ノ場合タルハシ

第三 暴行ノ脅迫ヲナコルハカラス

第四 其官吏ニ抗拒スルコト是レナリ

第一条件 官吏タルコト

官吏ノ名称甚ク明亮ニシテ其定義非常ニ困難ナリ日本ニテ如何ナルモラ官吏ト云フヤ從來李説ニ於テモ判決ニ於テモ説分レ已ニ大審院ニ於テモ官吏ノ定義ヲ下スコト得ヌ調査委員ヲ設ケ李説ニ照ラシ起草中ナリ

官吏ハ三ツノ區別アリ勅奏判ナリ此ハ古ヨリ唐制ニ倣ヒタル區別ナリ故ニ判任官奏任官勅任官ニ任ラレタルモ何モ官吏タルコトヲ疑ハス然レ困難ナリ所ハ其職務ハ公ケナル事分テ其抹ル所ノ人ノ資格ハ勅奏判ノ別ニ入ラサル所ノモノアリ例ハ巡査小學校教員又ハ御用掛(官内者)雇更等ハ果シテ官吏タルモ否ヤ巡査ニ付テハ内務省令ニ於テ判任官ノ待遇シナストアリ獎勵ノタメ具待遇ヲナスノ者令ナリ此待遇ハ官吏ノ資格ト全ナリト云フ意味ニシテ右クハ唯礼遇ヲ受

クルト云フ意カ現ニ大臣カ職ヲ罷ルル等ニ前官ノ待遇ヲ賜フアリ之ハ唯天子ノ

大臣ヲ遇スルノ礼ヲ以テスルノ意ニ過キス然ラハ巡査教員ノ待遇モ全シカ疑ハレ然レ此

待遇ハ實際ノ必要セヨリ判任官ニ準スルコトノ意味ナリト取ル(才判所ニテ)之ニ付テ

實際ノ困難ヲ来ス御用掛ト並ニ雇 御用掛ニ其等級ニヨリ勅任奏任判任ノ

取扱ヲナストノ辞令ヲ下スコトアリ此取扱ハ如何ニ取扱ハ勅奏判任ト全ノ待遇ヲナス

ニ過キス職務上ノ資格ヲ定メタルニアラスニテ唯官内者ニ於ケル礼遇席順ヲ定メタル

ルニ過キス故ニ其礼遇ヲ受フルモカ果シテ官吏タルモ否ヤ疑ヲ生ス雇更ハ如何

普通ノ解釈ニハ誰レモ官吏ナリト信スルモノナシ特ニ俸給例ヨリ雇 俸給ハ難給ト

云ヒ官内者ニ労働スルモノト全性質ナル俸給ヲ取り居ルナリ故ニ官内者ノ事分テ行

フモモ俸給ヨリ云ハハ官内者ニ雇入タル大工左官ト全シキナリ故ニ一般ノ解釈ニヨリ

官吏中ニ雇入レサハナリ然レハ官内者ノ官制ヲ見ルニ官吏ノ等級ヲ定メ其等級

ノ外ニ等外官吏ヲ設ケ其等外官吏ト云フハ全ク諸官者ノ雇更ニ当ル故ニ西

者衝突スルナリ故ニ疑義ヲ生スルナリ僱官吏ト相對スルモノアリ即公吏ト名付

ケランハナリモナリ此ハ勅令第百号ニヨリ之ヲ官吏ト同視スルコトアリ故ニ官吏公

吏ハ同一ナリ而シテ此公吏ハ果シテ何ヲ指スヤ官吏ヨリモ一層困難ヲナス當時

故勅令ノ出ヌレハ府縣市町村制ノ市町吏ヲ指ス意ナラン故ニ市長助役其他役員
 モ公吏ナラン又公證人モ公吏ナラン市町村ニハ役員並ニ公證人ハ之ヲ公吏ナリト云
 フモハ世人之レヲ信ス然レ諸律ト復員ト聯絡ナシ法律上公吏ナレモ其公吏ハ何
 人ヲ云フヤハ之レモ又現定ナシ事物ト法律ト聯絡ヲ附スレハ唯古人ノ杜撰ニ出ツル
 於是日本ニ云フ公吏ハ如何ナル人如何ナル役員ヲ指スヤ知ルヲ得ス一歩ヲ譲リテ
 世人ノ信仰解釈ヲ採ルモ此公吏ハ殆ト相似スルモニテ疑ノ生スルモナリ例ハ縣
 會議長市町村會議長議長貴族議院ノ議長ハ公吏ナレバ如何市村ノ議會
 於テハ屢々市村長ノ議長トナルトアル故兼務权公吏ト云フヲ得ルモ之ヲ分解ス
 ル中如何又一歩ヲ進メ議員常置委員ハ何ノ資格ヲ有スルカ此等ノ同題ニ至
 リテハ到底解釈スルコトヲ得ルナリ然ルニ實際ノ職各ノ実行ニ於テハ公吏ニアラヌ
 ハハ職各ノ実行ヲナスコトヲ得ルコトナリ

自官吏公吏ニ付テ最困難ナル同題ハ其官吏ノ資格ニ付テノ論ナリ又公務ニ
 關スレ一種ノ事各ヲ行フ為メ特ニ組織スル委員ト云フモノナリ諸試験委員ハ委
 員トシテハ官吏又ルハ公吏又ルハ水産取調委員ハ如何ナル之モノ疑同タリモ
 水産取調官吏ニテモ公吏ニモアラヌト決意スレシ其理由ニ於テハ僕也トシテ知
 コトヲ得ス

余ハ公吏ト云フモノニ付テハ定義ヲ下スコトヲ得ヌ唯ハ官吏ノ名稱ニ付テハ余ノ信スル
 所ナリ

官吏トハ天皇ノ大権ヨリ出テタル委任ヲ受ケテ公ニ義務ニ服従スルモノヲ云フ故ニ天
 皇ヨリ直接間接ニハ公職ニ從事スルモノ任務ヲ受ケタル場合ナラサルハケラス憲
 法ニ於テ天皇ハ文武ノ官職ヲ任免スルノ權ヲ有ストアリ天皇ノ任スル官吏ノ資格ヲ
 作ル原因タル其方法ニ直接ニ委任シ給ヒ又又國令大臣ヨリ任スルコトナリ又議理
 大臣ヨリモ各者大臣ヨリ任スルコトナルモ皆法律ニヨリ委任ス余ハ法律ノ規定ニ任
 ストアリ其任務ヲ受ケタルモ皆ナ官吏トス此外ニ命スルコトナリ命セラルルハ公
 行フモノハ官吏ニアラヌ命令權ハ職權ノ作用ニ過キサルモノナリ命令ハ至テ廉ク例
 ニ過キス天皇ノ委任ノ執行ニアラヌト信ス然ル中ハ總テ官吏ニ委任スルノ証據(辭令
 ヲ得ルモノハ官吏ニアラヌ則テ命令ニヨリ(辭令ニヨラス)職各ノ執行ニ當ル巡查小
 寺教員ノ如キハ官吏ニアラザルナリ而シ之ニ準セラルルナリ故ニ又在吏ハ官吏ニア
 ラス官内者ニ判任官ノ外ニ等外官吏ナルモノアリ此ノ等外官吏トシテ任セラルルナ

ハ官吏ナルモ命ヲ受ケルハ官吏ニ由ラザルナリ例ハ官職アルモ命ヲ受ケルナリ
此等義ニ從フハ公務ニ於ケル委員組織ハ命ヲ受ケル故チ身ハ官吏ノ資格ヲ
有スルモニアラス公吏ニ至ラハ今暫時之レノ説カス

第二条件、官吏ノ職務ヲ執行スルノ要ス
官吏ハ且天皇ノ任ヲ受ケタル以上ハ免マラハマテ官吏タル資格ヲ有ス然レ其官

吏ハ官制上ニ定メ職務アリ其官吏ノ行動スル職務ノ区域ヨリ其職務ハ時アリテ
之ヲ行ヒ又行ハサレトアリ本ノ規則ニ於テノ官吏ノ職務ノ行フニ当リテトアリ故ニ食

時ノ向ハ職務ノ執行ト云フコトヲ得ヌ又又睡眠中ハ職務ノ執行ニアラス又夕休暇中
ハ執行ニアラス(除外アリ)其間ニ於テ官吏ニ對シテ暴行脅迫ヲナスモ官吏ニ對スル

罪ニアラス之ニ及ミテ職務執行中ニハ官吏抗拒罪ナリトス巡查憲兵卒々令狀
ヲ執行スルニ時ニ當テ抗拒セハ本罪ヲ構成スルナリ要スルニ職務執行中ニ抗拒ス
ハコトヲ要ス

第三、暴行強迫ヲナス

暴行ノ意ハ辱マ解款ニ困難ヲ未ス場合ニヨリ此意味ニ伸縮ヲ未スハ此ノ
場合ニハ官吏ノ身上ニ對シテ暴行タルハ官有若クハ官吏ノ事務室ニ暴行

ヲナスモノハ茲ニ云フ暴行ト云フコトヲ得ルハ何トナレハ第四条件ノ官吏ニ抗拒スト
リテ官吏ナル人ニ對シテ暴行ニテ物ニ對スルモノニアラス故ニ人ノ身体ト解スルナリ官吏ノ
居リシ室ニ乱暴スルモ暴行ナルモ官吏ニ對スル抗拒ニアラザルナリ

第二項ハ其職務ヲ妨ケテ為スヘクナリシヲ為シタルモノナリ此等ハ其性質ニ於テ
全ナリ若シ暴行ニヨリ官吏ノ創傷スル時ハ如何之レ百四十条ニ規定スル所ナリ殴
打罪ノ各本条ニ等ラ加ヘタルモノヲ以テ處断スルナリ改ニ抗拒罪中ヨリ殴打創傷
罪ヲ取除クヘキナリ若シ抗拒ニテ殴打スル時ハ其罪ヲ比シテ重キモノヲ以テ各一
等ヲ加ヘテ論スルナリ

此条文ノ重キニ從フト

ハ共ニ実質上一罪ナリトスルノ説ヲ取ルハハ官吏抗拒罪ハ一
罪ヲナシ其方法ニヨリテ又一罪ヲ構成スルナリ然レ刑法ハ二罪ヲ以テ一罪トセリ此ノ解
釈或ハ正當ナラン余ハ此等説トシテハ此解款ニ從フコトヲ得ヌ余ハ刑法ノ条文ニ付テ之
レハ解款ヲナセハ二罪アリトナスナリ故罪俱存ノ變例ニアラスニテ其適用ニ過キヌ
トナスモノナリ何ヲ以テ之ヲ云フカ本条ニハ殴打創傷ノ各本条ニ照ラシテ一等ヲ加ヘ重
キニ從テ處断ストナリ已ニ重キニ從テ處断ストアラハ必ズ輕キモノアラシテ然ラハ本条
ノ抗拒罪カ輕キク殴打罪カ重キク輕重ヲ比スルハ刑法ハ二罪アルナリ認ムルナリ

總テ教罪俱奔、場合ニハ其中ノ重キモノニ付テ罰スルナリ若ニ事実上一罪ナリト
モハ教罪俱奔ハ日本ニナリト、ナレ各本条ノ場合ニハ全キ規程ヲナスラ以テ実
質上一罪トナスハ筈則、教罪俱奔ノ規程ト衝突スルモノナリ故ニ教罪俱奔ノ
例外ナラスニテ寧ロ教罪俱奔ノ適用ヲナスモノトナスナリ

第二場合、暴行脅迫ナキ抗拒(百四十一条)

百四十一条ニ於テ官吏ノ職分ニ對シテ其目前ニ於テ形容若シクハ言語ヲ以テ云々
トアリ本条ノ罪ヲ構成スルニハ二条件ヲ要ス

一、官吏ノ職分ニ對スル

二、目前ニ於テスル

三、形容言語ニ於テナス

第一、官吏ノ職分ニ對スル

此条件ハ前場合ト之ヲ趣ナシテ異ニス第一場合ハ職務執行中暴行強迫ヲ
ナスコトヲ要セストス然ルニ本条ハ職務執行中ニアラス又直ニ其職務ニ對スル可
ナリトスルナリ故ニ職務執行中ニハ現ニ其職務ニ當リテ居ハ際抗拒ニ過ハサレハ其
罪ヲ構成セス然レ唯職分ニ對シテ抗拒罪成立スルニハ唯テ其ノ官吏ノ官

吏ノ資格ヲ以テ有スル所ノ職務ハ殆ト官吏ノ資格ト同時ニ成立スルモノ故ニ官吏
タル身分ヲ有スル間ハ常ニ職務ヲ有スト云フコト得然レハ如何ナル時期如何ナル場
合ニ於テスルモ苟モ官吏ノ資格ニ於テ為シタル侮辱ナレハ侮辱罪ヲ構成ストナ
ラフナルハカラス職務ニ對スルノ誣ハ意味至テ廣シ但シ官吏ノ官職ヲ持テナカ
ラ持ニ其職務ニシテ廢止スルコトアリ例ハ武官若シハ司法官、長官ト職務
ヲ別ニスルモノハ官吏タルモ職務ノ有セザルモノアリ此場合ニハ官吏タルモ職務ヲ有
スルコトナキ故ニ侮辱罪ヲ構成セス

官吏職務ハ其執行中ニ限ラストスレハ其官吏ノ死亡ニタル後又ハ其官吏ノ轉
職ニタル後又ハ其官吏ノ免職ニタル后ニ於テ前官ノ職務ニ對シテ侮辱シ猶ホ
侮辱罪ヲ構成スルカ之等、發生スル固懸ナリ若シ刑法ノ規則ノ學ニ官職ニ對
シテ侮辱セハ云々トナラハ若シ其官制ノ成立シ居ハ間ハ若シ其職ヲ持シ官吏ノ如何
スルモ其職務ハ依然現在スル故ニ侮辱罪ヲ構成スヘシト云フハ此レ刑法ノ規程
ハ明ニシテ官吏ノ職務トアル故ニ第一官吏タルヲ要ス第二其官吏ノ職務ヲ有
スルコトヲ要ス即人ト官職トニアリシ時ニ其人ニ對シテ其人ノ有スル職務トナ
ル侮辱スルニ始メテ侮辱罪ノ成立スル故ニ其人轉官免職タル后ニス唯此職務

ノアリ其人ナキ故刑法ノ所謂官吏ノ職務ニ該當セザルナリ故ニ實際ニ於テ庸テ
転官シタル人ノ前職ニ對シテ人ノ侮辱シタルモノニ對シテ罰シタル判決アルモ之ハ
刑法ノ主旨ニ適シタルモノニアラサルモノナリ

第二条件、目前ニ於テスルコト

此詞ノ文字ニ於テ必ラスレモ困難ヲ免レストモ實際ニ辱々同駭トナル官吏ノ自
前トハ如何ナル場合ナラン文字ニ目前トハ面前ナラン故ニ官吏ノ側面後面ヨリ侮
辱スルモ其罪ヲ成立セサルハト説起ラン又或人ハ之レハ文字ニ争ヒ過キス者モ
官吏ニ對シテ為シタルコトカ明カナレハ可ナリト又タノ疑ハ如何ナル距離ニ於テスルカ自
前ナランカ又其官吏カ侮辱ヲ受ケルコトヲ知リ得ル程度ニ於テスレハ目前ト云フ
ヲ得然ラハ官吏ノ知ラサル場合ニ於テ侮辱セハ侮辱罪成立スルカ
之レハ諸君ノ必ラスシモ知ラサルコトナリ囚人監獄中ニ服役中ニ於テ言語ヲ禁シテ相
互ニ古老ノ官吏ハ種々符合アリテ附号ニテ官吏ノ侮辱セハ時ニ之シ弁見スルコト
得ルモ新ラニキ官吏ハ之ヲ弁見スルコト得ス故ニ目前ニ於ケル侮辱ハ官吏カ必
ス之レヲ知ルコトヲ要スルカ無論多クノ場合ニ官吏ニ於テ侮辱ヲ受ケルコトヲ知ラサ
ル時ハ多クノ場合ニ侮辱罪ノ告訴ナカラン然レバ一侮辱ヲ受ケル人ハ之ヲ知ラ

サルモ見テ居ル人ノ知リ居ル時本人之ヲ知ラサルモ尚成立スルカ余ハ侮辱罪ハ侮辱罪
ノ行為ハ其ニ對シテ之ヲ禁シタルモノニシテ彼レカ之ヲ侮辱トナストナサレハトハ即チ
刑法ノ構成要件タラス要スルニ國民ハ官吏ニ對シテ侮辱ヲナサレハ義務アリ故ニ官
吏カ之ヲ知ルト知ラサルト別ス必ズ之ヲ構成スルナリ故ニ新看守カ侮辱セラレ古看
守見出レハ其罪ヲ構成スルナリ故ニ結局目前タル文字ハ侮辱ヲ受ケ官吏カ知リ得
ルト場合ニナシタル時ハ實際本人カ之ヲ知ルト知ラサルト別ス其罪ヲ構成スルモノ
ナリ

第三、形容若クハ言語ヲ以テスルコト

従来侮辱ノ意義ニ付テモ大困難ヲ生ゼリ即侮辱トハ如何ナル行為ヲ云フカ侮
辱ノ語ハ刑法中ニ於テ其意義ヲ下ニテハ所ナシ唯之レト全ク相似タル所モハ
不敬ノ文字ナリ余ハ侮辱ノ語ハ敬礼ナリ此故ニ即チ論スル所ニ日本ニ於テ普通
人民相互交際スルニ付テ用テラサレ方式ナリ此ノ方式ハ人民相互ニ相侵スル弊害ヲ防フモノ
ナリ此普通ノ方式ハ場合ニヨリ異ル同等ノ間ニ於テ用テラサレ礼式ヨリ又貴賤ノ間ニ用
テラサレナリ皇室ニ對シテ礼式ヲ欠ケハ常ニ不敬罪ヲ構成スル而シテ官吏ニ對シテモ
常ニ普通ノ礼式ヲ以テナサレハカラス然レハ形容若クハ言語ニヨリテ以テ其礼式ノ

欠テノ行為ヲナスハ為ニ侮辱アリトナスナリ故ニ侮辱ハ他ノ場合ニ放ケル不敬罪ニ
 形容若クハ言語ノ条件ヲ附シタル不敬罪トハ当ラスト雖モ遠カラサル解釈ナラン利
 法ハ唯形容言語ヲ以テ制限セリ故ニ而前ニ於テモ形容言語以外ニ例令文
 字等ヲ以テスルモ到底侮辱罪ヲ構成ス古ハ徳川ノ末ニ当リ頗ル奇例アリ醉狂
 ニ業シ官吏ノ外國人ニ服礼スル所ヲ拒ミ捕ヒタリト夫ハ本条ニ入ラス
 猶特別ノ規定ニヨリ目前ニラスト雖モ刊行ノ文書図画又ハ公明ノ演説ヲナセ
 ハ時ニハ侮辱罪ヲナスナリ第二項ニ

刊行トナリ故ニ模写ハ之ヲ犯画内ニ置ク公明ノ演説故公明ナラザルモハ侮辱罪
 トナラス而シテ刊行ニ於テ異議ナシ然レ公明トハ如何ナルモテ意味スルカニ付テ疑ア
 リ公明ナルハ如何ナル場所ニ於ラスルヲ要スルカ頗ル疑アリ余ハ公明ト云フ外ニハ
 必ラス個人モ之ヲ得ルヲ得ル限リ即傍聴ニ限リナキ場合ヲ公明トナス然レ氏
 人ヲ制限スルハ何人モ之ヲ得ルヲ得ス如斯時ハ公明ノ文字ヲ用セテ得ル刊
 行文書図画又ハ公明ノ演説ニヨラカレハ侮辱罪ヲ構成スモトシテ制限シタル故
 文書図画ニ代ルニ偶然ニ以テナス時ハ之レ入ラザルナリ福岡ニ於テ大臣ヲ侮
 辱スル為メニ大臣ニ委似ノ人形ヲ議會ニ擬テ侮辱シタルトアリ之ヲ罰スルコトヲ得
 ルナリ又ハ演劇歌詩ニヨリ時ニ罰スルコトヲ得ス故ニ本条アリテモ其目的ヲ達スル
 コトヲ得ス甚又不完全ナリ

第五節 囚徒逃走罪 及 罪人ノ藏匿スル罪

第一款 囚徒逃走罪

囚徒逃走罪ハ如何ニ性質ノ有ル罪カ是レ罪人ノ逃走スルヲ禁スル罪カ囚人
 逃走ノ禁スル罪カ刑法ニヨリテ見ハ囚人ノ逃走ヲ禁スル罪ナリ徒テ刑法ノ禁セ
 カル限リハ自由ノ行為ヲナスコトヲ得ルハ故ニ罪ヲ犯シタルモハ逃走スルノ權利アリト云
 フヲ得ヘシ若シ犯人ノ逃走スル權利アラハ若シ捕ハルハ其ノ犯人ノ其權利ヲ防衛スル
 コトヲ得ルト云ハカルハカラストノ批難アラシキ之ニ制限アリ官吏ノ職各ニ對シテ抗
 拒セザルニ於テ逃走スルコトヲ要ス又一モ人ノ逮捕權ニ抗対セザル場合ニ於テ
 囚徒ノ逃走ヲ推アルナリ官吏ノ令收テ執行シ之ヲ逮捕セハ無論之ニ意セザルハカラ
 ス又一モ人ト現行タルニ於テ之ヲ逃走スルコトヲ得ザルナリ其他ハ逃走スルモ刑法ハ
 之ヲ罰セズ

然ラハ犯人トナリ一定ノ条件ノ存ニ於テ逃走スルコトヲ得唯囚人トシテ始メテ逃走ノ權利ヲ
 キニスルナルモ故ニ囚人ト非囚人トノ區別ハ囚徒逃走罪ヲ構成スルハ必要ナル要件ナリ

ト信ス
 囚徒トハ監獄ニアリ又ハ拘留状以上ノ執行ヲ受ケル身命ニ在ルヲ云フ此囚人ニ付テ他
 凶別アリ第一ハ已決ノ囚人即刑ノ言渡確定シ其刑ヲ執行中ニアルモノ(死刑ノ言渡
 確定スルハ上奏シ(検事ヨリ)司法大臣ノ許可ヲ得テ執行スル故其才判アルマテ未
 決中ニアルリ如シ其之ヲ入レテ故ニ余ノ受裁ニ漏ルナリ)
 既決凶ハ原則上堅獄内ニ於テ勞役ニ服スルハ唯々獄内ニ於テ拘禁セラルルハ
 リ其監獄内ニアル間ハ監獄ノ即テ拘禁ノ場所ナルカ故ニ常ニ監獄ニアル間ハ囚人ナリ
 トス何人モ疑ハス物レ其既決ノ囚人ハ監獄以外ニ於テ勞役ヲ取ルアリ或ハ一ノ監獄
 署ヨリ他ノ監獄署ニ押送スリコトアリ如斯ク監獄以外ニアリニ片ハ猶囚徒ナリト云フ
 アシ得ルヤ余ハ囚徒ノ外役ニアル場合ニ於テモ又押送ノ場合ニ於テモ決シテ身体ノ
 自由ヲ得ヌルモノニアラヌ外役中ニモ監獄ノ規則ニヨリ看守ガ其自由ノ行動ヲ制限
 シ押送中ニアリテモ監獄ニヨリテ其自由ヲ制限スルモ監獄則ニヨリ自由ヲ制限セ
 リ例令監獄中ニアラサレモ囚徒ナルヲ失ハス故ニ監獄内ヨリ逃走スルモノ外役中又ハ押
 送中ヨリ逃走スルモノ常ニ逃走罪ノ構成ヲ妨ケス若シ又モ囚徒ノ逃走スルニ當リ
 暴行ノ脅迫ヲ行ヒ又ハ監舎監具ヲ毀損スルハ更ニ又加重ノ情状ヲナスモノナリ

我國ノ刑法ニ於テハ囚徒逃走罪ヲ構成スルニ及ス獄舎監具ヲ毀壞スルヲ以テ余
 条件トスルモノアリ故ニ之ヲナカスニテ逃走スルモ逃走ノ權利ヲ認めルモノアリ與レハ囚
 徒トナリテ法律上ノ自由ヲ奪ハレタル以テ又法律ニヨリ之ヲ恢復スルコトヲ得サ
 ハモノトナリ居ル故ニ法律以外ニ自由ヲ得ルコト計リタルモノハ是レ法律ノ禁制ヲ犯シタ
 ルモノナリ必ズモ獄舎ヲ破リ獄具ヲ毀スルハ逃走罪ヲ構成マストナスコトヲ得スト
 信ス獄舎ヲ以テ囚徒ノ自由ヲ禁制スルモノニアラヌ獄舎ヲクシテモ自由ヲ奪フモノナ
 リ(法律ニヨリテ)故ニ獄舎ヲ破ルト破ハサルトハ唯加重ノ条件ニ過キサルナリ已ニ之ヲ
 以テ加重ノ条件トスルモノ以テ逃走モ又加重ノ事実アリトモサルズニ危険ノ恐レアルモ
 現行刑法ハ之ヲ加重ノ条件トナカス改正草案ハ二人以上ノ通謀ヲ加重ノ条件ト
 ナセリ

第三未決囚、未決ノ囚徒ハ未決ノ刑ノ言渡不確定ニカハ前ニ監獄ニテアリテ自由ヲ失
 ヒタルモノナラバ何故ニ余ノ監獄ニアリテテ語ヲ用ユルコト云フニ之レ又明文ヨリ出ルナ
 リ百四十四条ニ未決ノ囚徒入監中逃走云々トアリ故ニ未決囚入監シタル後ニア
 ラカハ逃走罪ヲ構成スル時期ナシト入監トハ果シテ如何ナル場合ヲ云フ
 余ハ前ニ囚徒ノ定義ヲ下ニ拘留状ヲ受ケタルモノト云フハ拘留状ヲ受ケタルモノ未決

入監中ノモノナラズ然ルニ何故拘留状ヲ受ケタルモノヲマテモ入監中ノ人トナス先ツ
監ノ文字ヲ述ベシ

茲ニ所謂入監ノ監獄ノ文字モ其意味主テ康ニ監獄則ニコレハ集治監地方監及留置
懲治場留置場等ナリ懲治場ニテハ之ヲ地方監獄内ニ設ケル故之レヲ逃走ハ逃走
罪ハ構成スルモ留置場ハ之ヲハ警察場ニ設ケル故ニ此処ニ留置中逃走タル時逃走
罪ヲ成立スルカ無論監獄則ニハ監獄ハ一種トナス故ニ留置場ニ留置中逃走ハ
逃走罪ヲ構成スルナリ

未決犯人ニ付テハ猶既決犯人ニ於ケルカ如ク身体ノ自由ハ失フモ未決監獄ニアラサル場
合ニハ恰カモ既決囚ノ押送中ニアルカ如ク未決犯人モ押送中ニアル場合アリ未決犯人カ
押送中ニ逃走セハ果シテ逃走罪ハ構成スルヤ否ヤ余ハ未決犯人カ押送中ニ於テ
逃走ニタル場合ニテモ猶既決犯人ノ如ク未決囚徒ノ逃走罪ヲ構成ストナスモノナリ
此ニ言區別スルハ未決犯人カ自由ヲ失フニ於テ區別セサルハカフサル場合アリ未決
犯人カ現行犯ニ於テハ無令状ニテ普通人モ之ヲ逮捕スルコトヲ得又又稜審判
事ハ未決犯人ヲ拘引スルコトヲ得又稜審判事ハ之ヲ拘留スルコトヲ得犯人ハ
自由ヲ失フ場合ニ現行犯ノ場合ニハ此等ニテ場合ハ全ク然レバ現行犯ノ場合ニ於
テ逮捕セラタラハコトハ未決監獄ニアラモノナリト云フコトヲ得又逮捕セラハモ猶逃走ノ
權利ノ有ス決シテ逃走犯人ト云フコトヲ得ス

又稜審判事ノ拘引状ノ効力ハ唯ノ其人ノ稜審判事ノ面前ニ其人ヲ引出スニアリ
其外ノカチナリ故ニ其迄ハ未決監獄ニアリモノト云フコトヲ得然ルニ拘留状ニ於テ
ハ其目的全ク異ル拘留状ノ目的ハ唯犯人ヲ稜審判事ノ面前ニ誘フニアラズシテ犯人
ヲ監獄ニ留置スルノ目的ヲ有ス已ニ拘留状ノ効力ハ犯人ヲ監獄ニ留置ノ目的ヲ有スル
故ニ且拘留状ノ執行ヲ受ケタル以テ監獄ニ在ルモノトモ効力ノ全クマ故ニ拘留状ノ執
行ヲ受フシモノハ拘留状ノ目的ノ遠地ニ達スルニハ必ス沿道ノ各警察署ノ留置場
ニ留置シテ至ルナリ一度拘引状ノ執行ヲ受ケテ最近ノ警察署ノ留置場ニ入ラシ
ム在監人ト云ハサルハカラス其後又又旅行ニテ次ノ留置場ニ至ル間ハ在監人ニシテ
之レモ已決囚ノ押送中ト異ルナリ

モナリ
拘留状ヲ執行シ未決監獄ニ又ハ留置場ニ入ラサレハ一度モ未決入監中ノ囚ト云フシ得
サル故ニ逃走罪ナキモノト又一度入りシモノト未決一度モ入ラサレモト區別スルヲ要ス囚

徒ヲ逃走セシムル為メ火器其他ノ器具ヲ給与ニ云々依テ逃走ノ補助セシメタルハ云々
 ナリ此ハ第一百九条ノ場合ニ似タリ果シテ本条ハ之ヲ設クルノ要アリ又從犯ノ規定
 ノ適用スルヲカクル理由アルハ思フニ逃走罪補助ニ付テ從犯ノ規則ヲ適用セサル
 ニ理アル。如シハ從犯ノ罰則スルニ及ヌ正犯ナカルヘカラサハヘカラス正犯成立セカレ
 ハ例令豫備ノ処為ニテ之ヲ補助スル事實アルモ從犯罪ノ成立スルモノニカラス然レ
 ニ凶徒逃走罪ニ於テハ第四百四十六條ニ規定スル処ノ所為即逃走ノ目的ヲ以テ火
 器其他ノ器具ヲ給与ニ其他指示シタルモノヲ以テ一罪ヲ構成スハトナセリ唯逃走
 セシムルメ火器ヲ給与シ又ハ逃走ノ方法ヲ示シタル処為ヲ示スハ例令逃走罪成立
 セカレモ補助罪ハ成立スルナリ若シ此場合ニ總則ノ從犯ノ原則ヲ適用スハ正犯ナ
 キ特種ノ從犯ナキ故ニ此場合ニ從犯ハ罪ナシト云ハカレハカラス然レモ此ノ火器ヲ
 給与ニ逃走ノ方法ヲ示ス所為ハ之レ法律以外ニ監禁ヲ解クノ方法ヲ行フモニシテ
 シ寧ロ逃走ノ罪ヨリハ補助ノ重シトナスナリ此補助ナカラスハ逃走罪生セザリシナ
 ラン故ニ此補助ノ所為ハ具自身ニテ已ニ官權ヲ侵害スルコトアルカ故ニ特ニ之ヲ罰ス
 ルコトナセシナラン故ニ凶徒ノ逃走ヲ致シタルハ一等ヲ加フトナセシ所以ナリ成就セ
 ハ加重ノ原因トナセシ過キス

第二理由、凶徒逃走罪ハ元來重キ刑罰ヲ以テ之ヲ罰シタルモノニアラス第四百
 四十二條ニ已テ凶徒逃走ニシタルモノハ一月以上六ヶ月以下ノ禁錮トス若シ凶徒逃走

罪ニ付テ從犯例ノ適用スルコトハハ逃走罪ノ補助罪ハ具情ニ於テ非常ニ危険ナ
 ル性質ヲ有シ居ルニ係ラヌ必ズ逃走罪ヨリ一等減等ヲナシテ之ヲ罰セカレハカラス
 故其刑ハ非常ニ輕キ刑トナナリ然レモ補助ノ行為ハ具危害逃走ノ處為ヨリ大ナル
 モトル故ニ逃走ノ所為ヲ禁スルニ重キ刑ヲ用インヨリハ補助ニ寧ロ重キ刑ヲ用ユ
 ルノ必要アルナリ故ニ第四百四十六條ニ三ヶ月以上三年以下ノ禁錮ニ付テ以下二十円以
 下ノ罰金ヲ附加ストナス蓋シ法律ノ補助罪ヲ恐ルハノ甚メシキヲ知ルニ足ル此補
 助罪ニ付テモ又加重ノ場合ヲ規定ス(第四百四十七條第四百四十八條)
 第四百四十八條ニ凶徒ヲ監督シ護送シ云々トアルハ過失ニヨリテ逃走セシメタルハ此ノ中
 ニ包含スルモノニアラサハハ我ヨリ逃走セシメタルモノノミヲ云フモノト信ス刑法第百
 五十條ニ別ニ過失ニヨリ逃走セシメタルコトヲ規定スル故本条ハ有意犯タルコト
 明ナリ

終リニ臨ク一言スヘキモハ第四百四十七條第二項第四百五十條第二項ノ規定ナリ
 第四百四十七條若シ重罪ノ刑ニ処ラレタル云々トアリ常ニ重ク処ラレタル犯人ヲ逃

走シメタルハ重キ刑ニ處ラレハナリ此レ明ラカナイ然レ立法上其控申ノ區別ヲ立
テシ意味ヲ知ルニ若シ重罪囚徒ノ逃走ヲ補助シタルモノヲ輕罪囚徒ノ
逃走ヲ補助シタルモノヨリ重キ刑ヲ以テ區別セラレタルハ何故ナルカ本文ニ於テ重罪
囚徒ノ逃走セルハ日モ重キ刑ヲ以テ罪ヲカハルニ非スヤ然レニ補助ニ於テノ輕重ノ
區別ヲ立ツルハ其意味ヲ知ルニ若シテ所以ナリ

第二款 罪人藏匿罪

國民ハ犯罪人ヲ逮捕スルノ義務ハ之ヲキテ罪人ヲ逃走セシムルノ權利ハナシ即チ國
民自ラ進ニテ犯罪人ヲ逮捕スルカ若シハ之ヲ官有ニ申告スルノ義務ナキ故チ犯罪人ヲ
見テ之ヲ見逃スルニ於テハ如何ナル重大ナル犯罪人ニ於テモ刑法ノ制裁ヲ受フルコトナ
シ然レニ若シ國民ニシテ其犯罪人ヲ捕テ逮捕シシムルノ方法ヲ行フニ至リテハ之
レ即チ國民カ犯罪人ヲ保護スルナリ犯罪人ヲ保護スルハ向接ニ犯罪ヲ行フコト右ノト
等シキ然レモナル故チ刑法ハ之ヲ罪スルノ規定ヲ設クルナリ(第百五十一條)
凡ソ犯罪人ハ之ヲ罰スルヨリモ之ヲ逮捕スルニ於テ大ナル功績ヲ表ハスモノナリ人々罪
ヲ犯スニ當リテハ豫メ刑罰ノ輕重ヲ計リテ其身ニ及フコトヲ考フルヨリ寧ロナシタ
ル罪カ弁償セザルコトヲ期シテ犯罪ヲ行フナリ故チ總テ犯罪人ハ後日ノ罪跡ノ煙滅

ヲ計ラガレモノナキハナシ故チ警察官ナルモノヲ逮捕シテ犯罪人ヲ弁償スルナラハ刑法ノ改
正ヨリ其効若クハナシナリ此故チ多ク重大ナル犯罪人カ逃走セルハ其貴ノ大ナル額
ナクニテ之カ逮捕ヲ勉ム今一例ヲ舉グルハ余カ先事仁ニアリモ其執達吏「グロコ
ユ」奔走セリ突除此人ハ殺シメリ之ニ種ノ殺人罪アリ故當時佛人ノ耳目
ヲ驚カシタリ「グロコ」數月居所不明ナリ誰人モ其死ヲ知ラザリ然レニ數
ケ月ノ後其死體ヲ発見セリ然レハ已ニ時日ヲ経タル故チ向人々ハカ分明ナラザリシナ
リ然レハ故殺ナルコトヲ知リ又終ニ「グロコ」ヲ捕テ殺シテ之ニ殺シテ之
ヲ旅客ノ荷物ニ造リテ之ヲリオンニ送レリ之ヲ捕テタルナリ而シテ之ヲ殺シタルモノハハ
男ヲ二人ナハコトヲ知レリ故チ之ヲ改例ニ搜偵シ後「アメリカ」ニテ之ヲ捕テ刑ニ処セ
リ其費用ハ莫ク莫大ナルモノナリ然レ佛國政府ハ之ヲ惜マス罪アリテ之カ罪人ナシ
トモ百ヲノ刑法アリト雖モ其用ヲナサス故チ佛警察官ハ罪人ハ必ス之ヲ捕フトナスナリ
罪ヲ犯スモノハ逃フル途ナキコトヲ知ラシムルニアルヲ以テ其貴ヲ惜マス逮捕ニ勉ムル
處ナリ果シテ犯罪人ハ之ヲ罰スルヨリ逮捕スルニ其利アリトモハ國民カ其犯罪人ヲ藏匿ス
ルノ所為ナリトモハ如何ナル搜偵ヲ用テモ之ヲ逮捕スルコトヲ得ス犯罪人ヲ煙滅セシ
ムルヲ得ス故チ犯罪人ノ藏匿ハ寧ロ犯罪人ノ逃走ヨリ大ナリトシテ特ニ第百五十一條ノ規

受テ設ケタルナリ

本条於テ犯罪ノ目的トナルハキ犯人ハ三種ニ分ツ

第一、犯罪人、思フニ之ハ罪ヲ犯シ未タ刑ヲ受ケサルモ若クハ刑ヲ受ケテモ尚モ

自由ノ身ナリ

第二、逃走ノ目的、未決既決凶徒ニテ法律上自由ヲ失フモノナリ

第三、被監視者、處刑ノ執行ヲ受テ監視ノ刑ヲ執行セラハ、モノ

此等ノ三者ヲ國民ハ藏匿スルコトヲ得ス

此ノ犯罪中ニハ禁錮以テ刑ニ触ル、者モ罰金ノ刑ニ触ル、モノモアリ又罪人ナル字ハ

今後無罪タルハキモノ有罪タルハキモノヲ包含ス故ニ犯罪人ハ之ヲ被告人タルハキ

モノト解釈スルヲ稔當トス然レシカラ此ノ字ハ確受判決ヲ經テ罪人トナリタルモノニ

附スハキモノナレバ此犯ニハ已確ノ意味ナラザルナリ

刑法ハ三者ヲ藏匿スルコトヲ禁ス故ニ之ヲ找家ニ宿ラシメテ何人モ之ヲ自斃手ニ得

ルノ方法ヲ採ラス之ヲ藏匿ト云フコトヲ得ナル故ニ之ヲ罰スルコトヲ得ス藏匿トスレハ

官有ニ存見セシムルコトヲ得ナル方法ヲ講スルコトヲ条件トセガルハウラス

隠匿、之モ藏匿ノ一方法ニ過キス然レニ隠匿ノ方法ニ於テハ大ニ疑トナルハキ尙取テ

リ他人カ其友人ノ罪ヲ負ヒ自ラ此罪ヲ犯シタルハ找ナリトシテ罪ヲ負フモノアリ例ハハ

東京ノ掏摸盜盜仲尙ニハ親分子分ノ詰レ例ニハ掏摸ヲナシタルハ子分ノ搜索

ヲ逃ハハ自ラ其犯罪ヲナシタルナリト自首シ先ツ東京ノ竊盜ノ中八九ハ皆身

代リナリ實際ノ功功盜ナラサルモノカ其罪ヲ負ヒ實際ノ竊盜ヲ逃シシメタルハ如何

之レハ隠匿アリトス余ノ友ノ罪ヲ負ヒ其刑ヲ負フハ其法官ノ目ヨリハ其罪ニ對

スルノ利ヲ終ルナリ然レニ事實止犯人カ其罪ヲ逃ハナリ犯人カ晴天白日ノ身トナリテ

ハナリ其人カ君ラサル間ハ常ニ搜索ヲ絶タス然レニ利ノ執行ヲ終リトセハ之ヲ止ム

故ニ犯罪ハ隠蔽ニハ身代リカ尤モ巧妙ナルモノナラン

證據湮滅 犯罪人ヲ逮捕スルモ若シ其犯罪ノ事實ヲ証明スルノ證據ナケレハ到底

之ヲ罰スルコトヲ得サル故始メヨリ逮捕セサルト公結果ニ至ル然レニ國民ニ於テ犯罪

人ヲ藏匿スルノ害アリトシテ認ムル以上ハ一失進ニテ尙接ノ罪証湮滅ヲモ防ケサルハウラ

ス(百五十二條)

本条ハ他人ノ罪ヲ逃シシメテ計リ具罪証トシテ如キ物件ヲ湮滅シタルモノハ十一

日以上云々トアリ此規定ニヨリハ種々ナル奇怪ナル結果ヲ生ス

本四條ノ罪ヲ構成スルニハ二條件ノ要ス

刑法

三〇

第一、罪ヲ逃レシムル為メ謀ルコト 第二、其罪証トナシキ物件ヲ隠蔽シタルコト

此故他人ノ罪ヲ逃レシムル生計ニヨラスシテ罪証ヲ隠蔽セハ本条ノ罪ヲ構成セス例
ハハ犯人ハ不具載スル代ナリ故ニ此犯人ヲ罰スルコトハ大ニ欲スルナリ然レモ犯罪ハ用ニ供
ミタルカハ名カハ故官吏ノ手ニ移ルコトヲ欲セス故ニ之ヲ有セント欲ス之ヲ蔽セハ此場
合ニカハ犯人ノ唯ダテ証據ナリ此場合ハ犯人ヲシテ罪ヲ逃レシムルハカヲアル故之ヲ罰ス
ルコトヲ得ルハシ又例令犯人ノ罪ヲ逃レシムルノ意思ニ出テタリト雖モ罪証トナシキ物
件ヲ無効トスルノ方法ヲ行フニモ又本条ノ責ニ任スハキニテ例ハ犯人ノ
罪ヲ逃レシメシカ為メ犯人ノ利アルヲ偽造証書ヲ作レリ其偽造証書ニヨリ犯人ノ罪
跡ヲ湮滅スルコトヲ得ヘク然レ此場合ニ別ニ犯人ノ利ナル証ヲ作リタルモノニテ此處ニ不
利ナル証換ノ湮滅ニタルモノニテ其責ニ任セス法律ノ精神ヨリ云ハハ犯人ノ
不利ナル証換ヲ湮滅スルモ利益アル証換ヲ偽造スルモノ之ヲ罰スルニテハケレ其ノ
刑法ノ成文上ヨリハ唯不利ナル証換ヲ湮滅スルノコトヲ罰スルナリ此レカ刑法ノ欠
点ナリ刑法ノ恐レ所ハ罪証ヲ隠蔽スルニヨリテ其手段ヲ問ハス故ニ証換湮滅ノ
規則ハ不完全ナリ

此規則ニヨリテ羈禁受テハテ故第一被監視者ハ毎月二回警察ニ出ワルコト

ヲ要ス一ヶ月ニ旅行スルコトヲ得ス又宴會ニモ出ワルコトヲ得ス又居所ヲ転スルコトキ
旅行スル中モ警察官ノ許可ヲ要ス而シテ如斯ク故警察ト密ナル干係ヲ要ス警察ト
密ナル干係ヲナスモノハ之ヲ信用セス信用セサレハ生活ニ差支ル故警察ト密ナル干
係ナキヲ表ハントスル故ニ監視規則ヲ破ルルハコトヲ得テラミルナリ故ニ十ノ監視規則
違反者ヲ出ワリ

監視規則ハ二種ニ分ルルニテ第一種ハ其ノ目的ヲ要ス

(一) 犯人ノ再犯ノ豫防ヲ目的トス (二) 犯人ノ信用ヲ害スルノ目的ヲ有ス

犯人ノ信用ヲ害スル故監視規則ノ破ラハルコトヲ得テラミルハ故ニ再犯ヲ防キテ却テ犯
罪ヲ行ハシムルナリ

依テ以テ罪ヲ犯シタルニ至リテハ再犯ヲ豫防スルコト全ク及スルノ目的ナル故今日
ハ監視規則ハ有害ナルモノ故今日犯罪ハ過半ヲ減スルコトヲ得ストマテ論スルモノ

アリ故ニ現行刑法ノ監視規則ハ其方法ニ於テ目的ニ於テモ及スハ故ニ之ヲ廢スル
ヨリ外ナキナリ然レモ一旦監獄ニ入リンモノヲ全クノ普通人トシテ今等ノ地位ニテラシメ

ハ實際再犯ノ増加ヲナスノ原因ナリ然ラハ如何ナル方法ニテ出獄者ヲ監督スル

今日歐洲に於て行ハル方法ハ出獄者ニ自由ヲ与フルハ必要ナル被監視者ニ全ク
不制限ナル家宅搜索ヲナスコトヲ得ルモ其ノ犯罪ハ監獄中ニ交際スルモノニテ友
人ト交際シ其中ハ刑罰制裁ヲ顧ミカモノナキヨリ特ニ一人ノ監視者アラハ其近傍
ニ犯罪多ク然ラハ監視人ノ守ル犯罪ノ同屋トモ云フハキモノナリ故ニ犯罪者起
ルハ先ツ疑ヲ抱クハ第一監視者ナリ今無制限ノ家宅搜索ヲナスコトヲ得ルハトナ
スコトヲ得ルトスルハ直ニ犯罪ノ証拠ヲ得ルナリ如此一定ノ期間ニ家宅搜索ノ權ヲ
有ルハ犯人ハ自由ヲ害ス又社会ニ危害ヲ及ブ再犯ヲ豫防スルヲ得ル故今日無
制限ノ家宅搜索ヲナスコトヲ上策トス

故ニ刑法草案ニハ此主義ニヨリテ監視ヲ廢シテ唯其各存シテ家宅搜索ヲナ
スコトヲ得ル場合ニハ之ヲ一定ノ場所ニ置クコトヲ定マル規程アリ
第五節 私軍用ノ銃斂彈藥ヲ製造シ及所有スル罪
(明治三十二年法律余布セラル)

第六節 往來通信妨害罪

之レ三分スルコトヲ得
(1) 道路河水妨害罪 近來河水法律アリ

(2) 電信妨害罪 近來詳細ノ罪アリ

(3) 汽車船舶妨害罪 近來特別ノ規程アリテ詳細ナリ之等ニ付テ研究スベキ

電信ニ付テ電話ハ此刑法ヲ作ル時ニナリ然レニ此ニ付テ規定ナキナリ故ニ之
ヲ妨害スル如何電信ヲ曲ケテ解読スルハ出未ナルニアラサルモ電信ハ電信上云フ通信
ヲナス物体ノ名称ナリ故ニ文字ニアラス言語ニ通信ヲ包含ス故ニ不備ナリ汽車場
合ニハ鉄道アリテ通行スル鉄道カ全國ニ通スル共ニ大ナル弊害アリ即ケ鉄道ヲ
布ク山ヲ壞シ谷ヲ埋メ川ヲ塞クコトホアリ洪水等ヲ豫想セス直ニ之ヲナスニ多ク
水利ノメメ大洪水ヲ来スコトアリ故ニ人民ノ辱マシメスコトアリ此ノ破壊ノ罪ハ第
百六十五條ニ當ルハ同罪アリ然レニ行爲ハ其目的汽車往來ヲ妨害スルニアラ
ズニテ村落ノ人民ノ生命財産ヲ全フスルニアル故ニ適用ヲ免カル本條ハ他ト異ル
他條ニハ是ナシ犯罪アリ其目的如何ノ同ハスル罪スルハ汽車若シクハ船舶往
來ヲ妨害スルハ爲メトアリ鉄道若クハ電信ノ破壊ノ行爲ヲナスニハ別法ニ定メタル
一定ノ目的ヲ要ス故ニ此罪ニハ汽車等ノ破壊スルコト汽車往來ヲ妨害スルニ
アルノ二條件ヲ要ス此中一ヲ欠クモ其等ノ制裁ヲ受ケス又他ニモ一ノ理由アリ即チ
十五條ニヨリ洪水ノ中ニ其生命財産ヲ失フコト恐アリ故ニ此片鉄道ノ破壊スルハ自

已若クハ親戚ノ生命財産ヲ守ルニテ故之ヲ罰スルヲ得ス

第九節 人ノ住所ノ侵スル罪(住所侵入罪)

本節ハ人ノ家宅安ヲ保護スルノ規定ナリ一國ニ於テ國安妨害アレハ一家ニ於テ家
安妨害アルハ当然ナリ人ノ住所ハ人ノ生活ノ根拠地ニシテ余ノ身体生命ヲ安置スル
天此住所ヨリ又財産ヲ保存スルモ此住所ヨリ若シ人ニシテ住所ナケハ人ハ風雨ノ害
ヲ受クコトヲ得ス盜賊ノ害ヲモ避タルコトヲ得ス加之到底人ノ精神ノ静逸ヲ保ツ
ヲ得ス今試ミニ人ノ住所ナシト仮定セハ天災ノ場合ハ之ヲ置キ人ノ為ノ災ニ如何ナル豫
防法ノ要アルヤ余ノ醒寤中ハ余ノ耳目自達スル区域ニ於テ余ノ生命財産ヲ保護
スルコトヲ得ヘシト雖モ余ハ本日睡眠シテ財産生命ヲ保護スルコトヲ得ス若シ國家
ナルモノアリテ或ハ人民ヲ保護スルコトアリトスルモ保護者ハ被保護者ハ此比例非常
ニ際絶シ特別ノ場合ノ外ハ各人ノ對シテ一國ノ其保護ヲ全クスルコトヲ得ス於此國
家ノ保護ノ傍ラニ於テ人民各自衛ノ道ヲ改良スルコトハ人民ノ生活上ニモ必西
ナハコトナリトス具自衛ノ道ニ於テ人ノ住所ニ若クハナレ即テ天災ヲ避クモ人ノ為
害ヲ避クルモ皆住所ナリ

此ラハ此住所ハ人ノ生活ノ根拠地保護ノ要起ナル故之ヲナクシテハ人向ハ一日モ其ノ

生活ヲ安全ニスルコトヲ得ス若シ窮乏ノ害生ラハ必ラスヤ其根拠ニ於テナルハカラス恰

國家ノ敵ノ襲来ニ窮セル中ニ籠城ニヨルトナシモ異ルナシ

家宅住所ハ人ノ生活ノ根拠地ニシテ之ニ依テ以テ生活ノ安全ヲ計ルコトヲ得トスレハ之ヲ侵

害スハ此侵害ハ人ノ生活ノ根拠ヲ突クモノニテ仮令直接ニハ損害ノ程度ニハ小ナリトモ間

接ニハ余ノ生活ヲ全クスルコトヲ得リラニメハルモ故犯罪ノ性質之レヨリ恐ハハハハハ故

ニ何國ノ刑法ニ於テモ此犯罪ノ規定ヲナシウ家宅安ノ方法ヲ講ヒカハルモノナシ

物ハニ此家宅安ノ保護ハ人ノ生活上非常ニ必要ナリハ拘ハラヌ我刑法ノ規定ヲ見レハ

其規定ハ僅ニ三条ニ止マリ家宅安ノ保護ノ目的ヲ達スルニ於テ大ニ周到ナラザルモノ

アリト云ハサルハウラス

先ツ大畧刑法規定ニツキ一言シ具殿璋ヲ論セン

百七十一條ニ昏向故ナク人ノ住居ニタル邸宅又ハ人ノ看守ニタル建造物ニ入りスルモノハ云

々トアリ本罪ノ条ヲ構成スルハ三条件ヲ要ス

(1) 邸宅又ハ建造物ニ入りルヲ要ス

(2) 其邸宅ノ住居スルモノ又其建造物ハ看守ニメハルモノタルハ云

(3) 故ナク之ニ入りコトヲ要ス

刑法

第一条件ニ即宅又ハ建造物トアル故此等何レニモアラカル卑ナル田野森林畑地ニ
入ルモ之ハ刑法ノ禁スル所ニカラス

又其即宅建造物ハ住居又ハ看守ニタルコトヲ要ス故人ノ住居ニカル即宅内ニ侵
入スルモ本罪ノ条ヲ構成セズ然レモ即宅ニテ住居ニカルモ則明ク屋ニテ夜番
ヲ置カサルモノアリ新築シテ未ダ住居ニカリモナリ又家屋ニ付テハ暫ク之ヲ指
キ家屋ヲ造ラカル宅地即内ハ辱々之ヲ見ル之ヨリ新築ニ掛ラントスル庭園ヲ
築クコトスルモノ多シ此等ノ即宅ノ宅又ハ即宅ハ人ノ住居ニカルハ侵入スルモ罪
ヲナス思フニ本条ハ又ト家宅安ヲ保護スルニアリ故ニ人ノ住居ニカル以上六人ノ安寧
ヲ害セサル以上其家宅ニ侵入スルモ罰スルノ要ナシト見タルナラン

建造物ニ付テハ家宅侵入罪ヲ構成スルニハ必ス看守ノハコトヲ要ス凡ノ建造物ハ必
ラスヤ之レカ所有者ナカラザルハカラス所有ニシタルトノ語ハ看守ニタルトノ詞ト同一視
スハカラス所有ハ唯或人ノ其建造物トシテ所有権ヲ有スルト云フニ過キズ其所
有権ハ必ス之ヲ看守セカルハカラサルモノニアラス看守ニタル建造物トハ所有権ノ有
無ニ拘ハラズ其建造物ニ対シテ直接間接ノ番ヲナシタルモノナラカルハカラス然レモ
如何ナル建造物ナリト由モ人ノ番ノ居ラザルハ之レ侵入スルモ本条ノ罪ヲ構成セズ

直接ノ番トハ其建造物ニ人ヲ附シテ守ルコト此時侵入スルハ侵入罪ナリ間接ノ番トハ
人ノ居ラサルモ鎖鑰ヲ施スル人ノ侵入ヲ許サハコトヲホスナリ之ヲ侵入セハ罪ヲ構成
スルナリ建造物ハ其意味廣ク即宅以外ノ建物ハ皆建造物中ニ入ルナリ余ハ建造
物ト即宅トハ火ニモ異ルコトト思フモ刑法ニ區別スル故即宅ヲ除クモノハ皆建
造物トナスハシ

故ナキヲ以テ廣キ意味ニトハ本条ノ主意ヲ取ルコトヲ得ズ故ニ之ヲ正當ノ理由ト取
ルキナリ犯人ヨリモ人ノ即宅ニ入ルニ皆故アラズモ其意味ニテ正當ニ其即宅
等ニ入ルノ権利ナクニテ入りタルモノナリ換言スルハ即宅ノ住人又ハ看守カ許シテ
得テ入ルハ可ル故ニ故ナクテ承諾ヲシテト解スルコトヲ得ヘシ而シテ承諾ヲ与フル
モノハ住者看守ナルハシ然レモ住人ハ常ニ人ナラス看守モ数人ナラコトアリ而シテ此ノ
数人ノ中誰レカ承諾ヲ与フハキヤ書生カ許シ主人カ許サスニテ入りシトハ入ルノ権利
アリト云フコトヲ得ヤ正確ニ論ベハ此即宅ニ於テ主権ヲ有スルモノカ爲シタルモノニアラサ
ズ有効ナリト云フコトヲ得サルハシ然レモ之ハ被害者ヨリ見メルモノニテ犯人ハ何人カ
主権カヲ知ルコトヲ得ズ然レモ犯人ニ於テハ其家ニ干渉アラント思フ人ニシテ之ニ入ル
コトノ許セハ書生カ許スモ書生カ許スト犯人ニ許シテ受テタリト云フニ於テハ侵害

スルノ意思ナカラシムコトハ知ハコトヲ得ハシ即此場合ニハ故ナク入りシマラス犯人方ニ於テハ廣ク解釈セサルハコトヲサレモノト思ナリ
 刑法ハ唯タ人ノ邸宅及建造物ノニ場合ノノ規定セリ然ルニ此場合ニ比較スル
 故多クノ場合アリ即チ

(1) 船舶 此ハ人ノ住宅ニ供スル又ハ倉庫ニ供スルコトアリ此ハ水ノ住宅水ノ建造物トシテコトヲ得ヘシ然ルニ刑法ハ邸宅並ニ建造物ニ侵入スルハ侵入罪トシテ之レヲ罰シ船舶ニ侵入スルモノハ之ヲ罰セス故ニ水上ノモノハ家宅安ナシ邸宅建造物ヨリ猶得保護スルノ必要アル船舶ヲ保護スルコトナシ果シテ水上ノ生活ニハ保護ノ要ナシトスルカ之レ大ニ欠矣ナリ

(2) 旅舎 旅舎ノ家屋内ニ侵入スルハ侵入罪アリ然レモ客室内ニ侵入スルハ刑法ハ之ヲ罰東スルコトヲ得ス旅舎ハ一室カ即家宅ナリ住居ナリ若シ旅客ニアリテ猥リニ余ノ室内ヲ復ツモノナリ侵入スルハ之ヲ罰スルヲ得刑法ハ人ノ住居スル邸宅トアリ客室トナシ然ラハ余ノ滞在スル旅級ノ客室ニ侵入スルモノアルモ之ヲ罰セス可改ニ客室ヲ保護セサルカ之レ欠矣ナリ
 此上ニ場合ハ刑法全ク欠矣ナリ

又刑法ニハ邸宅又ハ建造物ニ入りタルモノトアリ然ルニ付テハ權利ヲ以テ入りヲ得然ルニ入りタル後其邸宅内建造物内ニ其マハコトヲ承諾セヌ退去ヲ命セラレ其退去ニ應セサルモノアリ故チ退去セサルモノハ刑法ハ罰セヌ余ハ家宅安全ハ余ノ承諾メノシテ入りニ場合ノノ害セラルハノモニアラス退去セサリニ場合モ害マラレハコトアリ而シテ巡查憲兵ヨリテ強制スルコトヲ得ルモ彼等ハ一旦ハコトヲ許サレバハ之ニ居ルコトノ權利アリト主張スルハ如何トモスルコトヲ得サレナリ故ニ刑法ハ一部ノ忘レタリト云フハオナリ
 船舶ニ付テハ新草案ニ於テハ規定セリ旅舎ニ付テハ解釈スルコトヲ得トシテ今マ議論アリ

注意

(1) 邸宅内ニ於テモ建造物内ニ於テモ間接直接人ノ出入ヲ許メサルハ之ニ立入ルコトヲ得

例之(故ナクトモ)市街ノ邸宅内ニ於テハ例ナキモ村落ニハ屢々之ヲ見ル村落ニハ教
 十坪ノ邸宅ヲ有シ畑地ト宅地ト混シ邸宅ニ構シ有セサルモノアリ邸宅ハ人ノ出入ヲ自由ナラサラシムル方法ヲ用テハオナリ其構ナキハ何人モ自由ニ出入スルコトヲ得構造ナ

刑法

三五

中月ハ人ノ出入ヲ許シタルト見做スコト得ヘキナリ家宅侵入罪ヲ構成セハ其ノ結
果人ノ住居シタハ邸宅ニ内アリテ大抵内ノ開放ス開放セル内ニ何人モ入ルヲ許
ス意思ヲ表セルモノナリ故ニ予ノ承諾ナシトスルモ何人モ入ルコトヲ得若シ入ル
ヲ欲セガハ内閉塞スヘキナリ若シ開放セル内ニ入ルコトヲ許サストモハ乞食ノ如キハ
家宅侵入罪ニ属ハルハ一アハシ家宅ノ境界ハ之ヲナスヘシ又之ヲ設クルモ人ニ分
明ナラザルハカラス

第百七十一條第二項ヨリ出ツ兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帶シ入り
タル時此中ハ一等ヲ加ヘテ処罰ス(一等ハ本刑ノ四分ノ一ナリ)此中困難ナリト云フハ或ル器
械性質上兇器ナル名ルベシ可ナルモ日本ニハ特ニ兇器ト云フモノナク故ニ兇器ハ犯人ノ意
思用法ニヨリテ定ムルハキナリ又其物品ト云フ中ハ猶其範圍ノ廣クナリ此ノ兇器
其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ハ屢困難ナリ例ハ擧重ハ人ヲ傷クルコトヲ得ルモノ
厨刀又ハ此等ヲ持テ入りタルハ兇器ヲ持テタリモノト云フカ若クハ巡査憲
兵ハ常ニ侵入スルハ常ニ兇器携テ帶ナリ故ニ兇器物品定リ居ラヌ以上ハ數
回ノ場合ニハ兇器トモナリ物品トモナリ得ル故ニ加重ノ条件トナスコトヲ得ルヤ如何
本條第二号ノ場合ハ後ノ強盜竊盜ノ場合ニ於テモ困難ナル問題ナリ兇器

ト名ルハ野ノ器械果シテ日本ニ於テ存在スルヤ否ヤ疑ハシ如此ニ付クルモノ存在セ
ス皆用法ニ於テ兇器トナリナリ兇器ノ尤モ単純ナルハ短銃ナルモ之ヲ自衛ノ為メ
テハ良器ナリ此等ハ多クモ皆用法ニ於テ兇器ナリ唯換ノ用ニルハ「ハラシ
ノ如キモノ」トナラシカ之ハ特ニ犯罪ノ用ニ供スルモノナリ他ナシ然シ外國ニハ多クアリ外
國ニテハ多ク文器械等進歩ノ結果兇器ノ進歩日本ヨリ多シ日本外國ニテハ犯罪
人カ有スル兇器アリ又十八百七十六條項亞米利加弁島ノ兇器アリ銃鎗アリテ
ヲ破ルニ用ユルモノニテ音ヲ發セリモノナリ其他犯罪ニ特ニ用ユル兇器アリ近來兩カ
ヲ破ル器械日亦ニ出ルモノナリ其他兇器アリ然レモ犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ハ多シ日
用ノ具ヲ藉リテ犯罪ノ用ニ供スルモノナリ凡テ此等ハ用法ニヨル兇器ナリ

於是辭狀ハ困難ナリ如此兇器ノ文字アルモ物體トシテ此ニ當テ最モハキナリ大體
犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ナリ犯罪ノ用ニ供スヘキ物品器械ヲ兇器トシテ之ト兇器
並ニ犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ニ付テハ辭狀ノ制限ヲ知ラス於是裁判所ニ於テハ此
問題ニ審理スルニ當リ殆ント判事ノ自由判断ニ放任シ一定ノ標準ナシト云フテ可ナリ
然レモ茲ニ確カナルハ凡ノ犯罪人カ罪ヲ犯スニ付テ或物品ヲ携テ其物ト犯罪トス
ノ下係ナキ場合ニハ如何ナル場合ニモ其物品ヲ以テ兇器トシテ名付クハ得サルベシ

又之犯人、携フル物品、其ニ犯罪ニ密接ノ干係ヲ有スルハ、及マズ犯人ニ於テ之ヲ用ユル
意ナキモ、高兇器、毒物、刀、短銃、火器トシテ得ルハ、例之ハ、魚、屋、カ、余ノ門、用ナスルヲ見
テ、執リ取ラントシテ、其道具ヲ持テ入り之ヲ取レリ、此場合ニハ、其道具ハ、犯罪ヲナ
スニ付テ必要ナキ故ニ、持兇器ノ竊盜ナリトテ、テ得テ送テ、此其行ハントスル犯
罪ニ必要ナラハ、其物体ノ如何アルモ、ニテモ、テ兇器ト云フコトヲ得ス
然レモ、余ク夜間、人ノ家ニ侵入スルニ、当リ仕込杖ヲ用イテ、此仕込杖ハ、侵入スルニ、当リ奔
馳セラハ、ハ、之ヲ用イントス、而シテ、犯罪人ハ、正当防衛権ナシ故ニ、犯罪人ニ、正当防衛
権ナクシテ、犯罪ニ便アル故ニ、兇器ナリ

又日本ノ竊盜ハ、鑿ト短銃ヲ有ス之ハ、議論アルモ、犯罪ニ用ニ供スルモ、故兇器ノ名稱ヲ付
スルキナリ、モノ、又強盜ニ犯罪スルヲ、短銃ヲ有シ、短銃ヲ用フルモノ、ア、六、正当防衛ノ権ヲ
キ故、此ビストル、帶、短銃ハ、兇器ト云フコトヲ得ヘシ
何レノ場合ニ於テモ、犯罪ニ直接ノ関係ノ有無ヨリ、兇器ト否トシ、決ス若シ夫レ犯罪
ニ供スルノ外用エハ、ソ得サルモノナラハ、其犯罪ニ用ニルト否トシ、同ハス、又犯罪事實如
何ニ拘ハラス、之ヲ兇器ト稱スルナリ
竊ニ困難ナルハ、兇器ノ種類、毒物、刀、短銃、火器トシテ、即切ル物ニ付テハ、異論ナキモ、短銃ヲ持テ侵入ス
ルハ、此レ人ヲ絞殺スルニ足ル故ニ、兇器ナリ、又手拭モ、又、然リ、結ニ至テ、甚ク同懸ク、困
難ナリ、此ニ於テハ、其兇器ト否トハ、決スルハ、其犯人ノ意思、同ハサルハ、カ、ラス者、若シモ
短銃ヲ、其犯罪ニ干係シ、而シテ、之ヲ説明スルニ、足ル事實アラハ、之ヲ兇器ト云フテ
可ナリ、然ラハ、犯罪ノ用ニ供スルキ、手拭ハ、犯罪以外ノ用ニ用スルコトアル故、犯人ノ意
思ニ付テ、之ヲ短銃ノ外ナシ

注意、侵入罪ニハ、夜間ト昼間トノ區別アリ、昼間、侵入ハ、其利才一日以上、六ヶ月以下
ス、昼間ハ、防衛、警戒、救護ヲ求ムル容易ナリ、故ニ、於テ容易ナルハ、彼レニ於テ困難
ナリ、然ルニ、夜間、家宅侵入罪ハ、其侵入ノ目的ヲ知ハコトヲ得ス、又侵入スル者ハ、如何
ナク、若ク知ハコト困難ナリ、故ニ、防禦、救護ヲ求ムルコト困難ナリ、此故ニ、昼間ノ者ハ
夜間ニ比シ、救護ヲ求ムルコト容易ニシテ、危険ノ程度ハ、ニシテ、家宅母ノ侵害ハ、ナ
ルモ、夜間ハ、皆大ナリ、此結果、昼間ノ家宅侵入罪ニ、正当防衛権ヲ有セス、唯、省
怒ノ恩典アルノ、夜間ノモノ、正当防衛権アリ

注意、家宅侵入罪ハ、他ノ犯罪ノ階梯ナルハ、キモノナリ、犯罪人ハ、家宅侵入シテ
他ノ犯罪ヲ犯サントスルナリ、然レハ、家宅侵入罪ハ、其ニ依ラントスル犯罪トスル他ノ犯
罪ナクシテ、カ、ルハ、カ、ス、若シ家宅侵入罪ト他ノ犯罪ト併發セハ、救罪併発ヲ以テ

刑法

三三

論ニテハハカラサルカ刑法ノ規則ニハ家宅侵入罪ハ一ノ犯罪トスル故他ノ犯罪アリ
ハ之ヲ数罪復弁ノ例ニ照スハ適當ナリ然レモ刑法ハ家宅侵入罪ト他ノ罪ト併
テマハ之ヲ一罪トスル原則ニ照スハ二罪カナラサルカラス刑法ハ邸宅内ニ入リシモ
見ス窃盗罪方方面ニテ見ルカ故ナリ又邸宅内ニ入リ人ヲ殺サハ邸宅内ニ入リ
シテ見スニテ又殺人罪ノ一ニ見ル

何故ニ家宅侵入罪ノ犯シ他ノ罪ノ犯シテ家宅侵入罪ヲ論セサルヤ其ノ家
宅侵入罪ハ他ノ罪ノ格梯ノ罪ニテ家宅侵入ノ一ニテモ既ニ家宅安ノ妨害スル
起為ル故家宅安ノ保護上此罪ヲ改メルニ必要ナルモノハ人ノ侵入ニヨルニア
スル侵入ノ結果他ノ罪ヲ犯スル為アルカ為ナリ然ラハ侵入ノ結果他ノ罪ヲ犯セハ
其ノ罰則ハ其家宅侵入ノ結果恐ルハキ結果ヲ罰セラルハ更ニ家宅侵入罪ヲ
罰スルニ要ナシト信ス之即數罪併罰ノ例ヲ用サルナリ

ハ家宅侵入罪ニハ未遂罪ナシ輕罪ノ未遂罪ハ各本条ニ規定ス即此ニハ規定
ナキ故未遂罪ナキナリ之レ刑法上ノ欠兵ニアラサルヤ犯人アリテ場ニ業リ侵入セ
トシテ未ダ入ラサル内ニ捕ハレタリ之レ未遂ナリ故ニ罰セラレス果シテ此場合ニ家
宅安全ノ妨害ナシト云フカ此場合ニハ邸内ニ入ラサルモ家宅安ノ妨害セラル

今ニ刑法ハ家宅侵入罪ニ未遂罪ヲ規定セサルハ欠兵ナリ而シテ三百十五条ニ正當
防禦ニ付テハ未遂ノ行為ニ付テモ懲メ刑罰ニ付テハ未遂ノ懲メサルハ不合理ナリ
ハ二人以上ト如何例ハ余ハ小兒ヲ負テ侵入セルハ二人ナリ此ハ二人ナルカ然ラ
此ハ二人ハ此犯罪ニ干係セハモノ云フナラン即二人以上罪ヲ犯シト云フ二人ト全シ

第十節 官ノ封印ノ破棄スル罪

本節ニ付テハ別ニ困難ナル問題ナシ本節ハ官ノ命令ニヨリ或物件ノ自由行使ヲ禁シ
タル場合ヲ保護スルノ罪ナリ殆ト官吏抗拒ノ種毒ナリ

百四十七条官署ノ處分ニヨリ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件云々トイイ本条ニ付テ
直ニ明白ノ辭狀ヲ求メテハ官署ノ處分ナリ此ハ何シ云フカ即官署ノ為シタルノ意
官署ノ命令ニテハノ意カ若シハ訴訟手續ニ從テ結果ニスル場合ヲ云フカ官署
ノ處分ナル文字ノ特ニ掲ゲタルヲ以テ見ル法律ノ主意或ハ訴訟手續ナリ規律
從ヒテ判断ノ決定ニ基ク封印ノ意ノ如ク辭狀スルハ其場合至テ廣シ或ハ此辭
狀ハ刑法ノ文字又其主意ニ付テ提考ナリト云フ可ナラン而シテ余ハ之ノ廣ク辭
トス余ハ處分ナル文字ノ制限ニス而シテ之ノ制限セサルハ之ヲ自由ニ辭狀スル
得ヘシ然レハ之ハ官署ノ必要ニ施シタル封印ナラハ皆之ヲ官署ノ處分ナリト云フ

(1) 刑法ハ人ノ欺罔スル手段ノ行為ヲ以テ一罪ヲ構成スルニ足ルトナシ或ハ一罪ヲ構成スルニ足ラスニテ取財ノ条件ノ以テ一罪ヲ構成スルモノナリトナセリ欺罔ノ手段ハ目的ヲ達シテ之ヲ行フモノニテハ故ニ大體ノ場合ニ於テ欺罔ハ取財ノ手段トナルモノナリ然レモ欺罔ノ手段其ノミミシラ直ニ國家ノ危害ノ性質ヲ有スルヘ未ダ危害ヲ有スルニ至ラザルモ手段ノミニ付テモ刑法ハ之ヲ禁スルノ必要アリ是ヲ第四章ニ規定スル筈ニ欺罔手段(偽証罪ヲ取除ク)ハ之レ欺罔ノ所存ノミシラ具社会ノ危害トナシタハ故第(2)章ヲ別ニ設ケタルナリ

(2) 次ニ詐欺取財ノ場合ニ於ケル欺罔ノ手段ハ欺罔具モノノミニ分限シテ論スレハ未ダ以テ社会ノ危害ト認ムルニ足ラス只欺罔ノ目的ノ取財ト一致スルニ於テ危害ヲナス故之ヲ罰スルノ要アリ故ニ詐欺取財ニハ詐欺ト取財ト相一致スルニテラサレハ一罪ヲ構成セスト認メタルナリ即詐欺ノ欺罔ノ程度ハ亦章ニ禁スル程度ヨリ概キトナセハ故亦章ニ混スルニ得サルニ至リシモノナラン要之背信罪ニ於ケル欺罔モ取財ノ手段トナハトアリ詐欺取財ノ欺罔モ取財ノ手段トナハトアリ今ニ只欺罔ノ如ク爲具モノノミニ分限シテ論シ背信罪ノ欺罔具モノカ危害ヲナスモ詐欺取財ノ欺罔ハ具モノカ危害ヲナストシテ刑法カ二者ヲ分限セハナリ

背信罪ニ於ケル欺罔トハ如何ナル行為ヲ云フヤ欺罔トハ人ヲシテ錯誤ニ陥ラセムル方法ヲ云フ錯誤トハ或ル事物ノ成立ニ付テ虚偽ノ思考ヲ有スルヲ云フ故ニ欺罔トハ人ヲシテ虚偽ノ思考ヲ有セシムル行為ヲ云フハ元来虚偽ノ思考ヲ有スルモノナル故又人ニ付テ此虚偽ノ思考ヲ速クハノ自由ヲ有セタル理トシ然レモ其欺罔手段中特ニ刑法ノ制限スル処ニモナリ是レ即第四章ニ規定スル場合ナリ第四章ニ規定スル所ニ付テハ日本國民ハ其虚偽ノ陳述ノ自由ナシ此ニ規定スルハ人ノ三ノ一ノ言語ニ付テノ欺罔ノ禁制ニ付テハ其ノ如クハ才裁所ヨリ証人トシテ召喚ヲ受ケ具見聞スル事實ヲ陳述セス其以外ノ陳述ヲセハトナリ虚偽ノ陳述トハ其見聞ノ外ヲ云フモノニテ陳述ノ其モノ果シテ信ナハトシ要ラス其耳目ニ触ルハ終ラ云ニ於テ見タルナリ又官職詐称ノ如シ(第二章廿条)偽証罪ハ單ニ言語ニ限ル官職詐称ハ或ハ文書言語ニヨリハナリ

(2) 文書ヲ以テスル欺罔

文書ヲ以テスル欺罔ノ第一文書偽造罪即文書其人ノ人ノ承諾ナクシテ其人ノ名ヲ犯シ文書ヲ作りシ時ハ文書ノ偽造アリトスルナリ又文書ヲ以テスル身分詐称ナリ

ハニ故ニ之レ付テ解釈セントスルナリ然レモ此字ニテモ貨幣偽造罪ノ偽造ノ意味ハ
 他ノ偽造ノ意味ト大ニ異ナルヲ以テ此ノ意味ヲ明ラカセザルハカラス貨幣偽造
 罪トハ法定ノ貨幣ニ類似スル詐偽ノ貨幣ヲ造ル所ヲ云フ此ノ受戒ハ頗ル廣
 キニ失スルカ如キト雖モ貨幣偽造罪ノ場合ヲ包含スルニ足ルト信ス貨幣偽
 造罪ハ大抵貨幣ヲ偽造シ依テ以テ利益ヲ得ト欲スルモノ故ニ偽造ノ原料ニ用ユ
 ハ金屬ハ真正ノ劣等ノモノナリ然レモ貨幣偽造ニハ必ラス之モ劣等ノモノヲ用ユルニ
 限ルモノト豫測スルコトヲ得ス武ハ巨富アリテ通則ノ宝ヲサカサカメ持テ通貨ヨリ
 優等ナル金屬ヲ用ユルコトヲ得ス故ニ貨幣偽造罪ニ付テ必ラス之ノ
 場合ヲ想像セザルハカラス即チ貨幣ヨリ劣等ノ金屬ヲ用イテ偽造ラサス場合又
 優等ナル金屬ヲ用ユル場合ナリ從テ粗悪ナル金屬ヲ用イタル場合ニ限ラス之ノ
 場合ヲ包含セル定義ヲ与ハサルハカラス故ニ以テ如キ是ノ定義ヲ下セハモノトス
 法定ノ貨幣之ハ劣等ノ金屬ヲ用ヒテ貨幣ヲ偽造スルモ又優等ナル金屬ヲ以テ偽
 造スルモ結局貨幣ノ信用ヲ害スルコト全キ故刑法ニ規定スル貨幣ノ信用ヲ害ス
 コトナリハ偽造ノ利益ヲ失フト得ハトハ之ヲ例ハス
 此ノ定義ニ於テ法定ノ貨幣トハ法律又ハ敕令ニヨリ貨幣ノ製造ハ之ヲ規定シテ
 一其法律敕令ニ於テ規定シタル貨幣ノ製造ラズレハ貨幣ヲ造ルニ必要ナル条件
 ヲ規定セテ貨幣ノ原質貨幣ノ形態貨幣ノ量目貨幣ノ紋章等之ヲ敕令法
 律ニ定ムルハ之ニヨリテ製造シテアリ此ノ敕令定ムル後ニテ条件ヲ具備シテ製造シ
 タルモノカ所謂法定ノ貨幣ト云ハルヲ得ス其条件ノ具備ニテハ及令官署ニテ之
 ヲ発行スルモノハ真正ノ貨幣ニアラスト云フハ之レモ偽造貨幣ト云ハカラス得ス此
 故ニ一貨幣ノ造ルニハ貨幣ノ製造前ニ於テ必ラス敕令ヲ出シテ其貨幣ノ凡テノ
 条件ヲ示シテ後チ通貨ヲ発行ス故ニ法律敕令ニ從テ造リシモノ法定ノ貨幣ト
 云フ

之ニ類似スル詐欺ノ貨幣、金持テ法定ノ貨幣ニ類似スト、詞ヲ用ヒタルハ偽
 造ノ貨幣ハ必ラス類似スルノ条件ヲ要ス若シ法律ニ貨幣ニ類似スルノ条件ヲ欠
 キタルハ之レハ偽造ノ貨幣ト云フコトヲ得ス故ニ偽造ノ類似ノ条件ヲ要ス若シ法律
 ノ貨幣ニ類似スルノ条件ヲ要スルヤ否レ偽造スルニハ偽造スルノ意思ヲ以テ偽造
 スル其偽造スル貨幣ノ法定ノ貨幣ニ類似スルハト否ト拘ハラズ偽造ノ貨幣ヲ
 ルニ妨ケナキニテアラスヤト勿論偽造ト云フ以テハ類似ノ条件ヲ完全ニ充タスコトヲ得サル
 モナリ然レモ金持テ類似ノ条件ヲ必要トスルニ至リハ法定ノ貨幣ハ法令ニヨリ

緣×具條件ヲ全國ニ知ラシム全國人民ハ法定ノ貨幣ハ如何ナルカヲ知リ居ルハキ
 ナリ即法定ノ貨幣ノ條件ハ全社会ニ公然トシモテ然リトモハキモ法律上此法
 定ノ貨幣ノ條件ニ適合セヨル処ノ貨幣ハ之ヲ製造スルハルモテ之ヲ法定ノ貨幣中ノ
 信用ノ被ルハハ足ラズ例ハ通貨ハ内形ナハコトヲ知ルルハ今貨幣ノ偽造
 スルモノ角形ノ貨幣ヲ偽造セハトモ角形ノ貨幣ハ通貨ノ條件ト適合ス通貨ノ信
 用ヲ害スルハ足ラズ又石若クハ土ヲ以テ造ルモノ日本ニ行ハル物販ノ條件ヲ又テ以テ現在
 ノ貨幣ノ信用ヲ害スルハ足ラズ要スルハ法定ノ條件ノ一般人民皆知ルルハ故其
 知ハル處ニ付テ其信用ヲ失フ手段ヲ採ラザラハ貨幣ノ信用ヲ害スルト云フコトヲ得ズ
 ル故タクモ法定ノ貨幣ト稍々相混スルハ足ラズ事ノ條件ヲ具ハサハ偽造アリト云フ
 シ得ス其混マシハハ是ハハ偽造ニ稍々異セバ條件必要トスルハ理ノ当然ナリ
 故テ其似ノ條件ヲ要スルハ其異セバ元ヨリ程度別取ニシテ如何ナル処ニ至ルマテ
 必ラス其似セヨルハカサカセルハ此レ甚々難向ナリ此レハ法定ノ貨幣トシテ流通スルハ
 是ハニ至ルナラハ如何ニ其製造粗悪ナルモ其似ノ條件ヲ備ヘテ云フコトノ俾ラズ利
 洽ノ規定ニ於テハ只第百八十二條ニ内國通用ノ金銀貨云々トシテ法律上其似ノ
 一言ニ云ケルハ只辭紙上此ノ條件ナカリモ到底通貨ノ信用ヲ害スルハ足ラザル
 故貨幣偽造罪ノ目的ヨリニテ其似ヲ出スルモノハ其似トモテ其似トモテ其似トモテ
 今其似スルニ付テ分拆ニテ論スルハハ

論スルハハ

第一 貨幣ノ物販ニ付テ其似ヲ要ス

第二 貨幣ノ分量ニ付テ其似ヲ要ス

第三 貨幣ノ紋章ニ付テ其似ヲ要ス

第四 貨幣ノ取柄ニ付テ其似ヲ要ス

第五 貨幣ノ位ニ付テ其似ヲ要ス

此數例ノ其似ニ付テスルモ其似ハ

第一 物販第一ノ量目ニ其似

第二 物販ニ付テ其似ハ偽造スルコトニ於テ殆ト又故スルハ

物販ノ其似ニ付テハ其似ノ程度區域廣カラズカハカラス即テ原價ハ金屬ナル以上

ハ其金屬ノ何種モ其似ノ物販ニ於テハ其似ノ位ニ付テ云フコトヲ得ヘシ故ニ偽造ノ

種モヨリ金貨偽造銀貨偽造等ヨリ此其似ノ別ニ解セハ金ハ銀ハ銀ハ銀ハ銀ハ銀ハ

其似セヨカハカラス然レハ其似ノ金銀銅等ハ其似ノ金銀銅等ハ其似ノ金銀銅等ハ其似ノ

其似ノ條件ヲ充タズニ足ラト信ス

川

四三

ハリ居ル故之ヲ委似スルコトヲ得ス金銀貨ニ於テ偽造マハトモ他ノ金属ヲ用ニハハ
形大トナリ委似スハコトヲ得ス

此原料量目ノ委似ニ於テ偽造罪ニ付テ重キヲ置クハキモニアラカハカラス他貨幣ノ
偽造罪ニ重キヲ置クハキハ第一枚銀第二枚章第三位ナリハハ
世間於テ貨幣ヲ通用スルニ付テ第一注意スハハ形銀ニ次ニ文章次ニ位ナリ此三者
於テ遠クタル知ナキ中ハ其貨幣ノ元原其分量ニ於テハ通常人ノ女モ重キヲ置カサル
ナリ故ニ偽造ニ巧技ナハハ大抵此三者ニ委似スハコトヲ得テ通貨ニ混ニ流通スルコトヲ得
若シ正確ニ論マハ物質上ノ委似モ其他ノ委似モ正確ニ論セカハカラカハモ若シ物質ノ
量目ノ異ラズ正確ニ論スルハ世ニ貨幣偽造罪ヲ罰スルコトヲ得カハ場合多シ
先ツ物質ト量目ノ二措キ形ニ付テ論ヒニ形ハ現今ノ貨幣ハ皆円形ナリ近ハニ其形
ニ付テモ金銀ノ貨幣ト又銅ノ貨幣ト大ニ異ナル兵アリ形ハ共ニ円ナハモ金銀ノ貨幣
ハ貨幣ノ周圍ニ切リ目アリ銅貨ハ之ナシ銅貨ヲ金銀ノ鍍金ヲナシハ形ハ同一ナラカ
ルモ委似アリトナスコトヲ得

文章ノ委似ニ付テハ大抵今日ノ文章ハ多クハ菊桐ナリ此ハ貨幣ニ彫刻セラル菊桐ノ
葉花ヲ用ユル中ハ同一ナルモ菊ニ代フルハ牡丹桐ニ代ハハ鳥ヲ用ユ此時ハ委似アリト
云フコトヲ得位ニ付テハ文字ノ委似ノ巧拙アリトナリ

貨幣ノ偽造ニ付テハ其委似ノモノ大抵世人ノ見テ真正ノモノト混ニテ用ユルニ足レハ偽造
アリト云フヲ然ルナリ

然ルニ紙幣ノ偽造ニ於テハ貨幣ノ偽造ヨリ一層困難ナリ同敷アリ近キニ至リ詐欺
賭博ト共ニ紙幣偽造スニ流行ス詐欺賭博スハ自ラ金満家ヲ装ハカハハ
ラス故ニ之ヲナスモノ紙幣ノ偽造ニテ人ヲ詐欺ス而シテ五円ノ偽造紙幣ニ二種アリ
ハ金ノ紙幣ニ金ニ付テ他ハ異ナルモノアリ而シテ此ノ日本銀行ノ文字ヲ因ヒ他ハ
何程拙劣ナルモ偽造ナリ他ノ異ナルハ日本銀行トスルハ委似ノ条件ノ充カハル故ニ紙
幣ノ偽造ニ非ラス故ニ之ヲ罰スルコトヲ得人幸ニ之ヲ弄紙幣取締規則アリテ之ニ
ヨリテ罰セリ而シテ金ヨリ云ハハ文字ハ銀ノ録トハ異ナルモノ現今ノ紙幣ト能ク委似
シタル文字ヲ用イタルモノ故ニ流通スハコトヲ得ハ故ニ銀録ノ差別アリトスルモ偽造
ノ条件ノ充カズ銀録ト似タルモノ故ニ文字ノ録ナハハ日本銀行ノ兌換紙幣ノ委似
スルヲ刑ヒントスハモ故ニ貨幣ノ文章ノ委似ノ加フ偽造アリトシテ之ヲ罰セカハ
ハカラスト信ス

能ク相似テ而シテ非ナル知アルニヨリ余ハ又別ニノ条件ヲ加ヘ詐欺ノ貨幣ト稱セリ若

本法令ヲ稱スル貨幣ニ似スルモノヲ政府ノ発行スルモノニ偽造ナリ
 然ラハ若シ眞正ノ貨幣トナシテ異ハコトナシテ一個人ノ製造トハ如何之ヲ偽造
 シテ貨幣ノ製造權ハ政府ノ特權ナリ政府以外ニ於テ鑄造權ナク故ニ法令
 定テ貨幣ト異テハコトナシテ偽造ノ貨幣トナス一受入ノ製造トハ之レ詐欺ノ貨幣ニ
 要スルニ法律ノ定ムルニ從テ製造シタルモノナリ此法定ニ違及ミハ從テ偽造タルモノナ
 リ其偽造ノ条件ハ次クモ外見上モ似スル如ク要ス如何ナク法定ノ貨幣ハ全國民皆
 能ク了知スルモノナラシメテ而シテ其信用ヲ害スルニ足ル方法ヲ用ヒサハハカラス其
 方法ハ毒似タル故ニ種々ノ条件ク尤モ必要ナラハ毒似ノ条件ナリトス
 刑法ニ於テハ偽造ト變造トニ區別アリ偽造ハ其利率ノ變造ハ其利率ノ例ハ百ハ
 十二條ニ偽造ハ無期徒刑トシ變造ハ輕懲役ニ処ストナス
 此偽造ト變造トノ區別甚メ困難ナリ先ツ變造ノコト知ルハ偽造ノ何者メハカク知ラ
 ザルハカラス偽造ハ前ニ述ベタルカク法定ノ貨幣ニ毒似タル詐欺ノ貨幣ヲ造ル
 ニト故其他ニ變造ノ場合ヲ見ルコトヲ得ス變造トハ法定ノ貨幣ノ信ヲ改ムル所爲
 ナリ
 此利法ニテハ偽造變造ノ區別アルモ其變造ノ意味ハ *alteration* といふモノノ即變ニ

カラサル意味ナレバ貨幣偽造ノ場合ニハ量目ノ減スルノ意味ナリシ故ニ法定ノ貨
 幣ノ量目ヲ減シテ作りシ故ニ變造ナリ *alteration* ナリ然レ日本ノ變造ナル文字ニ
 已ニ貨幣トナクタルモノヲ更ニ作り直スルコト云フ即チ貨幣ノ位ヲ變スルコトナリ
 此義
 銅貨ノ虎内銀貨トスルカ如ク日本ノ利法ノ變造ノ意味ハ常ニ位ヲ變スル所爲
 ナスニ付テハ貨幣ノ變造アリト云フナリ
 如此定義ヲ下メハ偽造罪ノ定義中ヨリ又之ヲ差別カサルヲ得ス若シ貨幣(偽
 造)ノ原質ノ既成ノ貨幣ヲ用エハ(或他ノ原質ニ取ルコトヲ得ルナリ)斯クハ之ヲ
 差別カサルハカラス精確ニ云ハバ偽造ハ既成ノ貨幣ヲ其原質ニ用ヒ其他ヲ用
 タルモ偽造タルコトニ異ルコトナシ然レ利法ハ變造ヲ規定スル故ニ貨幣ノ既成ノモノヲ
 原質トセハ之ヲ變造トシ既成ノ貨幣ノ外ニ其原質ノ持リタル其ハ之ヲ偽造トナス
 ナリ而シテ此區別ハ理論上ナスハナリトナラス
 此法定貨幣ニテアルモノヲ原料トナシタル偽造ハ利率ノ重クニ貨幣ノ原料トスル貨幣
 ノ變造ハ其利率輕クスルマ其理由全ク此區別ハ判然セリハモ規定アル故ニ
 此之ヲ解釋シナスナリ
 貨幣偽造罪ノ各論

第一及國通用、金銀貨幣ヲ偽造スル場合百八十三條及國通用、金銀貨幣ヲ偽造
 シタルハ無期徒刑ニ処スルアリテ其刑重シ及國通用、金銀貨幣偽造罪ハ性質ト
 シテ重シ刑罰也トシテハ即チ内國ノ通用金銀貨幣ハ法律上強制力ヲ有シタル故
 何人ノ故チノ通用ヲ拒絶スル者ハ已ニ強制的ノ通用カヲ有シ何人モ受授シ拒
 シ得サルトモリ此ノ貨幣ノ信通カハ大ニ保護セラルラス此即本罪ニ付テ無期徒
 刑ノ重利ヲ以テモシ所以ナリ而シテ此本罪ヲ構成スルニハ二条件ヲ要ス即偽造ノ条
 件及行使ノ条件ナリ

偽造行使ハ後チノ説カシ刑論ニ於テ偽造ニテ云マテアリ此意味ハ偽造行使ニ
 ノ行為ヲ以テテ犯罪ヲナスモノトス故ニ此ノ所為ハ同一ノ人ニ出テサレハラス全
 人ノ偽造ニ且テ行使シタルニテハ本罪ヲナス偽造者ト行使者ト異ナルハ別罪
 ナリ構成ニ又ハ何等ノ罪モ構成セザルナリ本罪偽造行使ト全人ニ出ワルヲ要
 スルナリ

刑論百九十三條ニ貨幣ヲ收受シタル後ニ於テ偽造又ハ變造ナルヲ知リテ之ヲ行
 使スルモノハ其價格ニ二倍ノ罰金ニ処ス但シ其罰金ハ二圓ヲ下ハルヲ得ストナリ百
 九十三條ニ於テモ殆ト全ノ規定アリ偽造變造ヲ知リ行使シタルモノトナリ偽造

者ハ別ニアリテ行使者ト異ナルハ偽造罪ヲナラス別罪ヲナスモノナリ故ニ百九十三條
 百九十三條ナレハ行使ノミナラハ犯罪トナラス又ハ變造ノ罪モ別ニ規定ナリ
 變造ハ輕懲役ニテ偽造罪ハ無期徒刑ナリ無期徒刑ト輕懲役トハ輕重ス異ナ
 尙故ニ刑ノ區別ニタル其理由ハ變造ハ物質ヲ貨幣トナリ偽造ハ物質ヲ既成ノ
 貨幣ニ取テ既ニ成リタル物ニ付テ構造ヲ加フハ其末ニ成ラサル物ニ付テ構造ヲ加フル
 モト共罪ノ情狀ニ於テ異ナル故ニ變造ノ罪害ハ小ナリ既成ノ貨幣ヲ
 變造スルハ偽造ヨリマシ難ナリ故ニ其罪モ小ナリ故ニ二者ノ刑ヲ異ニナリ然シ余ハ此ノ
 區別ヲ認メス尤モ二者ノ明白ナル區別ヲナスノ標準無ケルナリ(日本ニ行ハルハ偽造變
 造ノ區別ハ香港ニ行ハレシ正貨ノ表面ヲ取リ中ニ銅ヲ已メタルハ偽造ナルハ變
 造ナルハ如キモノニ付テハ變造ト偽造ノ害ハ大ニ輕重ナシ)

第二外國ノ貨幣ヲ偽造シタル場合(百八十三條)
 内國ニ於テ通用スル外國通貨ノ偽造ニ行使シタルハ有期徒刑ニ処ス日本ニテ
 ハ横濱神戸ニ米貨ノ通用スルヲ見ルノ如クナリ歐洲ニテアリテハ諸國同盟ニテ通用ス
 佛内國ニ伊太利ノ貨幣大ニ流通ス外國貨幣カ日本國内ニ通用スル場合ニハ經
 済上ノ信用ヲ害スルナリ内國貨幣ノ信用ヲ害スルノ度ト區別ナシ故ニ及外貨幣

ヲ區別スルノ必要ナシ然ラハ刑務ニ於テハ二者ノ刑ヲ區別スルノ理由ナキカ如シ物シモ此レ尤モ理由ノ存スルアリ内國貨幣ハ強制的通用カヲ有シ外國貨幣ハ強制的通用カヲ有セス何レモ國外ノ貨幣ノ收受ヲ拒グトシ得ルハ故ニ偽造ニアラズ真正ノ貨幣ヲモ外國貨幣ナラハ拒グトシ得ルナリ故ニ注意スルハ偽造貨幣ノ收受モカハトシ得ル故ニ刑ニモ區別ヲナセシ

第三内國通用ノ銅貨ヲ偽造行使シタル場合(百八十五條)

銅貨ノ偽造ニ付テハ内國ノ銅貨ノ偽造ニシテ罰則外國銅貨ノ偽造ヲ罰セス思フニ外國ノ銅貨ハ内國ノ通用スル場合ハ稀ニシテ(右ノ下ナク)從テ此ノ偽造罪ヲ規定スルノ必要ナキ故刑務ハ外國銅貨ノ偽造罪ヲ設ケザリトナシ

銅貨ノ偽造ノ刑程モカ全銀銅貨ハ幣貨ニシテ通用スル全一ナクモ價格上ヨリ見ルハ害ノ程度自カラ低キ故ニ刑務ノ輕キ刑ヲ課セハナリ通用ヲ害スル莫ハ全一ナク故同一刑ヲ科スヘキモノナルカ如キモ其價格上區別アルナリ

第四紙幣偽造(百八十二條百八十四條)

紙幣ハ貨幣ニ代リテ貨幣トシテ流通カヲ有ス之レ又共通ノ流通カヲ有ス然レニ紙幣具物ハ價値ナシ然レシ全銀貨ノ代表スルハ故ニ價ハモシカク通用ス

ルナリ故ニ紙幣ヲ弁スルニ當リ準備全ヲナケルハ價値ナシ信用下落スルナリ若シ準備全ヲ要セスシテ紙幣自ラ流通スル國ノ富ヲ致ス何カラシ然レモ如此濫弁ナク通用カヲ失フナリ否強制力ヲ以テ通用セシムル故一内紙幣ハ一内紙幣ナレモ物價非

常ニ騰貴シ紙幣ノ購買力ナクナルハ故ニ紙幣ハ貨幣ト異ナレモ紙幣偽造カ経済界ノ信用ヲ攪乱スルナリトシ全銀貨ノ偽造ト異ナレシ故ニ紙幣ニ對シテ正債ト全一ニ罰則アルナリ

紙幣ノ性質ヲ有スルモノニテ他ハ銀行ヨリ発行スルモノナリ官ヨリ発行スルラ紙幣ト云銀行ヨリ発行スルモノヲ兌換紙幣ト云フ兌換券偽造ノ罪ハ百八十四條ニテ銀行ノ兌換券ヲ発行スルニハ法律ニ規定ノ規則ニヨリハ

アラサルハカラス兌換券発行ノ權ヲ有スル銀行モ法律ニヨリ定マル其權利ノ權限ヲ法律ニヨリ定マル故ニ兌換券モ正債ノ代表スルモノナル故正債ノ準備ナクシテ發行スヘキモノニアラズ然レニ兌換券例條ヲ見ルニ兌換券ヲ發行スル銀行ハ資本額ノ範圍内ニシテ限ルニアラズ其十倍ニ達スルコトヲ許シテ返ラハ資本以外ニ於テ

發行スル兌換券ハ準備ナク兌換券ナル故空券ナリ然レニ兌換券ハ資本ノ流通

ハ範圍内ニシテ限ルニアラズ其十倍ニ達スルコトヲ許シテ返ラハ資本以外ニ於テ發行スル兌換券ハ準備ナク兌換券ナル故空券ナリ然レニ兌換券ハ資本ノ流通

コナスモノハ故金ヲ受授ノ間ニ於テ取扱フ金額ノ資本額ノ五倍十倍ニ達スル
 アリ思フニ銀行ニ於テ奈スル兌換券ハ銀行ノ負債ト見做ラレタルモノニシテ其ノ負
 債ノ程度ヲ示シタルモノナリ銀行ノ負債ヲ償却シ得ルノ信用ノ範圍以テ兌換
 換券ヲ発行スルモ引換ニ困難スルコトナシ然レ制限外ノ発行ヲナスハ警戒ヲ
 加フ即利子ノ高低ヲ生ス要スルニ紙幣モ兌換券モ正貨ヲ代表スルモノナリ故ニ者
 等ニテ信用ヲ獲得スルノ必要アリ此レ百八十四条ノ所以ナリ
 外國ノ紙幣外國ノ兌換券ハ日本ニ通用マス紙幣兌換券トハ相似ラ異ナルモノナ
 リ紙幣ハ政府ノ負債ナリトスルハ公債証書若クハ社債証書モ又々ハ約束手形
 モ負債アリ然レ強制力ヲ有セス故ニ罰セザルモノトス

第五貨幣偽造罪ニ未遂犯アリヤ

貨幣偽造罪ハ重罪ナリ重罪ノ未遂ハ視受ヲ待タズ罰スルヲ得故ニ本節ノ罪ハ未
 遂犯ヲ構成シ得ルコト明ラカナリ然レ利込ハ貨幣偽造罪ニ付テハ未遂犯ヲ
 ナスヲ好マス其未遂罪ニ相対スルモノハ別罪ヲ為スモノトナリ百八十六条
 前教条ニ記載シタル貨幣偽造罪已ニ成テ未タ行使セザルモノハ各本利ニ照シ
 ラ云マトアリ此教条ノ改定ヲ改テタル以上ハ未遂犯ヲ適用スルヲ好マザリ

何故ニ特別罪ヲ作リシカ其理由若シ貨幣偽造罪ノ未遂ハ然レト云フ

中ハ未遂罪ノ条件ヲ具ハスハ中ナラハカラス(第百二十条)トナラハ然ラハ犯人意外

ノ障害若クハ所錯ナクシテ一部止メ置キタル中ハ未遂犯トシテ罰スルヲ得ス故ニ貨

幣偽造罪ニ着手シタル後自由意思ニヨリテ偽造ヲ完結セザル中ハ未遂犯トナ

ラス然レニ貨幣信用ヲ害スルノ準備ヲナシタル者アルニ措テ尚サハ廿人或ハ偽

造貨幣ヲ通用シツルアルニテトノ恐怖心ヲ起ス中ハ忽チ信用ヲ失フニ至ル故未

タ害ヲ生セザル場合ニ於テモ罰スルノ必要アルナリ即チ中心ニ至ル迄ノ行為ヲ害アリ

トシテ別罪ヲナストセザルナリ

又豫備ノ場合ニ於テモ尚罰スルノ必要アリトセリ而シテ凡テノ豫備ヲ罰スルニテラス

偽造ニ必要ナル器械ノ豫備ヲ罰ストセリ然レ器械ノノ罰ストナシタルハ狭キニ失

ス何トナレハ器械ヲ備ハルモ偽造ノ材料ノ準備ニシタル場合モ全ニ罰スルノ必要アル

ハニ只利込カ偽造器械ヲ罰スルコトナシタルハ早ニ偽造ノ道ニシテ刑ヒラハモノナル

故ニ器械ヲ備フルヲ罰スルモノナリ

第六、貨幣偽造罪ノ徒犯ハ罪スハコトヲ得ルカ(百八十七条百八十八条)

之ハ犯罪ノ幫助ヲナシタルモノニ屬スルモノナリ故ニ然レテ徒犯ノ規定ヲ適用

スハキニ似たり然レ刑罰ハ徒犯ニ付テモ特ニ罰スルノ必要アリトシテ徒犯ノ懲罰ニ適
刑スルコトヲ止メヌルナリ

百八十七条ハ偽造シテ幫助スルモノナリ豫備ヲ以テ幫助スルモノハ徒犯ヲ以テ論シテ可
ナリ殊ニ此罪ヲ犯スラ知ラテ房屋ヲ貸スル如キハ徒犯ナリ之ヲ以テ論シテ可ナリト云ハ
カハハカラサルニアラスヤ或ハ百八十九条ナキモ徒犯ヲ以テ論スルヲ得ハ之ヲ知ラシメテ徒犯
ノ懲罰ニ讓ハルハ徒犯ノ条件ヲ欠ク中一徒犯ハ豫備ノ所ヲ以テ正犯ノ幫助スルヲ
要ス即チ犯罪ノ実行中又ハ実行後ニ幫助ヲナスモ徒犯ニアラス徒犯ニ罰スルヲ得
ス今百八十九条ハ正犯ノ実行中ノ幫助ナリ故ニ罰スルコトヲ得ス依テ刑罰ハ特別
罪トシテ百八十七条ノ場合ヲ罰シタルナリ又正犯ノ幫助ニアラカレハ徒犯トラス徒犯ノ
幫助ハ徒犯ニアラス此モ徒犯ノ懲罰ニテ罰スル能ハサル故特別ノ規定ヲ待テ罰
スルヲ得ハナリ

器具ノ供與中ニハ房屋ノ供與ヲ含マズ故ニ房屋ノ供與ヲ特別ニ罰スルノ必要アリ
第七條偽造製造ノ貨幣ノ内國ニ輸入シタル場合
百八十九條此規定ハ当然ニシテ疑ヲ容セス

第八條情ヲ知テ貨幣ヲ收受シ之ヲ行使シタル場合

百九十条自ラ偽造セシニアラサルモ行使スルニ當テハ人ヲ欺クノ意思アリ即單純ナル
詐欺取財罪ニアラスヤ然レハ何故ニ本条ヲ設ケレカ思フニ貨幣偽造ハ詐偽ノ性質
ヲ有スルコト前述ノ如ク而シテ其詐欺ノ手段方法ヲ罰スルノ必要アリトシテ貨幣偽
造罪ヲ規定セハナリ故ニ偽造ヲ知テ行使スルモノヲ單ニ詐欺取財ヲ以テ論スルハ
刑輕キニ失ス故ニ特ニ茲ニ重キ刑ヲ科シテ之ヲ罰スル所ヲ以ナリ

百九十三條ハ收受スルハ知ラザリシニ後之レヲ知リテ行使スル場合ナリ之モ詐欺罪
ニ屬ハス別ニ罰セリ思フニ自ラ受ケタル損害ヲ恢復セントシテ行使シタルモノナル故
情ニ於テ輕ノ罰スルモノトセリ

貨幣偽造罪ハ政府ノ造權ヲ害スルナリ法律ニ造貨及捺行權ハ政府ニ屬スル
コトナリ故ニ之ヲ害スルナリ故ニ貨幣偽造ハ經濟ノ信用ヲ害シ且ツ政府ノ造貨權
ヲ害スルモノナリ(造貨法參照)

第二章 印章偽造罪

印章トハ図画又ハ文字ヲ彫刻シ之ヲ印壓シテ信用ヲ担保スルノ用ニ用ユル器
具ヲ云フ

印章ハ定義ハ之ヲ下スニ甚ク困難ナリ然レ支那文字ノ印ヲ調フハニ或ハ物体ヲ他ノ

物体ニ押シテ型ヲ残スコトヲ名付ケテ印ト云フ鳥若クハ獸ノ往來ニシテ跡ニ其足
 跡ヲ残セルヲ印スト云フ凡テ押ス壓カノ方法ニヨリ或物ノ形ヲ各々出ス方俗トハ之
 ヲ印スト云フ思フニ其刑俗ノ印章ノ字又普通ノ印ノ字ハ押スノ意味ヨリ来リ
 ラサハカノ印ノ使用ハ甚々古ク特ニ官者ニ於テ人ヲ任免シ領土ヲ分与スル際ニ主
 権者ノ印ヲ押セルヲ以テ分与スルノ章トヒルカ如シ
 大古ノ支那ハ不明ナモ漢書ノ載ル項西ノ各ナルコトヲ記曹カ印漬レ此与ハスト評
 べリ此時代ヨリ印形行ハシヨリ知ルハシ支那ニ於テ印ニ付テ各委アハモ皆文字ノ
 意義ヲ論スルニ
 印ノ意味ハ函書文字ヲ押シ其写出シタル形跡ニヨリ信用ノ担保ヲナストモ今日
 ニ當リ印刷ノ發達セル中ハ皆テ印ナハト云フニ印ノ發達セルモノニ外ナラサハモ印ナル
 字ハ印ニテ以テ或ハ信用ヲ担保スル場合ニテ云フ故ニ印章ト云フハ必ス或ル信用
 シ担保スルノ要ニ供スル器械ナハトシ忘ルハカラス印章ハ或信用ノ担保スルノ要ニ供
 スル器械ナリトスルハ印章ノ製造迄ニ使用ハ人ノ權利義務ニ干シ大ナルヲ以テナリ
 特ニ日本ニ於テハ信用ヲ保証スルハ必ス此印章ヲ用エハシ慣例トス政例ニ於テ雖
 花押ヲ以テ充分ナリトスル場合ニテモ印章ヲ以テスルハマラサレハ足ラストナリ故

ニノ權利義務ニ干スル印章モ印章ノ有無カ其信用ニ干係ヲ有ス加此慣例ノ存
 スル國ニ於テハ刑俗此印章製造使用ニ付テ之カ制裁ヲ設ケルハ至當ナリト云フ
 ハ今日ハ高濂ニ於テ大分ニ用エハコト減セルモ全ク之ヲ廢セハマラサレハ故爾後
 此必西アルノ期ナリ
 此印章爲造罪ニ付テハ二ツノ區別アリ即チ官衙其信用ヲ保証スルカメニ用フル印
 章一私人ノ其信用ヲ保証スルカメ用之ル印章ニアリ故ニ之ヲ分テ論セン
 第一款 官印爲造罪

官印爲造罪ニ於テ先ツ研究ヲ要スルモハ此官ノ主意ナリ官トハ如何ナルモノヲ指セルモ
 ノウ此ノ意ニ付テハ後段官印ト官吏ノ印ト私印ノ區別ヲ論スルハ必要ナル故ニ此レカ
 之ニ義シトス
 官トハ天皇ノ命ニヨリ其統治權ノ幾分ヲ行フ權利ヲ有スル公ノ法人ヲ云フ
 元來國ハ人民ノ集合体ニテ其集合体ヲ二種委ニ區別セリ治者ノ地位ニ立ツモノト
 被治者ノ地位ニ立ツモノトナリ治者ノ地位ニ立ツモノヲ政府ト云フ被治者ノ地位ニ立
 ツモノヲ單ニ人民ト云フ其治者ノ地位ニアル政府モ天皇ノ統治權ノ執行ヲナスモノニ
 過キス天皇ハ万機ヲ總攬スト至モ一人ニテ凡テノ政事ヲ行フ能ハサル故其行フニ

必要ナル他人ノ用ニ之ニ専スルニ統治権ノ幾部ヲ以テスルナリ故ニ政府ト名ツルモノ
 ハ元一國ニ一ニテニナシ唯此政府ノ事務ヲ行フニ當リ事務ノ分割トシテ各省ヲ置キ
 各府縣ヲ置クノ必要アリナリ故ニ數多ノ官署アルモノ政府ノ事務ヲ分掌スル支
 店ニ過キカハナリ此故ニ中央政府ナル以テ各官署ニシテ各省モ官署ナリ縣廳モ官
 署ニシテ郡役所モ村役場モ或モ意味ニ於テ官署ナリ官署ハ此ノ如ク天皇ノ命ニ
 ヲリ具統治権ノ幾部ヲ執行スル權利ノ有スル法人ト云フトスルハ具法人ノ於テ職
 務上使用スルモノ所有シタル印章ハ各官署ナリト云フコトヲ知ラン
 元政府ハ單一ナルモノ故ニ日本全國ニ數個ノ官署ナシ而シテ數多ク官署アルモノ特別ノ獨立
 シタル官署ニアラス政府ナル法人ノ支店ト云フニ過キス具支店ニ於テ一吏ノ職權ヲ有シ
 其職權ノ執行ニ必要ナル印章ヲ所有シ若シハ使用スルハ全クノ政府ノ印章ノ所有
 使用ト云ハカハカラス要之ニ多クノ官署アル故ニ多クノ印章アリト云フモ其印章ヲ其
 官署ノ職務ノ分掌ノ区域ニ於テ行フ職務ヲ担保スルニ過キサルハシ然レモ利込ハ
 官印偽造ノ表題ニ下ニ於テ只人ト論シタル官署ノ印章ノ偽造ノハ現定ニスルニテ
 此外ニ天皇ノ御璽及ニ國璽ノニツクモモヲ包含セシタル故ニ官印ノ名称ノ下ニ於
 テ此ニツクモ含マシムルハ禮當ナラサルモノ之ヲ保護スルノ必要アリトシテ現定ニスルハ
 夫張之ハ此現定ノ下ニ置クノ外ナキナリ既ニ官印ハ御璽國璽ヲ除キ統治権ヲ行
 フ公法人ノ職務ノ執行ヲ担保スルモノ用ユルモノナリトスルハ凡テ官印ハ必ラス無形ナ
 ル公法人所有シ使用スルモノ限ラサルハカラス此公法人ノ代表シ職務ノ執行ニ
 任スルモノ官員ト云フ官員カ印ヲ所有シ使用スルモノ及令職務ノ担保ノモノニ所
 有シ使用シ得ルモノ之ヲ官員ノ印ト云フコトヲ得ルモノ無形人ノ官ノ印ト云フコトヲ得ス
 故ニ官印偽造ノハ御璽國璽ヲ除キ官員カ所有シ使用スルモノヲ除キ只無形人
 ノ所有使用スルモノニ限ラルルハキナリ條理上ヨリ論スルハ官印モ官吏ノ印モ職務
 上用ユルモノハ之ヲ保護スルヲ必要トスルコト同シキモ利込ハ一言モ官吏ノ印及ハス
 蓋シ條文外ニ出テ適用シ許サレハ官吏ノ印ノ官印ト同視シテ之ヲ論スルコト
 ヲ得ス官吏ノ印章ハ果シテ如何ナルモノカ則テ一人ノ印章トナスハキヤ疑フハキ
 モナリ後收ニ於テ論セン

一御璽國璽ヲ偽造シ又ハ偽印ヲ使用シタルモノハ無期徒刑ニ処ス(二九四)御璽ハ天
 皇躬ヲ所有スル印章ナリ而シテ之ヲ一人ニ比スルハ私印ノ如キモ天皇ハ一國ヲ代表ス
 ル故私印ニアラス國璽ハ國タル無形人ニ屬スルモノナリ天皇ハ如何ナル場合ニ御璽ヲ用
 ヒ如何ナル場合ニ國璽ヲ用ルカ此ニ付テ別段ニ法律ノ規定ヲ具ス故ニ予ハ之ヲ知ラス

本条ニヨルハ各官者、印ヲ偽造シヌハ使用シタルモノハ云々トアル故唯偽造シタルヲ以テ
偽造罪ヲ構成シ使用スルヲ待タス

何故ニ刑論ハ只メ偽造ノ所為ノミヲ論スルコト、モカ之ヲ行使セザレバ社会ニ何等ノ
害ナシ之ヲ罰スルハ何故ナリヤ之レハ必ズ趣意ナカルハカニス官ノ印章ヲ偽造スルニ
付テハ期限必ズ一定ス即官印ハ其官職ノ執行ヲ担保シ証明スル外用エル途
ナシ然ラハ此官印ノ偽造ハ偽造具物ヲ以テモ官者ノ信用ヲ害スルニ足ルモノト
云フコトヲ得ルナリ恰モ貨幣偽造罪ニ於ケル偽造ノ器械ヲ有スルト同シキナリ
官印ノ偽造モ之ト同シ官職ノ執行ヲ担保スルモノ故其偽造スルハ之ヲ害スルニ外
ナラス故ニ官ノ保証シタルハ却テ人皆偽造シタルモノニアラスヤトノ疑ヲ生シ官印
ノ信用ヲ保護スルコトヲ得ス論者或云偽造シテ直ニ之ヲ破壊セハ害ナキニア
ラスヤ然ルニ偽造ノ行為ヲ利体ニテ罰スルモノ故之ヲ罰セザレバハカラス故ニ重キニ失
スト此論一理アリト雖モ其ノ之ヲ破壊セトスル中何人カ未リテ奪フコトナキニアラス
然ラハ官印ノ神聖ヲ侵スコト同シ後令偽造者カ之ヲ玩弄ノ用ニ供スル為メ之ヲ
造リタルニ偽造者以外ノモノ、手ニ移ラハ忽チ官者ノ印ノ信用ヲ失フニ至ルナリ利体
ニ於テ官印ノ偽造ハ偽造ノ一ニテ署スルハ官印ニ對スル信用ヲ害フ未ダ防カ
ントスルノ主旨ニ外ナラス

一、偽造ノ行使トハ特ニ犯罪ヲナス故ニ若シ偽造者ハ行使ト其人ヲ異ニシテ偽造
者ハ偽造罪ノ行使者ハ行使シテ罪ヲラル、故何尋ノ疑ナキモ一人ニテ偽造ノ行使
ニシテ之ヲ一罪トシテ論スルハ二罪トシテ論スル

此尙駁ニ付テ二説アリ或人ハ曰ク人ヲ異ニシテ偽造ノ行使ニ罪ヲ犯セハ中ハ各人ニ對シテ
一罪ヲ構成スルモ若シ今テ同フニテ偽造ノ行使ノ二行為ヲナセシ中ハ一罪ヲ以テ之ヲ罰
セザレバカラス即チ行使ハ偽造ノ結果ニ過キス偽造ノ目的ハ元行使ニアリ偽造者カ
之ヲ行使スルハ当然ノ結果ニ過キカハリ唯偽造ノ行為ヲ罰シテ可ナリト予ハ之レニ
及ニテ偽造ノ行使カ人ヲ異ニシテ二罪ヲナストモハ人ヲ同フニテ偽造ノ行使ヲナセル中ハ
二罪ノ成立ヲ防クノ理ナシ今甲乙ノ二人アリ甲ハ丙ノ時計ノ窃取セシ乙ノ時計ヲ
窃取セバ甲乙二人ノ二罪ヲ犯セハナリ今甲ノ一人アリ一人ニテ或ハ丙ノ時計ヲ取リ又丁ノ時
計ヲ取ラハ如何天ヒ一人ニシテ二人ノ所有權ヲ侵害セバナリ甲ハ即チ丙丁二人ニ對シテ
二罪ヲ犯セハモナリ偽造ノ行使ニ於テモ同シ即チ偽造ニモ一罪ヲナシ行使ヲナシテモ一
罪ヲナス即チ利体ノ禁ムル行為ヲ犯セバハ多ク要セズ故ニ官者ノ印ヲ偽造ノ行
使ニ於テ人ヲ異ニスルハ同シク犯罪ノ成立ニ於テ異ナルコトナシ利ノ適用ニ於テハ二罪ヲ

以テ論セバハカラス

官印使用ニ付テ一言ニ即テ茲ニ所謂使用トハ必ラス其印ノ目的トスル処ニ向テ用ル
コトヲ要ス即官ノ印ノ信用ヲ害スルニ進ミタル程度即官印トシテ使用スルコトヲ意
味スルナリ故ニ偽造シテ其偽造ノ良否ヲ換スル為メ紙ニ印スル中ハ之ハ印ヲ使用
シタル事實アルモ官印トシテ之ヲ使用スルニアラハル故之ヲ用タリトシテ罰スル
ヲ得ス若シ使用アリトスレハ如何ナラハ之ニ對シテ之ヲ使用スルモ使用ノ罪ヲ逃セス又
官印トシテ使用セバモニアラハル之ヲ罰スルコトヲ得カハナリ

三特別ノ官印ハ八六条ニ規定スル所ニシテ產物肉品等ニ押用スル官ノ記号ノ印章
之ハ元官印ニ相違ナシ別ニ規定ヲ設クルノ必要アリ之ヲ通常ノ官印トシテ罰
セカハナリ產物肉品等ニ押用スル記号ノ印章ニ僅ニ產物肉品ニ對スル官ノ信用ヲ
保証スルニ過キス後之ニ付テハ捺キ故特別ニ規定セバモナリ而シテ書籍等ニ記
セバモハ高層莊ノ罰然シ共ニ官印ナラ故一九五條ヲ廣ク解セバ此等ハ皆之ノ一
九五條ニ入ルナリ茲ニ言スヘキコトハ記号トハ如何記号モノ印章ナラ故ニ場合ニ
信用ヲ担保スルモノニアラス此ハ或ニ特別ノモノニ用ニハル信用ノ記号トナリ此ハ低層
ニシテ印ニアラス又ハ文字ヲ表スモノニアラス一般ノ信用ヲ担保スルモノ用ニル処ノ印ヲ
用ニルコト雖ハサハル場合ニ用ニル印章ナリ之ヲ記号トシタルナリ然シ官印ニ過キサル
之ニ付テ注意スヘキハ八九九條ト二〇一條トノ干渉ナリ

一九九條ニ於テハ印紙再貼用ノ罪ヲ規定スル罰金刑ニ止マル然ルニ第二〇一條
ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ云マタリテ此ノ刑法ヲ具依テ行フハ罰金ノ刑ニ對シテ
刑ニ附スル中監視ヲ付スルコトナル現行ノ刑法ニ監視ハ自由刑ニ附シ罰金刑ニ監視
ヲ付スルコトナシ然ルニ此節ニ記載シタル云々監視ヲ付スルトナスハ誤ナリ思フニ一九九條
ノ規則ノ二〇一條ニ置クコト順序轉倒ナラモノニシテ誤リタルモノナラ故ニ徒來判決
例ニ於テ此ノ誤ヲ正セリ

第二款 私印偽造罪

私印偽造トハ私印ヲ所有スルトキ人ノ承諾ヲナシテ其人ノ名義ニ干スル印章ヲ作ル
為ラ云フ(三〇八條以下ニ規定ス)

私印偽造ハ官印偽造罪ト具犯罪ノ成立ニ付テスニ異ハ所ノモノアリ官印偽造罪ハ只
又偽造ノ所為ノミヲ以テ其犯罪ヲ構成ス之ニ反シテ私印偽造ハ偽造ノ所為ノミニテハ
偽造罪成立セス行使スルヲ待テ始メテ此罪成立ス官印偽造モ官ノ承諾ナクシテ撰
リニ官ノ印章ヲ作ル罪ニシテ私印偽造モ其人ノ承諾ナクシテ名義人ノ印章ヲ偽造

スルニトナリ此ノ取為一ハニ何故ニ此ノ構成条件ヲ異ニスルヤ官印ニ付テハ偽造ノハニテ私印
ニ付テハ偽造行使ノニ条件ヲ要ストセシヤ官印ニ付テ偽造ノ行為カ安寧ヲ害スルト云フ
ナラハ私印ニ付テモ具偽造ノハカ其安寧ヲ害スルモノト云フハキ様思ハル何故官ニ対ス
ル場合ト私人ニ対スル場合ト犯罪ノ成立ニ付テハ要件ヲ異ニセハヤ具理由官ノ信用
ヲ害スル行為ハ個人ノ信用ヲ害スルヨリモ其害大ナリ從テ官印ニ付テハ之ヲ保護ス
ル程度私印ヨリ一層重カラサルハカラカモナリ官印ヲ重クスルハ官印ハ偽造ノ犯罪
ノ成立条件ヲ少クスルニ加ラハシ夜令ハ茲ニ一危険物ノ設置アリト仮定セヨ之レニ触
ルハ人ノ害ヲ受クルヲ恐ルモノナリ其危険物ノ危険ノ程度大ナクハ可成人ヲ遠サクル
ノ方法ヲ取ラサルハカラス若シ其危険物カ十箇ヲ覆レ安全ナルモ十箇以內ノ人ヲ入ル
トシ得ス然レ其カ五箇ヲ覆レテ危険アレハ五箇以內ノ人ヲ立入ルトシ許サストナス此
ト同シノミテ官印ノ信用ヲ保ツト必要ナレハ官印ニ対スル加害行為ノ尤モ小ナル部
分ヨリ之ヲ禁スルハ必要アラハレシ偽造ノ行為ハ私印ニ比シ格別ノ危険アラストモ
モ此ノ官印ヲ重ニスルヨリ尤モ輕微ナル偽造ノ行為ヲモ禁スル必要ナルナリ
之ニ反シテ私印ニ付テハ害ノ程度小ナル故偽造ノハニテハ末メ十分ノ害ヲ為スニ足ルハ
キモノナラストシ行使ヲ待テ初メテ之ヲ禁スル理由アリトセラルナリ害ノ大ナルハ又禁
ムルト大ニシテハナレハ又禁スル行為小ナリ私印偽造ニ付テ論スルハハ尙黙一アリ

今私印偽造ハ公義ノ人ノ承諾ヲクシテ之ヲ作リ行使スル行為ナリト云フ果シテ公義
人ノ承諾ヲクシテ其人ノ印章ヲ調製及行使スル罪ナリトスレハ承諾ヲナスハ人ノ
現存モオハルハ印章ノ偽造罪私印偽造罪トハハトテ得ルヤ余ハ無論承諾ヲ
ナスヘキ人ナキハ絶対ニ私印偽造罪成立スルノ論ヲ持スルモノナリ例ハ死亡者ノ
官印偽造シ又ハ偽名ノ人ノ官印ヲ偽造スル場合如キ印章偽造罪ヲ構成スルモ
ノニアラス之ニ付テハ解釈上種々ノ説ヲナスモノナリ若シ死者ノ印章ヲ偽造シ偽造罪構
成セストモハ相続人ノ権利ノ蹂躪ヲラハナリ其印章ヲ以テ相続人ニ対抗スレハ如何
ニテ其ノ権利ヲ保持スルコトヲ得ルヤ故ニ若シ印章ヲ偽造シ人ノ害ヲ及ボセハ其死者
ハトト者スハトシ向ハス偽造罪ヲ以テ論スルハキナリ然レ此論一理アリトモ誤論ナリ
刑務ノ原則上死者ヲ保護スル法律アラズ特別ノ主旨依リ死屍ヲ放棄シ墓塚ヲ
發掘スル罪現定スルモ其主旨ハ其死者ヲ保護スルニアラス風俗ヲメ又ハ利他人
タメニ之ヲ保護スルナリ故ニ人ヲ殺カントシテ誤テ死者ヲ刺セル中ハ不能犯トシテ罰
法律ハ之ヲ禁セス死者ニ対シテ如何ナル行為ヲ行フモ法律外ノ一物体ナル故刑務ハ
之ニ対シテ保護ヲ與ヘントセス故ニ何故独リ印章ニ付テノ保護ヲ與フルヤ死者ニ

刑法

二二

付テハ身体必譽ニ付テ保護スルノ必要ナシ何人モ有ル印ヲ作リシモ故之ヲ保護スルノ要ナシ論者ト雖モ今日全ク世ニナキ偽名ノ印章ヲ作ルモ尚罪アリトハ云ハサルナリ全クナキ人ト已ニ一物体トナリ人ニテラサルモノハ印章シ偽造シ大異ナルモノトナスハ理ナキモノナリ故ニ二〇八条ニ他人ノ私印トアリ已ニ他人トアル故人ニアラサルモノハ印章ヲ偽造スルノ刑例ノ明文上ニモ明カナリト此故ニ余ノ死亡後偽印シテ余ノ子孫ニ対シ抗対スル私印偽造ニアラスニテ詐欺取財ナリ故ニ詐欺取財以外ノ途ニテ之ヲ使用セハ之ヲ罰スルコトヲ得ス但此議論ニ付テハ實際ノ解釈大ニ異ル才判所ニ於テ行ハル解釈ハ二〇八条ノ論ヲ即死者ノ生存ノ當時ノ日付ニ溯リテ偽造行使シタルモノニ付シハ生存者ノ偽造行使ト等シク之ヲ罰ス然レモ死亡後ノ日付ニハ偽造行使シタルモノニ付シハ之ヲ罰セストナス然レモ姑息ノ解釈ナリ然レモ余ノ論ニ於テモ死者ノ生存中ニ印章ヲ偽造シ然レモ其死後ニ於テ之ヲ使用セハトキハ多ク疑局起ルモノヲ罰スルモノト論ナリ死者ノ生存中ニアリテハ刑例ノ保護ヲ受フルモノハ印章ヲ偽造セハ其偽造ニ付テハ刑例ノ禁シタル行為一部ノ行ヒタルモノナリ而シテ其死シタル後ノ行為ハ其使用ハ刑例ノ禁マサルモノナリ此場合ニ於テ名義人ハ尚暫ク生存セハ独リ偽造ノ害ノナラス使用ノ害ヲ蒙リタルモ會々死セリモノ故犯人ハ死者ニ対シテ十分ノ害ヲ加フルヲ得ナリ十分ノ害ヲ加フルヲ得ルハ死亡ノ原因スルモノニテ此ノ死亡ハ犯人ニ対シテ意外ノ升錯ナラン若シ名義人ノ生存中本人ノ印章ヲ偽造シ其使用シテ証書ヲ調製シ其ノ死後ニ其証書ヲ使用セハ印章偽造罪ノ完全ナルモノナリ此レ疑ナシ要スルニ余ハ此ノ社会ニ生存マシタルモノニ付テ何等ノ行為モ之ヲ保護マス從テ此ノ私印偽造ニ於テモ死者ノ私印ヲ偽造スルコトモ偽造罪構成セス若シ此ニ依リ詐欺取財ヲナセハ之ハ取財ノ豫備ニ過キス

此ノ定義ニ依レハ一人ノ有スル印章ハ公務ノ目的ニ供スルモノニシテ其印章ハ一個人ノ所有ニ属スルモノヲ常ニ之ヲ私印ナリト云フハ此ノ故ニ刑事々借錢スルタメ証文ニ押ス印章ハ私印ナリ其刑事ノ判決ヲ作ルタメニ記名ノ下ニ押ス印章ハ私印ナリ現ニ証文ノ下ニ押スモノ判決又ニ押スモノ共ニ実印ト云フモノヲ用テ共ニ刑事何誰カ使用スル私印ニ過キス

此ノ定義ニ依レハ一人ノ有スル印章ハ公務ノ目的ニ供スルモノニシテ其印章ハ一個人ノ所有ニ属スルモノヲ常ニ之ヲ私印ナリト云フハ此ノ故ニ刑事々借錢スルタメ証文ニ押ス印章ハ私印ナリ其刑事ノ判決ヲ作ルタメニ記名ノ下ニ押ス印章ハ私印ナリ現ニ証文ノ下ニ押スモノ判決又ニ押スモノ共ニ実印ト云フモノヲ用テ共ニ刑事何誰カ使用スル私印ニ過キス

余議論ヲ此ニ止ルルハ發成アラシキニ進メテ判事ノ使用スル実印ヲ私行公秘カニ
 用テモノヲ私印トナスコト何人モ異議ナシ然レモ公務上特ニ用ユル印章アリ之レ即職印ナ
 リ前ニ職印アリシモ今日ハ之ヲ止メテ職務上用ユル印章ハ私行上用スルモノナ
 ル然レ別ニ職印ヲ作リタルハ其職印ハ官印私印何レナリヤ
 官印ハ官タル公法人ノ所有ニ使用スル印章ナリト定義ヲ与メリ然レハ有形ノ人
 間ノ所有使用スル所ノ印章カ官印ナラサルコト明ラカナリ会社ト社員トノ印章ノ
 如ク故ニ官印ト云フコトヲ得サレト明ナリ而シテ職印ハ官吏ノ印ト云フコトヲ得ル
 モ刑法中ニ規定ナシ而シテ官吏ハ官ト云フコトヲ決シテ同シカラス故ニ之ヲ罰ス
 ルコトヲ得サレナリ而シテ其職印ハ其官吏ノ職務上ニ用スルモノニテ此ハ私印ノ外ナラ
 カルナリ然レ何人モ之ニ賛同ヲ与ヘス判例ヨリハ官吏ノ職務上用ユルモノハ官印
 ト見做ストナリ居レリ
 余ハ之ヲ對シテ私行上職務上共ニ用スル印章ハ何カ若シ印章ノ使用スル目的ニ付
 テ印章ノ性質ヲ定ムベキモノトセハ只ハ職印シテハ官印ト論セハ同一ノ旨以テ
 使用スル実印ハ官印ナリトセサルハカウナルナリト云ハシ
 要スルニ刑法ノ欠矣ナリト云フト雖モ此鮮紙上職印シ官印ト見做スニヨリテハ

私印トナスカ尤モ穩當ナリト信ス

私印ノ偽造ヘシテ真物ニ模擬スルハ必要ナシ又私印ノ名義人ハ實際印章ノ所有
 スルコトモ必要ニアラズ偽造ト云フ中ハ原物ノ形式ヲ模擬セオハ偽造ノ条件ニ当リ
 ハ如ク思フコトナラ然レ之ハ全ク私印ノ偽造ニ依ラハ此条件ヲ必要トセズ貨幣偽
 造罪ノ中述ヘタル如ク貨幣ニ其形式物價量目ニ付テ全國ニ布造スルモノ故貨幣
 ニ付テ全國人之ヲ知ル故ニ法律ノ規定ニ模擬ヲセオハ之ヲ使用スルコトヲ得サル故
 模擬ヲ要ス官印ニ於テモ然リ公布セル官印ハ貨幣ト全ク模擬シ条件トス
 布告セサル官印ハ私印ト同ク之ヲ論ス
 布告ナキ官印特ニ私印ニ於テハ何人モ之ヲ知ルハカラス其取次章ハ何人モ之ヲ知ラス
 故ニ其人ハ我印ナリト知ルハシ故ニ何レモ其印ヲ知ルコトヲ要ス故ニ本人ノ印ヲ知ラサル
 故其人ノ真物ヲ模擬スルト否トニ拘ハラズ其人ノ印章トシテ使用スル價値アラハ偽
 造罪成立ス故ニ其人ノ印章ヲ有セサルモ其名義ノ印章ナリトシテ世ニ通用スル性
 質ノモノヲ作シハ之レ偽造罪ヲ構成ストナスナリ

第三款 印章 盗用罪

此規定ハニテ余ヨリ官印盗用罪ハ一九七条ニ規定シ私印盗用罪ハ二〇八条ニ

現定ス
 私印盗用ノ何物ナルカヲ知ルハ刑務ノ現定ヨリ其受義ヲナスノ外ニ刑務ノ現定
 ニヨリハ印章盗用罪ト他人ノ印章ノ形蹟ヲ取り且ツ之ヲ用ユルニヨリ成立スル処ノ
 罪ナリ故ニ印章其物ヲ取リシヤハ其ノ用ユルト否トモ拘ハラズ普通ノ窃盗罪ヲ構
 成ス印章盗用罪トシテ特ニ設ケタル犯罪ハ其実物ヲ用ユルニテ其物ノ形蹟
 シ用ユルニヨリ故ニ普通ノ窃盗トハ全ク趣キヲ異ニス
 印章盗用罪ハ印章名義人ノ承諾ナクシテ其印章ヲ使用スルノ罪ナリト云フモ
 同一ナリト思フ唯印章ノ偽造罪ト異ナル所ハ偽造罪トハ別段ノ印章ヲ作ルヲ必要
 トス盗用罪トハ承諾ヲホメスシテ使用スルトナリ人ノ承諾ナクシテ印章ヲ盗
 用スルコトハ盗用罪モ偽造罪モ同一ナリ
 印章盗用罪ハ唯人ノ印章ノ形蹟ヲ其人ノ承諾ナクシテ取リタルニテ成立スル
 之罪トナラス其取リタル形蹟ヲ使用スルコトヲ犯罪ノ要件トス第一条件ナリテ
 ハ窃盗ト窃盗罪若クハ詐欺取財ノ構成条件ヲ其後適用スルコトヲ得但々人ノ
 承諾ナクシテ其ノ物ヲ取ルコトハ後ニ窃盗罪ノ如ク詳述スルニテ印章ノ盗用
 第一条件ニ付テハ之ヲ論究シ要ス使用スルコトハ如何其取リタル印章ヲ如何
 ナル方添ニテ使用スルハ使用セリトナスカ大ニク注意スベキモノアリ凡ソ印章ノ使用ハ之ヲ
 証書ニ製造シテ初メ其用ヲナスモノナリ即チ已ニ出来タル証書ニ此印章ヲ押
 スカ又ハ印ノ上ニ白紙ヲ付クルカナリ故ニ印章ノ使用ハ大抵証書ノ偽造トシテ
 場合多シ証書ノ偽造ハ従テ多ク場合ニ偽造証書ノ使用ハ印ノ上ニ付テハ押
 捺シタル印章ノ使用ヲ見ザルコトナリ即チ偽造証書ノ使用ハ同時ニ見ハルモノナリ
 証書ト同時ニ使用シ見ルモノナリ
 果シテ押捺印影ノ使用カ偽造証書ノ使用ト同一ナクモナリヤ否ヤ此処注意ヲ要
 スルノ要ナリ余ノ考ヘニテハ押捺印影ノ使用ヨリ偽造証書ノ行使ト為シテ異ハモノ
 ナラザレハ之ヲ檢ヒシレハ押捺印影ノ使用ハ既ニ偽造証書行使以前ニハモノニテ
 平行スハモノニアラザルヤト思フ

先ツ同型ヲ明瞭ニスルメ他ノ場合ヲ想像セン印影盗用ニ場合アリ白紙ニ他人
 印影ヲ盗用スルコト証書ヲ作リテ他人ノ印影ヲ盗用スルコト是ナリ
 第一場合ハ印影ハ何等ノ用ヲナラス唯其依ニシテ置クハ他人ノ印影ヲ盗用スル
 天印影盗用ノ未遂罪ニ止マル行為ト云ハカハカラス然レモ若シ印影ノ押捺シタル白
 紙ヲ他人ニ賣買スルハ他人ノ普通ノ白紙ヲ買フニヨラス之ヲ押捺シタル印影ヲ

買フナリ之レ賣買目的物ニテ優ク高價ヲモナスナリ此場合ニ賣買ハ果シテ押捺印影ノ使用アリト云フハキヤ余ハ之ノ押捺印影ヨリ白紙ノ賣買ハ盜捺印影ノ使用ナリ若シ白紙トシテ賣買トシハ印影ハ一ノ汚臭ニ過キス何ノ價値ナシ然レ印影ノアル為メニ賣買アルモノトスルハ其印影ノ高天買ニシテ白紙ノ賣買ニアラス即盗用ニタル印影ハ高天買セラレタル故ヨリ働マタルモノナリ白紙ノ印影ヲ盜捺シ之ヲ弊ハ置ケハ未遂犯ナル之ノ賣買ハ使用又ハナリ又白紙ノ印ヲ押スハ印ノ効用ハナキナリ然レ之レ目的トナリ賣買アリタルハ印ノ働キアリト云フハレ

印影ノアル白紙上ニ一証書ヲ書キタル中末之ノ行使セザルハ此場合ハ印影ノ使用アリヤ如何余ハ印影ノ使用アリト云フヤ否ヤハ白紙ノ押捺シタルノニテハ印ノ効用ナシ然レ証書ヲ作リタルハハサレハ信用ヲ担保スルナリ之ヲ用ニ供マサルモ其証書ヲ作ルニ付キ緊要ナル材料ノ一部トナリタルハ取りタル後ニ使用スルモノナリ疑ヒナキニアラスヤ要スルニ印影ヲ盜用シタルハ白紙ヲ賣買シ又此ノ証書ヲ作リシ中モ印影ヲ使用アリト云フナリ

次ニ作成ニタル証書ノ上ニ印影ヲ盜捺シタルハ如何此場合ニ唯々盜捺ノ處為レキカ尚使用ノ行為ヲ含ムトナスカ若シ然ラヌトモハ已製証書ノ上ニ盜捺ノ

作為ハ白紙ノ上ニ盜捺シタル上ニ証書ヲ作リタルハ於テ印影ノ使用アリト云フノ議論ハ全ク破ルル故ニ余理論ヲ貫クニハ已製証書ノ上ニ印ヲ盜捺シタルハ二六只盜捺ノ處為レキナリ同時ニ使用ノ行為アリト云ハサルハカラス然レ此ノ如ク云フシ要ヒス

白紙ノ印影ヲ盜用スル中ニ單純ナル盜捺ナリ然レ証書ノ上ニ於テ盜捺シタルハ單純ナル盜捺ノ外ニ又証書ニ信アルモノト認メシムル為メニ用ニナリ然レ証書自体ハ未ダ行使セザルモ印影ハ其印影スル効用ヲナセシナリ其使用アリト云フヲ可ナリ然レ印影ノ使用ト証書ノ使用トハ平行スルカ如キモ二者カ別スレハ印影ノ行使ヲ常ニ先スハモノナリ

余ノ此議論ニ根拠アリ凡テ私印及官印ノ偽造罪ヲ見ルニ官印ニ付テハ皆テ偽造ト濫用トノ二トナス偽造罪ノミニテ使用ヲ以テ使用罪ヲ構成ス偽印ノ偽造ハ如何ニ行存ラ云フカ印ヲ造ルト使用スル如何証書ニ押捺スルハ如何有形ノ印章ハ異ハモ其義人ノ印章ノ使用ナリ果シテ然ラハ余ノ此議論ニ根拠アリ凡テ私印官印ノ偽造罪ヲ見ルニ官印ノ付テハ偽造ト使用トヲ區別セリ而シテ偽印ノ使用トハ如何ナル所為ラ云フカ之ヲ偽造ト比較セサルハカラス印章偽造ハ一ノ印章ヲ製衣

作スル行為アリ人使用トハ印章ヲ同時ニ使用ニ供スルコト依リ之ヲ証書ニ押セリ則チ印章ノ使用アリト云フヲ得ハ他人ノ印章ヲ使用スル場合ニ盗捺セル印影ヲ同時ノ用ニ供セリ則チ使用セリト云ハカラス若シ盗捺印章ノ使用ト証書ノ行為ト同時ナラサレハ使用セリト云フハカラストヤ入印章偽造ノ場合ニ其印章ノ使用ハ証書ノ行便ト平行セリルハカラスト云ハカラス然レ何人モ偽造ト使用ノ區別ハ一有形ノ印章ヲ造ルラ云フハ印影ヲ捺書スルヲ云フトナリ而シテ其捺書マハ証書ヲ行便スルヲ使テ初メテ印章ノ使用アリト云ハカラス然ラハ盗用罪ノ場合ト同一論マカスルハカラガリナリ

第百九十七條 監視者自ラ犯シタル時

此監視者トハ何ヤ事實上ノ監視者ヲ職責上ノ監視者ナレバ若シ事實上ノ監視者ノ任ニ當ルモノハ官吏タルト非官吏タルト別ス又官吏ニテモ職責アルモノトナキモノト別ス同ハス然レ事實上ノ監視者ナリ徒テ責任アリト云ハカラス然レ刑法ハ果シテ廣ク此如キ意味ニテ云ヒシモノナルカ余ハ廣義ニアラスト信ス即監視ノ職責アルモノニ付ラハ狭義ニ解セカスルハカラスト信ス之ヲ監視ヲ重ク罰スルノ所以ナリ

二〇五條ニ八九條ニモ同様ノ規定アリ之ヲ職責アル官吏ニ付テ特別ニ設ケタルモノナラサルハカラス其制裁ヲ重ク普通人ノ犯シタル者ヨリ一等ヲ加ヘ罰スル所以ナリ

要スルニ監視者トハ職責アル人ヲ云フ

第三節 文書偽造罪

文書偽造罪トハ文書ノ名義人ノ承諾ヲ得スニテ之ヲ製作スル行為ヲ云フ

一 官文書偽造罪

二 私文書偽造罪

第一款 官文書偽造罪

官文書トハ官吏ノ其職務上調製スルモノ文書ヲ云フ刑法ニ於テハ單ニ官ノ文書トハハノミニシテ其官ノ文書ハ如何ナルモノヲ指スカ之カ定義ヲ下ルハ徒テ官文書ノ定義ニ付テハ議論百出今ニ至ルモ其帰スルモノ知ラス余ハ之ヲ揭タルモノニ義ニ照ラシテ立論スルハ故ニ人ニ答レラレカスナリ

徒テ官文書ノ定義ニ付テハ余ノ下ルモノ定義ヨリ又シテ廣キ定義ノ如ク思ハル即チ官文書トハ官署ニ於テ所有シ若シハ保有スルモノニ限テノ文書ヲ云フナリ故ニ官署ニ

所有保存スルモノハ其文書ノ性質如何シ尙ハス官吏ノ其職務上ニ調製セルモノ
 名ノルニ官文書トシ然レテ之ヲ以テ論スルナリ學者中此定義ヲ取ルモノ多ク裁判
 所ノ实例ハ此ニ依リ余ハ之ノ学說裁判例ニ從フコトヲ欲ス官文書ハ官
 署ノ保有所有スル文書シテ之ヲ以テ限ルモノニ限ルナリト信ス及令
 ハ裁判所書記ノ豫審庭ニ於テ豫審調書ヲ調製シ公判ニ公判書ヲ調製ス
 スル官吏ノ職務上調製セルモノナリ又戸籍吏ノ戸籍ヲ調製スルモノ又同一ナリ此故
 ニ及令官吏ニテモ文書調製ノメニ權利ヲ有セリルモノカ調製セルモノハ之ヲ以テ官
 文書ナリト云フハキモノニアラス思フ裁判所ノ書記カ戸籍ノ事件ヲ以テ戸籍簿
 ヲ調製セハ官吏ハモ職責ヲ有セリル故此ノ戸籍簿ハ官文書トラス戸籍
 吏ノ裁判所ニ書記ノ為メニ豫審調書等ノ調製スルモ其豫審調書トシテ
 効力ナシ從テ官文書ニアラス
 余ノ解釈ノ如クニ官文書ノ狭義ニ解セハ最早官文書ノ性質ニ付テ疑フ狭ク及ナ
 レ之ニ及ニ一般ノ解釈ニ從ハ官署ノ所有シ若シハ保有スル文書ヲ以テ官文書
 ナリト云フ故之ヲ調製スル人ノ資格如何シ同ハス何人カ調製スルモ若クモ官吏カ
 所有保有セハ皆之ニ官文書トラスナリ例ハ訴訟記録ニ付テハ刑事訴訟記

録ニ教訓記録混合ス警察官ノ押リニ文書アリ檢事ノ作リニ文書人民ノ作リ
 告発書告訴狀若シハ始末書又ハ其他ノ請願書モアリ豫審庭ニテ裁判所
 書記ノ作リニ豫審調書又公判始末書モアリ檢事豫審庭ニテ檢証調書
 醫師ノ鑑定書モアリ此數個ノ記録ニ一括シテ付スルニ訴訟記録ノ名稱ヲ以テシ
 之ヲ裁判スルニ一變ノ期間保存ス裁判所ノ保存スル書等ハ皆官文書トス記
 録中ニ綴レル記録ハ皆官文書ナリ從テ警察官ノ作リルモノテ(文書)破ハ官文書
 毀棄罪ヲ構成シ其他同シ現在然リ若シ此ニ綴リ込メタルモノヲ皆官文書トセハ官
 署ニテ送テ保存スル書籍新聞紙ハ皆官文書ナリ之ヲ破ハ官文書毀棄罪ヲ
 リトセリルハカラス論シテ茲ニ末ニハ廣義論者モ之ヲ認メルヲ得サルハ此ニ何故ニ訴
 訟記録中ニ綴レル人民ノ出マシ告訴告発書ハ何故官文書ナルカ人民カ調製セル
 モノニ過キス醫師ノ鑑定書又然リ此等カ何故官文書ナリヤ之等ハ官署ニ保存
 セラレハ故官文書ナリト云フハ官署ニ保存セラル書籍モ官文書ナラサルハカラス
 如何ナル莫カ人民ノ告発告訴狀ト書籍ト異ナハ全ク同シカラサルニアラス同一物ノ中
 一方ヲ官文書トシ他ヲ官文書トセサルハ不条理ナリ余ノ解釈ニヨリハ只職務上調
 製セザレハ官文書ニアラストスルモノ故訴訟記録中ニモ官文書私文書トシテアリ

故若シ人アリテ此一冊ノ訴訟記録ヲ毀棄スルトモ一方ニ官文書ノ毀棄罪一方ニ私文書ノ毀棄罪アリト云ハサルハカラサルナリ
官文書ノ意義ハ辭狀ノ難問トナリ不法ノ刑ヲ適用スル傾キリ辭狀ノ一変スルヲ得サレハ刑法ニ定義ヲ掲クルノ必要アリ故ニ草案ニハ明ク官文書ハ官吏ノ調製スル文書ナリト掲ケタリ

果シテ官文書ハ官吏ノ職分上作リタル文書トハ官吏ノ職分上作リタルモノハ如何ナル時如何ナル如ニテモ常ニ官文書ナリ例ハ任官ノ辭令書アリ其辭令書ヲ書換ヘタルハ其モノハ官文書ノ變造ナリトモ云フ得ルカ辭令書ハ官更ノ職務上作リタル文書ナリ官吏ノ事故ヲ証明スルモノナリ之ヲ變造セバ無論官ノ文書ヲ變造セルモノ故ニ官文書ノ變造ナリ試ミニ余ク辭令書ヲ偽造シ之ヲ行使セハ何人モ官文書ノ偽造セシムトハ疑ハサルナリ然レモ余ハ其辭令書ヲ受取りシ後其辭令書ニ付キ不満ノ為メ破リシ中ハ余ハ官文書ノ毀棄罪アルヤ之ニ疑尚ナリ辭令書ハ之ヲ与ヘタル以上之ヲ官ニ返ス義務ナシ余ノ所有ニ歸ス余ノ所有物ハ自由ニ処分スルコトヲ得ルコト所有權ノ結果トシテ何人モ余ノ行為ニ對シテ批難スルモノナシ此辭令書ニ付キ制限ナキハ此ノ辭令書ニ付キモ自由ニ

ニ処分スルモノ有スルコト明カナリ官文書ハ官ニ作リシモノナリ然レモ之カ余ノ所有物トナラズ之ヲ破ル權利アリ故ニ之ヲ破リタルハ官文書毀棄罪ヲ構成セ

然ラハ文書ヲ變造セルハ官文書變造罪アリ然レテ毀棄ノ并毀棄罪ナシトスルハ困難ナル問題ナリ入罪ニテ塗抹スルモ同ク罪ナリトスルコトモ同ク困難ナル問題ナリ變造ト異ナル如何ニアルカ

此問題ハ輕微ナリ別ニ六ヶ敷トナシ余ハ權限ニ於テナシ得ヘキ行為ハ如何ナル行為ニ犯罪トナラス之ニ及ビテ刑法禁制命令ニ及ビテナシタル行為ハ犯罪ナルハク余ノ所有物ニ付テハ自由ニ如ク有權ヲ有ス他者モ法律等ニテ制限セサル以上ハ此處分權ヲ行フコトナシタルナリ刑法ハ官ノ文書ヲ毀シタルモノヲ罰スル規則ヨリ官ノ文書ト云ヘハ其文書ハ官署ノ只職務上調製シタルモノトナラス官署ノ如ク保存スルモノニテ余ノ自由ニ処分スルコトヲ得サル場合ヲ云フモノナラン法律ハ禁スル如ク余ノ自由ノ処分ヲ行フコトヲ得サル場合ニシテ又書ヲ毀棄スルハ官文書毀棄罪ヲ見ルト出モ余ノ自由ニ処分スルコトヲ得サル中ハ仮令官ノ文書ト出モ之ニ処分スルコトヲ得サルナリ故ニ特別ノ禁制ナキ以上ハ官ノ文書ニシテモ余ノ所有

ニ属スハ自由ニ処分シ得ルナリ

及之ニ變造偽造ノ行為ハ刑法ニ於テ余ニ禁セリ余ハ自分ノ筆墨紙ヲ用イテ
官文書ヲ作ルコトヲ刑法ニ禁セリ若シ余カ官署ヨリ受クタル紙トシテモノヲ用
テ同ク文書ヲ記スコトヲ禁セリ然レテ余カ受取リタル辭令書ハ余ノ所有
ニ歸スルモ其物ヲ原料トシテ變造偽造ヲナセリニテニテニテニ變造セハナリ官
タ余ニ与ヘル文書ハ三等ノ辭令書ナリ之ヲ官ニ兼諾クニテニテニ三等ノ辭令書ニ調製
スレハ此行爲ヲ刑法ニ禁スルナリ故ニ余カ所有權ヲ処分スルコトハ余ノ所有物ノ原料
トシテ刑法ノ禁スル行為ヲナセハ罪アリトハ異ナリ故ニ毀棄ノ場合ニハ罪ナク變造偽
造ノ場合ニハ罪アリトナリ

偽造ト變造トノ區別

偽造ト變造トハ刑法ニハ文字上具區別アリ(三〇三條)此ニ從テ未ク奪説ニ從ハハ初ヨリ
何等ノ記載ナキ物質ニ付キ初ヨリ終リマテノ文書ヲ複製セハ此レ偽造ナリ之ニ反シテ
初メ又又ノ文書アリ其文書ノ上ニ修正ヲ加フルノ行為ハ之ヲ變造ト云フナリ恰モ又書
ヲ作ルコト文書ヲ修正スルコトノ差ノ如キ區別ナリ此ノ辭令ハ刑法ノ文字ニ付テノ辭令トシ
テハ一般ノ説ハ正當ナラシ然レテ余ハ偽造ノ文字ニ付テノ辭令トシテ之ノ場合ニ意用シ得ルモノト信
ス即チ變造ノ事實ヲ認メス此等ノ詞ヲ或ル事實ニ付テ辭令ハ以テ加フコトヲ得ハ
キモ其意味ニ付テ辭令ハ殆ト此等ノ區別ナキモノナリ初メ白紙ニ辭令書ノ文字ヲ
繕シテ書クハ偽造ナリ而シテ三等ノ修正ヲ加ヘタルモノ故ニ變造ナリト云フモ余ハ變
造ト偽造トハ同ク文字ヲ偽ルモノナリ唯多クニヨリテ異リト異ルト云フニ過
キス余ノ辭令スルコトヲ得ザル埋ナキ區別ナリト信ス即チ修正ヲ加ヘタル又ハ偽造ナリ
ニアラスヤ偽造ノ一部ニ限ル場合偽造ノ一般ニ涉ル場合トノ差アルナリ

一、官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造シタル場合

官吏ノ公証シタル文書トハ如何ナルモノヲ云フカ官吏ノ公証シタル文書トハ其文書ハ私
文書ニ屬シ即チ一人ノ調製シタル文書トシテ而シテ其文書ノ上ニ官吏ノ其文書ノ効
カヲ保証シタルモノヲ云フナラン例ハ家屋ノ賣買ノ場合ニ登記シ受テル片ヲ登記所ハ
此賣買書ニ基キ登記スルナリ登記済ト証書ノ割印ニ登記済トシテ証明ヲ
与テ未ダ登記ヲ行ハサル前ニ於テハ金銭借借証書ニ官吏ノ與書ヲナセリ例ハ不
動産ヲ抵当トシテ借金スルハ抵当トシテ借金セルコト相違ナキモノトノ與書ヲ与テ
然レ後公正証書ト等シキ効カアルナリ此等ハ公正証書ノ場合ナリ官吏ノ保証ヲ与タル
後此私書証書ニ變造偽造ノ行為ナレハ之レ公正証書ノ變造偽造トシテ罰金ノ官

又書ト今ノ取扱アリ即公証ヲ偽ルモノナリ家屋ナリトシテ公証シ後家屋ナラザルモノ
 二書換ハタル中ハ其公証ヲ偽ルモノ故私文書ニ變造偽造ト同シナリ然レハ誤レハ解
 釈ヲトル人アリ官吏ノ私文書ニ公証ナシ其公証ト遠イタル事實アルハ不可ナリ
 公証シタル後此文書ヲ變造偽造セハ公証事實ト文書事實トハ齟齬シ公証其
 物ヲ偽造セハト同一ニ帰着スル故公証ノ偽造變造ヲ官文書ノ偽造變造ト同一トナセ
 ハナリ然レハ私文書ヲ偽造シテ之ヲ以テ官吏ノ公証ヲ受ケタル片ハ事實ナキ文書ヲ
 偽造シテ其文書ニ公証ヲ求メ公証官吏ハ偽造ナレトシテ知ラス余ノ貸借トナシ余ノ
 不動産トシテ証明ヲ与ヘ犯人ハ之ヲ以テ借金ナリ此場合ハ公正証書ノ偽造ニアラス
 偽造文書ヲ公証シタルモノナリ此二者ノ偽造ノ公証ニ前後シタルモノニテ同一ナリトシテ
 公文書偽造罪ヲ以テ論ズリ然レハ誤ナリ刑法ハ公証ニタル文書ヲ偽造スルコト
 ヲ禁シ偽造文書ニ公証ヲ求ルコトヲ禁セス此場合ハ私文書偽造ニテ其ノ偽造
 文書ニ公証ヲ乞フコトヲ禁セス此罪ニ付テハ制裁ナシ刑法ノ文意明カナル故大審
 院モ此解釈ヲ取ルニ至レルナリ
 公債証書其他地券トアルハ此公債証書ハ政府ノ發スルモノニ限ラス公法人ノ發
 スルモノ又公債証書トシテ之ヲ訓スルコトヲ得ヘシ東京市ノ市債某縣ノ縣債
 ノ証書ハ公債証書トナレハ

第二百五條ニ於テ研究ノ目的タルモノハ簡單ノ文明ナリ此ニ付テ解釈スルハ他ニ言フヘ
 キ也ナシ

管掌手ニ係ル文書トハ如何ナルモノヲ云フカ刑法規定中稍々此規則ト相似タル文字ヲ
 用イタル他ニツマリ看守盜ノ場合(二八九條)(二七三條)等ナリ
 然レハ看守ノモノヲ或ハ官吏ノ管掌手ニ係ルト云ヒ或ハ看守スルト云フ片ハ此ニ事實上ノ保
 管ヲ云フ若シハ職務上ノ保管ヲ云フカ從來此ノ向點ニ付テハ二様ノ解釈ヲナス裁
 判断ハ事實上ノ保管ヲ意味ス故ニ官吏ハ其職務上ニ付テハ二様ノ解釈ヲナス
 トシ同ハス保管ノ任ニ當ルハ此責ニ任セラルヘカラス現ニ看守盜ノ場合ハ職務上ナキモノ
 時ノ任ニ當ルハ看守盜アリトスル判例アリナリ(秘密院書)如此保管トハ事實上ノ保
 管ニテ職務上ノ保管ヲ云フアラスト然レバ余ハ此ヲ皆官吏トシテ職務トシテ
 其任務ニ當リシ場合ニアラカレハ保管手ト云フコトヲ得ストノ 解釈ヲナスモノナリ官吏ニ
 此テ其職務ニアラスニテ一時看守保管ノ任ニ當ルハ職務上ナケレハ普通人ト同シト故
 特別ノ刑ヲ課スルノ要ナシ刑法ヲ持テ看守若シハ保管手ニ係ル場合ヲ重ク罰スル
 ニ至リシ所以ハ決シテ看守者メー保管者メハカ故(事實上)ニアラズ若シ事實上

監守ノトシテ重シク罰スルハ通常人ノ場合ニテモ今ナリハハラス此管掌手ノ其
 官掌手ニ係ル印章ヲ盗用シ私書ヲ偽造セハ重ク罰スヘキナリ然レハ刑俗ハ外官吏
 ノ監守シタルモノ管掌手ニタルモノハ偽造盗取ニモハモトクモ區別ス然レハ官吏
 ハモノカナシタル場合ニ犯スルハ重ク又ハノ理由何レナルカ若シ理由アリト又ハ通常人ノ
 場合ニ於テモ同シカラザルヲ得ス職務ナキ事ニ於テ又モ異ナリトナキナリ後テ此ノ理
 由見ルハモノナシ故ニ官吏ノ職各ナク事実上管掌セル場合ヲ云フニテラス職務カ
 リテ監守ノ責ニアル場合ヲ云フモノナリ然レハ職務ニヨリ看守ノ責ニ任スルハ通常人
 ヲリ重キ任務アリモノナリ其文書ヲ保護スル任務アルモノナリ通常人ヨリ重キ罪アリ
 トスルハ理由アリ故ニ刑俗々重ク罰スルハ官吏ノ身分ニ特別ノ情状アリトモナリ西人ニ
 管掌ニ係ルトハ官吏ノ官制ノ定メタル職務ナリトシテ之ヲ保管セル場合ヲ云フナリ如
 此解ニハ穩当ナリト信ス例ヘハ裁判所書記ハ豫審調書ヲ作ル義務アリ又公
 判始末書ヲ作ル義務アリ登記官吏ハ登記簿ヲ造ル職權アリ裁判所書記
 ハ豫審調書ヲ作ル際ニ被告ノ申立ヲサルトシテ記載シ利益アルトシテ記シ不利益
 ナルトシテ記マサレハ偽造セルモノナリ登記官吏ハ登記簿ヲ造ル事ニ當リ人民ノ提出セル書
 面以外ノトシテ記スルハ登記簿ニ偽造ナリ戸籍吏ハ戸籍簿ニ男子ト記スヘキヲ

女子ト記セルハ普通人ヨリ一等ノ重キ罰ヲ科スヘキモノナリ

然レハ若シ人民ノ虚偽ノ陳述ヲ記載セル場合ハ決シテ偽造罪ヲ以テ論スヘカラス
 例ヘハ被告ノ豫審廷ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ作ル書記ハ其終記スルモ書記ノ罪ナシ
 戸籍吏ニ虚偽ノ届出ヲナス片之ヲ記スルモ虚偽ナラス之ト等シク公証人カ公正証
 書ヲ作ルニ屢々虚偽ノ公正証書ヲ記載スルコトアリ若シ公正証書ニシテ余ト友
 人間ノ干係ヲ知ラスニテ此財産ヲ賣買アリトシテ公正証書アリトシテ造リシキハ罪
 ナシ然レ余ト友人トノ干係ヲ知リテ虚偽ノ証書ヲ作ルコトアリ此場合ハ管掌ニ係
 ル文書ノ偽造罪ナリヤ現ニ此事件起ルハ偽造アリトシテ罰セリ控訴院ハ之
 シ無罪トセリ余ハ控訴院ノ判決ヲ正当ナリト信ス此尙題ヲ論スルニ當テ分拆
 スルコトヲ要ス偽造罪ハ自記スル文書ノ上虚偽ノ事實ヲ記スルコトヲ云フ即チ自ラ
 記スル權利ナキ中ニ擅ニ他人ノ文書ヲ記スルコトナリ此甲乙ノ賣買主ハ一ノ妄想ノ賣
 買ヲナシタリ妄想ノ賣買ハ法律ノ禁セサル中ハ之ヲナシテ差支ナシ故ニ妄想ノ賣
 買ハ法律ハ決シテ之ヲ禁マラス然レハ此妄想ノ賣買ノ証書自ラ記シタリトテ偽造
 ナリト云フコトヲ得ス若シ之カ私署証書ナルハ無罪ナルコト明ナリ此レハ此妄想ノ賣
 買ノ事實カ公ナル公証人ニ類シ公正証書トセリ公証人ハ甲乙ノ言ヲ折テ聞キ

甲乙と言フ如ク公正証書ヲ作りメリ甲乙ノ意ニ及ニル証書ヲ作りシナリ若シ甲乙ノ意ヲ知ラザリニ中ハ無論無罪ナリ然レモ甲乙間ノ事實ヲ知リテ相謀テ虚偽ノ書買フナシ虚偽ノ公正証書ヲ作りシナリ地方裁判所ノ之ヲ罰スルニ至リテ所
以ハ公正証人ハ法律ノ命令ニ従テ其文書ヲ作製スル權利ヲ有ス法律ハ此公正証人ニ命スルニ虚偽ノ文書ヲ作成スルノ權利ヲ与ヘス故ニ其文書タルハ常に正実ノ文書ナルヲ要ス然レニ此公正証人ハ甲乙間ノ書買ハ仮想タルコトヲ知リテ虚偽ノ書買スルコトヲ知リテ之ヲ作成セリナリ法律ノ命令ニ依リテ所行ヲナリ故ニ偽造罪ヲ行ヒシナリ法律ノ命令スル所ニテ作製セシモノナレハ法律ニ對スル偽造ナリ法律ノ命令スル所ハ私人ノ之ヲ申請シ公正証人ハ其法律ノ範圍内ニ於テ文書ヲ作ル權利アリ然レ其範圍外ニ於テ文書ヲ作ルハ法人ノ委任ニ及セリ法人ニ對シテ虚偽ノ文書ヲ作りシナリトシテ之ヲ虚偽ノ文書作製ノ罪アリトシテ罰スルコト判決ヲ与ヘタリ然レモ控訴院ハ其判決ヲ破リ無罪トセリ余ハ其無罪論ニ賛成ス公正証人ハ人民ノ申請ニ從テ文書ヲ調製スル權利ヲ有スルナリ人民ノ申請スル事項ハ眞偽ヲ研究スル義務ナシ其申請スル事項ニ由ラ之カ文書ヲ作りテ其義務終ルナリ從テ公正証人カ人民ノ申請ヲ虚偽ナルコトヲ知リ又眞実ノ申請ナラハ之ヲ知ルモ

公正証人ノ義務上何等ノ影響ヲ及ボサス已ニ人民ノ申請ニ付テハ眞偽ニ付テ正ス權アリ偽ナリトシテ之ヲ拒ム權ナク眞ナリトシテ之ヲ作ル權アリトラス故ニ偽ナリト信シテ尚之ヲ作ル權アルハ共謀ニテ作りシハ仮想ノ書買ナリトシテ之カ公正証書ヲ作りシモノニ外ナラス故ニ無罪ナリ要スルニ人民ノ申請ニ基キ官文書ヲ調製スルキハハ官吏ハ其申請眞偽ヲ審査スルノ權ナキ故其虚偽ノ陳述ヲ記セリトテ偽造罪ヲナスカス若シ之カ偽造罪アリトモハ裁判所書記ハ毎日偽造罪ヲ犯スモノト言フヘキナリ(官吏ノ公書ノ公書ノ全シキヲ明治二十三年敕令第百号ニ依リ)

第二款 私人書ノ偽造罪

私人書トハ一人ノ資格ヲ以テ調製スル條テノ文書ヲ云フ其偽造トハ文書名義人ノ承諾ナクシテ他人ノ人ノ文書ヲ製作スル場合ヲ云フ私人書ヲ分テニツトナス
權利義務ニ干スル私人書ト論ス
權利義務ニ干スル私人書ト論ス

第一場合權利義務ニ干スル私人書 此ノ場合ニ於テ含有スルモノハ至テ廣シ即ニ
九、二、一、場合ヲ含有ス

此、為換手形、此ハ高法ノ規定ニ讓ル但ニ偽造ノ罪ハ構成スルニ必ス高法ニ規定スル為
 換手形ノ条件ヲ具備スルコトヲ要ス苟モ為換手形トシテ之ヲ偽造ス又ハ為換手形
 トシテ通用シ得ハキ証書ナリトハ、後令高法ノ条件ニ違フタルアルモ為換手形偽造
 ノ成立ヲ妨ケス之レ石ト貨幣偽造ト似テ法律ニ規定ノ条件ヲ規定スハ多ク其ノ条
 件ヲ裝フタルモノニアラサレハ偽造アルト云フコトヲ得サルトモ然レ偽造ナラハ真正ニモ
 ト全一ナラス偽造ナル以テハ必ス如何ナル巧妙ナルモノモ權利ナキモノカ權利アリトシテ
 作リシモノ故也、其莫ニ於テ差違アリ偽造ナル以上ハ已ニ真物ニ違フコトヲ豫想
 ス真実ニ違ヒシモノカ必要條件ナリトモハ多ク違イアリトテ之レ為換手形トシテ使
 用スルコトヲ得ハ偽造セリト言フテ可ナリ大モ此ハ程度ノ問題ナリ
 B、裏書ヲ以テ賣買スハキ証書、裏書ヲ以テ賣買スハキ証書ハ其意味
 狭キニ失マサルモ寧口讓渡スハキ証書トスルカ可ナラシカト信ス然レ此ハ不明ナリ
 C、金額ト交換スハキ約定手形、此モ不明ナリ唯一銀行ヨリ他ノ銀行ニ送
 金スルハキ金額ヲ送ラズ送金手形ヲ送り融通ヲナス此等ハ此種ノモノナラン元之
 ハ普通証書トモナリ然レ此ハ高法ニモナキ手形ニシテ又約定手形トモ異ハ故約
 定ニテ金額ト交換トスハキ手形故之ニ誤當スハキモノナリト信ス此モノ裁判所モ
 重罪ヲ以テ之ヲ罰スルコトナリ

以、賣買、貸借、贈与、交換、權利義務ニ于スル証書

此ハ通用区々ナリ尚懸ノ困難ハ此等ノ權委ニ付クニアリ又死者ノ証書ヲ偽造セル
 中罰スルヲ得ル、尚懸ナリ然レ又書偽造罪ハ名義人、承諾ナクニテ裸リニ之ヲ
 作リシ場合ナリ此定義ニ基ケハ証書ノ名義人、現存スル場合ニアラサレハ偽造罪ヲ
 豫想スルコトヲ得サルハ、特ニ權利義務ノ干係ハ死者生者同ニ發生スルモノニアラサ
 レテ權利義務ハ現存セル人生々活ノ必要ノ為メ設ケタルモノニシテ其必要ヲ充タス
 タメ此語ヲ設ケタルハ、故ニ死者ト權利義務ヲ發生スルコトナシ然ラハ今死シ居ル
 人ノ名義ヲ借リテ偽造スルモ又其証書カ權利義務ニ干スル刑体ノ偽造罪ヲ構
 成シ得ルヤ否々先ツ立派ヨリ論スレハ死人ノ証書ヲ偽造シテ其証書ヨリ相続
 人ニ對シテ權利ノ伸張ヲナセハ其相続人ハ大ナル損害ヲ蒙ルコト明ナリ時ニ生者ノ
 証書ナレハ其全額ヲ正マレ之ノ真偽ヲ正スト容易ナシモ死者ニ對シテ之ヲ真偽
 シ正スト容易ナシモ業ニアラサレ然レ被害者ハ生者ノ証書偽造ヨリ死者ノ証
 書偽造ハ大ナル害ヲ蒙ル故ニ立派上ヨリ人ノ之ヲ罰スル必要アリ現行刑体ノ規則
 ニ照シテ果シテ死者ノ証書ヲ偽造ハ之ヲ罰スルコトヲ得ルヤ二一〇ニ於テ死者ノ証

書ヲ偽造シテ罰スルコトヲ得ル規程幾分ニテモルヤ如何
 死書ノ証書ヲ偽造シタル場合ニ於テハ之ヲ罰スルコトヲ得ル何故死者ノ証書ヲ偽
 造スルモ制裁ナシト云フカ刑俗ハ人ノ權利義務ヲミテ其所ヲ得ルニシテ目的トナ
 ス抑社会ノ秩序ハ各人ノ權利義務ノ其處ヲ得ルニアリト云フコトヲ意味スルニテラス
 ト鬼ノ社会ノ秩序ヲ紛乱スルト云フ意味ハ權利義務ヲ其所ヲ得サルト云フ事實
 ナリ此權利義務ノ干係具也ヲ得サレ中ハ社会ノ秩序乱ル其紛乱ヲ防クカ刑俗ノ
 目的ナリ權利義務ノ干係ヲ絶テタル人間以外ノモノニ對シテハ刑俗ハ之ニ干係スル
 キ道理ナシ刑俗之ヲ保護スルキ目的ヲ有スル理ナシ生者ト死者ト如何ナル場合ニ
 契約成立スルキ場合ヲ權利義務發生スルキコトナシ然ラハ死者ノ名義ヲ以テ
 証書ヲ偽造スルモ此証書ハ他ノ犯罪ノ用ニ供スル目的又ハコトヲ得ルコトモ無ク偽
 造証書トシテ之ヲ禁スルキモ、ニテラス若シ死者ノ偽造証書ヲ製造シ禁スルコ
 トハ禁スル所ノ反対ニ於テハ必ラス之ヲ保護セザルハカラス刑俗ハ死者ヲ保護スル
 コトハハ猶一步進シテ社会ニ虚無ノ人天狗仙人等ノ人ノ想像スル人ノ名義ニ於テ証書
 シ偽造スル場合ニモ禁スルキナリ社会ニ虚無ノ人ヲ保護セザルハ刑俗ハ果シテ何ノ
 保護セントスルカ然レハ死者ハ人間ニテラス故ニ之ヲ保護スルキ要ナシ

茲ニ論スルハ死者ノ偽造証書トシテノ制裁ナキナリ此偽造証書ヲ全ノ社会ニ害シ
 ナサレバト云フニ決シテ然ラス死者ノ証書モ生者ノ偽造証書モ同一害ヲナスモノナリ
 然レバ凡テ偽造罪ノ性質ハ他ノ犯罪ノ手段ヲ罰セントスルニ在リ故ニ生者ノ偽造
 文書ハ手段トシテ猶之ヲ罰スルノ必要アリ即チ偽造マラレタル人ヲ保護スルノ必
 要アリ後之ヲ使用シテ詐欺取財ノナマハキハ詐欺取財トシテ罰スルノ要アリ
 此場合ハ偽造セラレタル人ヲ保護スルニテラス詐欺マラレタル人ヲ保護スルナリ之
 ニ反シ死者ノ偽造証書ハ他ノ犯罪ノ手段トシテ罰スルノ要ナシ然レバ此ノ行為ハ詐
 欺取財ノ用ニ供セバ詐欺取財ノ罪ハ之ヲ罰スルナリ此場合ニハ詐欺マラレタル人
 ノ保護スルナリ故ニ死者ノ偽造証書ハ証書トシテ罰スルニ然レバ其他ノ手段トシテ
 偽造マラレ詐欺マラレタル人ヲ保護スルナリ此場合ニハ証書ハ没収ノ目的ナリ然
 レ生者ノ文書ニテ之ヲ犯罪ノ用ニ供セバ之ヲ没収スルニ何ノ規則ニヨリテ没収スル
 ノ生書ノ文書トシテ犯罪ノ用ニ供シ没収スルハ刑俗第四百三十一條第一項ニヨリ法律
 ニ禁制セシ物件トシテ故ニ没収スルナリ刑俗ニハ偽造証書ハ其製造ヲ禁ズ其
 シ禁ズルモノヲ製シタル故ニ其禁ズル物件トシテ没収スルナリ及チ死者ノ証
 書ヲ製造マシトキ刑俗罰則ノ中ハ本条ノ第一項ヲ適用スルコトヲ得ル然レ之ヲ

犯罪ノ用ニ供スルモノハ第一項即チ犯罪ノ用ニ供スルモノトシテ之ヲ没収スルハナリ要
 スルニ死者ノ偽造証書ハ之ヲ罰セザルモ犯罪ノ用ニ供スルモノトシテ之ヲ没収ス
 ルハ余ノ断定ニ及テ論テ現ニ裁判所ニ於テ奇ナル判決例アリ判決例ニ於テハ死者ノ
 偽造証書ニ於テニ區別ノ要ス即チ死者ノ生存中ノ日付ニテ此証書ヲ偽造スルハ生存者ノ
 証書ト同ノ罰又蓋シ生存者ノ証書ヲ偽造スルハ後其生存者ト死シメリト同シ及チ死者ノ
 偽造証書ハ其死後ノ内ニ調製セラレタルハ中之死後ノ証書トナシ之ヲ罰スルコト
 ノ得トナス李説ニ於テモ此説ヲナスモノアリ又絶対ニ全ク罰ストナス人アリ試
 之ニ以テ官文書ノ偽造罪ニ比較セシ若シ日本ノ官制ニ掲ケザル官文書トシテ偽造スルハ之
 ノ官文書ノ偽造罪アリトナスコトヲ得ルハ否ヤ蓋シ之ノ罰スルコトヲ得ザルハ之
 同シノ死者又ハ虚無ノ人ノ証書ヲ偽造スルモ偽造罪アリト云フコトヲ得ザルハ之
 若シ死者ノ生存日付ニ溯テ偽造シタルハ罰スルコト云ヒ虚無ノ人ノ生存セシト考フ
 日付ノ偽造ヲナセハ罰セザルハ之ヲハ之見不都合ナリ
 独イテシテ困難ナル場合アリ即遺言証書偽造場合之ナリ刑法第二百十條中
 贈遺ト生存者ト生者間ノ贈与ト生者ト死者間ノ贈与ヲ規程シタルモノニアリテナル
 ヤ遺ノ字ニ付テ難アリ若シ此贈遺ノ字ヲ分テ生者間ノ贈与ト目シテ贈
 ト云ヒ生者ト死者ト間ノ贈与ニ遺ヲ用イテト解釈スル現行刑法ハ遺言証書ニ
 付テハ特別トシテ之ヲ罰スルモノナリト解スルコトヲ得ヘシ明文トシテ死者ノ偽造証書ヲ罰
 スルナリ然レハ此文字ハ元々国民法ノ *Donation* シテ用イタルナリ民法
 用語中生存者間ノ贈与ノ贈与者ト死者ト贈与ニ遺ヲ用ヒタルコトナクニ語合マテ
 生者間ノ贈与トナフナリ故ニ遺言証書ヲ偽造スルハ罰スルモノトハ曖昧ニ之ヲ付
 スルコトナカルハ之必ラス明ラカニ遺言証書ヲ罰スルコトヲ記スヘキナリ
 以上論ニシテ私書偽造ハ皆ノ推利義務ニ干原スルモノナリ從テ其証書ノ偽造
 スルハ今時ニテノ被害者ヲ生スルニ至ル第一証書ノ名義人ノカ權利義務ニ付キ
 ラ損害ヲ被リ第二ニ社会ノ損害ヲ受ク然レ此犯罪ニ実害アルコトヲ見出スコ
 トヲ困難トスルモ此等ヲ罰スルハ異存ナシ然レ此刑法ハ此權利義務ニ干スル以上
 ノモノヲ罰スルハナラス推利義務ニ干セザル其他ノ偽造ヲ罰ストマリ即二百十條中
 二項ノ權利義務ニ干スル以外ノ文書ハ如何ナルモノヲ云フカ此文書ノ實義ニ付テハ解
 釈区々ニシテ末ニ之ヲ普通ノ解釈ニ見ルニ証書偽造ニニ条件ヲ要ス
 一 眞実ヲ害スル
 二 實害ヲ生スル

一 眞実ヲ害スル
 二 實害ヲ生スル

3. 被害者ノ意思ニ及スル

此事件具ハラサレハ假令權利義務ニ干セタルモ文書ヲ偽造スルモ常ニ偽造罪アリト云フコトヲ得ス

第一、眞実ヲ害サレハ其作製カ爲メニ社会ヲ害セス眞実ヲ害マサレハ詐欺ノ用ニ供セラルハナリ又眞実ヲ生セケレハ世ノ損害ヲ爲サレ以上ハ刑法四訓スヘキコトナレ又眞実ヲ害シ眞害ヲ生シテモ名義上ノ承諾モ可ク若キリ刑法之ヲ四訓スヘカラスト云フ人アリ余ハ之ニ從フ能ハス余ハ第一条件ニハ服スルナリ此レカ偽造ノ基本ナリ名義人ノ承諾ナケレハ眞害ニ及セケルヤ否ヤト眞害スルト否トシ同ス名義人ノ侵スルナリ其名義人ヲ侵セルトモ罰ヲ得ス根本ナリ凡ソ罪ヲ犯シ刑罰ヲ受フルニ付テハ其必要條件トシテ必ラス犯意ノ要ス其ノ犯罪ノ意思ノ解釈カ一度誤ルハ凡テノ名義ノ説明ニ付テモ解釈ノ体シ異ニス余此處偽造罪ニ付テ一言述フルニ要ナリ余ハ犯罪ノ意思ヲ解釈シテ刑罰ヲ禁制命令ニ違反スルノ意思ナリトス故其意思ハ常ニ合カラス各本条ニ付テ異ナレバ人ノ所有物ヲ奪フノ意思アルハハ窃盜ノ意思アリト云フ他人ノ所有物ヲ毀ルノ意思アルハ放火ノ意思アリト云フ故ニ刑罰ノ各本条ヲ廢シテ別ニ犯罪ノ意思ナシ此外ニ如何ナル場合ニテモ刑罰ヲ禁止スル或事項ニ違反スルノ意思ヲ抱ケハ之ヲ以テ此レ犯罪アリト云フコトヲ得然レニ世人ノ能ク此犯罪ノ意思ト犯罪ノ自由ヲ混同シテ之ヲ同一ナリトスルヲ以テ屢々各論ノ説明ニ於テ大ナル誤解ヲ来ラシム犯罪ノ理由トハ犯罪ノ意思ニ依テ發生スル原因ヲ云フ人ノ罪ヲ犯スニハ故ラ犯罪モス犯罪スルノ理由アリテ初メテ犯罪ノ意思發生ス人ヲ殺ス意思ニ付テハ或ハ其人ニ恨ヲ報スル理由アラシク或ハ其人ノ財物ヲ奪ハントスルノ念アラシク人ヲ殺スノ意思ヲ發生スルノ原因ニ付テハ種々無量ナリ而シテ其意思シテ發生スル原因ヲ防カントスルコト伊不利ナ者ノ研究スル知ナリ此原因アリテ意思發生ニヨリ一罪ヲ構成スルナリ人々此犯罪ノ理由ト意思ノ混スルニハ大抵人ノ原因ニ於テ嘉ニスヘキアルハ惡意ナシト云フ惡ムハキアレハ惡意アリト云フ親戚病ヲ症視スルニ忍ビス盜竊盜セハ惡意ナシト云フ又君又ノ爲メニ休シ報スルハ人ノ義理ノ標本ナリ此ノ如キ人ハ惡意アルハキ善ナシ罰又ハコト云フ皆刑罰ノ規則中只一ヶ条故殺罪ノ如ク故意ノ文字ナル故此ノ故意ノ意味ノ通商ノ犯罪ト異ル又惡意ニ犯罪ト異ル惡意又ハ故意ハ今此故意又ハ惡意ハ人ヲ害スルノ意思ナリト云フ然レニ二七四条ニ故意アル文字ヲ用イタルハ犯罪ノ外ニ別段意思ヲ要スルコトヲ表ホシタル

意思ナシ此外ニ如何ナル場合ニテモ刑罰ヲ禁止スル或事項ニ違反スルノ意思ヲ抱ケハ之ヲ以テ此レ犯罪アリト云フコトヲ得然レニ世人ノ能ク此犯罪ノ意思ト犯罪ノ自由ヲ混同シテ之ヲ同一ナリトスルヲ以テ屢々各論ノ説明ニ於テ大ナル誤解ヲ来ラシム犯罪ノ理由トハ犯罪ノ意思ニ依テ發生スル原因ヲ云フ人ノ罪ヲ犯スニハ故ラ犯罪モス犯罪スルノ理由アリテ初メテ犯罪ノ意思發生ス人ヲ殺ス意思ニ付テハ或ハ其人ニ恨ヲ報スル理由アラシク或ハ其人ノ財物ヲ奪ハントスルノ念アラシク人ヲ殺スノ意思ヲ發生スルノ原因ニ付テハ種々無量ナリ而シテ其意思シテ發生スル原因ヲ防カントスルコト伊不利ナ者ノ研究スル知ナリ此原因アリテ意思發生ニヨリ一罪ヲ構成スルナリ人々此犯罪ノ理由ト意思ノ混スルニハ大抵人ノ原因ニ於テ嘉ニスヘキアルハ惡意ナシト云フ惡ムハキアレハ惡意アリト云フ親戚病ヲ症視スルニ忍ビス盜竊盜セハ惡意ナシト云フ又君又ノ爲メニ休シ報スルハ人ノ義理ノ標本ナリ此ノ如キ人ハ惡意アルハキ善ナシ罰又ハコト云フ皆刑罰ノ規則中只一ヶ条故殺罪ノ如ク故意ノ文字ナル故此ノ故意ノ意味ノ通商ノ犯罪ト異ル又惡意ニ犯罪ト異ル惡意又ハ故意ハ今此故意又ハ惡意ハ人ヲ害スルノ意思ナリト云フ然レニ二七四条ニ故意アル文字ヲ用イタルハ犯罪ノ外ニ別段意思ヲ要スルコトヲ表ホシタル

刑罰

七

ニテラス故殺罪ノ定義ヲ作ラシカメ無用ノ詞ヲ用イタルモノナリ其前条ニ謀殺罪
ヲ定メ我セル故之ト対セシカメ此用語ヲナシタルナリ試シテ人ヲ害スルノ意思トセハ
人ヲ殺シタルニ損害スルノ意思ヲ要ストセハ如何ナル意思カ殺スハ害ヲナス意思
ナリ害ト殺トハ同シキコトヲ云ヒシモノニシテ重複シタルモノナリ

右ハ殺人罪ノ時ニ故意ノ文字ヲ用イタル故之ヲ害スルノ意トシテ之ヲ要意トモ云フニ
至リ然ルニ親ノ為メニ窃盗シ君又ノ為メニ報スルハ一ハ親ノ為ニスルモノニテ他ハ君
父ノ為ニスルモノニテ皆他ノ為ニスルモノニテ異意ナキナリ故ニ刑法ニテ罰スルコトヲ得ヌ
ト論スルモノナリ之レ即犯罪ノ原因ト意思ト混シタルナリ親父ノ為ニスルモノノ物ヲ
取ルナリ他人ノ物ト知リテ取ルハ犯罪ノ意思アリシナリ其原因ハ可ナルモ犯罪ナル
ナリ犯罪具物ニ於テハ父シモ異ルコトナシ人ヲ殺ス意思アルコトニテ其原因ハ君
父ノ為メ他ヲ報スハナリ其原因可ナリ即其原因ニ於テハ善悪ナルモ犯罪ニ於
テハ懲テ同一ナリ刑法ハ原因ヲ大ニモ措テ同ハス僅ニ酌量減刑ヲ規定ス然レニ犯
罪ハ故意アリト見ハ場合ニハ如何ナル人ヲモ罰シテ可ナリ又意思ナケレハ決シテ罰
スルコトヲ得ス犯罪ノ有無ハ犯人ノ死活問題ニテ原因ハ只輕重ノ差アルノミ
以上述べタル所ヲ了解スハ懲テ刑法ノ禁制命令ニ違反セハ其原因ノ如何ニ干ス

社会ノ母寧シ害スル意思アルモノト云フ刑法ノ命令ハ公安ノ維持ニ在リ其命令
ニ反スル常ニ公安ヲ害セラルルナリ此ノ社会ノ秩序ヲ乱ス意思カ犯罪ニシテハコト
カ異意アリト云ヒ故意アリト云フナリ

此ノ犯罪ノ解釈カ果シテ正統ナリトモハ其余ノ私書ノ偽造ニ付テ論者ノ解釈カ如
ク或ハ人ヲ害スベキ性質アルカ又ハ重大ノ害スト云フ条件ヲ出ス要ナシ苟モ名
義人ノ承諾ヲ得スレバ文書ヲ製造スル法律ノ已ニ禁止セル文書ナリ其文書
ノ種類ヲ限ラス常ニ承諾ナキ文書ヲ製スルコトヲ禁スルナリ其制スル文書高カ
實際人ヲ害スルモノアラン又害セサルモノアラン又眞実ニ害スルモノナラン
ハ犯罪者ニ対スル損害ヲ云フカ社会ノ損害ハ被害者ノ損害トハ同一視スルコトヲ
得ス刑法ノ各例ニ違反スル行為アルハ例外ナリ常ニ社会ノ秩序ヲ乱スナリ而シ
テ社会ノ秩序ヲ乱シテ後被害者ニ眞害アリトスルナリ又然ラハハナリ刑法ハ
等々被害者ニ害ナキハニ罰スルコトナリ即未遂犯カキテ故ニ其余ノ私書
ヲ偽造スルニ条件ヲ出作スハコトヲ要ス明文上ニ何等ノ規定ナキニ条件ヲ付
スルハ或ハ凶國刑法ノ解釈ニ借リシニニテラスヤト疑フモノナリ

第四節 免狀鑑札及疾病証書ヲ偽造スル罪

二二五条ニ於テ公務ヲ免ルルハ、為メ醫師ノ氏名ヲ用ユ云マトアリ本条ノ犯罪ヲ構成スルハ前数条ニ規定シタル如ク、只文書ヲ偽造スル意思ヲ有スルニテ定ムトセズ、其意思ノ因テ出ルル原因ヲ以テ構成条件ニトセリ即醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病証書ヲ偽造スルハ公務ヲ免ルルニテ要ス故ニ公務ヲ免ルル為メアラステシテ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病証書ヲ偽造スルモ此ノ限ニテ要ス例ハ会社員々醫師ノ疾病証書ヲ偽造シテ勤ヤリ此場合ニ会社員ハ会社ノ用務ヲ免ルル為メ公務ヲ免ルル為メニテ要ス然ラハ公務以外ニ於テ疾病証書ノ偽造ヲナシタルモノ果シテ罪ナキカ是レ又一ノ文書ノ偽造ニ相違ヤス即一二二条ノ其ノ文書ヲ偽造セルモノ故其条文ノ二ノ制裁ヲ受ケサルハ、ウラス故ニ今ノ疾病証書ヲ偽造スルモ其目的ニヨリテ制裁ヲ異ニス刑罰ヲ等フシテ此条ノ分ハ其必要ヲ認ムルコトヲ得ヌト此ニ三五条ハ不用ノ規則ナリ但シ第六必要ナリトシ此規則ナケレハ醫師ハ偽造(他人ノ氏名ヲ以テスルモノニアラサル)故之ヲ罰スルコトヲ得サルハ、シテ偽造証書ニアラヌ公益上害アリ果シテ然ラハ私益ノ為メ疾病証書ヲ作ルモ醫師ノ偽造ノ行為ナシ制裁ナシ故ニ第二ニ設ケルノ要アリ故ニ第一ニ直ニ設ケルル可ナリ二二五条ノ第二ニ設ケルカ為メナリトシナラン

第二二六条ハ全ク無用ノ規則ナリ即本条ハ別条ノ適用ニ過キサルモノナリ前条ニ公務ヲ免ルル為メ云マト規定シテ海陸軍々人ヲ免ルルコトヲ規スルノ必要ナキナリ以上ノ外種々偽造罪アルモ皆文書偽造罪ノ適用ニ過キテ故ニ之ヲ述ベス

第五節 偽証罪

偽証罪ハ三段ニ分テテ論セン

- 一、偽証罪ノ総論
- 二、刑事ニ干スル偽証罪
- 三、民事行政ニ干スル偽証罪

第一段 偽証罪ノ総論

偽証罪ハ如何ナル性質ノ犯罪ナルヤ即公益ニ干スル犯罪ナルヤ又ハ私益ニ干スル犯罪ナルヤ偽証罪ハ具刑事ノ場合ニ於ケルト民事行政ノ場合ニ於ケルト其性質ノ別ヲラルモノ、如シ民事行政ニ干スル偽証罪ハ只裁判所ヲ偽リシ裁判官ヲ詐誤ニ陷ラレムル危険ヲナセリトシテ討セラルモノ故ニ全ク公益保護ノ目的ニ出ルル犯罪ナリトス此是ニ付テ疑ナシ

之ニ反シテ刑事ノ場合ニ於テハ偽証罪ハ只裁判官ヲ欺キタルノミナリ犯罪ヲ構成ス

又外ニ犯罪人ノ由底 陷害スルノ目的ニ出カルハカラス裁判所ヲ欺ラシムルハ公益ニ
 干スル犯罪ニ相違ナシトモ犯罪人ヲ陷害スル真ヨリ見レハ偽証ノ方法ニヨリ被
 告人ノ身体自由ヲ害セントスルモノナレハ人ノ身体自由ニ対スル犯罪ナリト云フコトヲ得
 果シテ刑事ノ偽証罪人ノ身体財産ニ対スル罪ナルヤ又ハ公益ニ対スル罪ナルヤ
 刑事ノ偽証トハ狭義ニ於ケル公益ニ対スル目的利益ニ対スル目的トシ有スルモノニテ
 殆ト中固ハ性質ヲ有スルカ如ク思ハ然レモ若シ広ク此ノ偽証罪ノ性質ヲ論ズハ
 刑事ニ干スル偽証モ尚民事行政ニ干スル偽証ノ如ク其目的公益ヲ害スル目的ト
 リト解スルカ穏当ナラン其被告ハ陷害セントスル意思ニ出テタルハ之レ偽証罪ノ制
 裁ヲ重カラシムルノ加重ノ条件ニ過キサルモノナリト解スルカ穏当ナラン特ニ又被告ハ
 ラ由底スル場合ノ如キハ本人ノ身体財産ニ害ヲ及スハキモノニテ干スル由底ノ結果
 制裁ヲ免ルハモナリトスレハ之レ寧ロ公益ヲ害スルモノニテ公益ニ及スルモノナラン
 然ハ其反對ノ陷害ノ場合ニ限リ人ノ身体財産ニ干スル故之レ人ノ身体財産
 ニ対スル犯罪ナリトスレハ其刑酷ナリ寧ロ偽証罪ノ重ナル如即才判断ヲ欺ノ
 矣ニ付テ判断又ハ正鵠ヲ得タルモノナラハシ

第二段 刑事ニ對スル偽証罪

刑事ニ干スル偽証ハ第二二八条ニ定義ヲ下スハ曰フ刑事ニ干スル証人トシテ裁判
 所ニ呼出サレタルモ、被告ハ由底スル為メ事實ヲ掩蔽シテ偽証シタルハ其
 例ニ照シテ所断ストルハ此ノ定義ヲ完全ナラシムル為メ本ノ訂正ヲ要ス

刑事ニ干スル偽証トハ刑事ニ干スル証人トシテ裁判所ニ呼出サレタルモ、被告ハ由底
 底スル陷害スル為メ事實ヲ掩蔽シテ虚偽ノ陳述ヲナシタル所為ヲ差トナスレ
 刑事ノ偽証罪ヲ構成スルニハ四ノ条件ヲ必要トス

第一 証人トシテ裁判所ニ呼出サルハコトヲ要ス

法律ハ証人トシテ裁判所ニ呼出サレタルモノトセリ故ニ証人以外ノモノ事實ヲ考人
 トシテ才判断ニ呼出サレタルモノハ偽証罪ヲナス資格ナシト云ハサルハカラス 証人タル
 資格ハ此刑事訴訟法ニ規定スル其ニ適合スルモノニテマラスハ証人トシテ尋問スル
 コトヲ得ス故ニ証人ハ刑事訴訟法ニ適合スルモノトシテ才判断ニ呼出サレタルモノニ
 アラサハ 証人ナリト云フ得ス既ニ証人タル資格ナレハ例令ニ異意ヲ以テ不実ノ陳
 述ヲナスモノヲ以テ偽証罪ト云フヲ得ス 証人ノ資格ハ民刑異ナルハ刑訴ニ於テハ
 一三三條ニ於テ資格ヲ定メタルコトヲ規定ス次ニ又第二証人タルコトヲ規定ス第一
 二四條ニテ一三四條ニ規定スル人モ 証人タルコトヲ許サス此ニ種ノ人ハ一三三條及

一(西条) 法律上証人の資格ヲ有セザルモノ故例令本人ノ進ニテ証人トシテスルモ
 法律ハ証人タルコトヲ許サズ本人ノ意思ヲ以テ本条ノ規定ヲ左右スルコトヲ得ス
 才判官ハ職權ヲ以テ其モノモ証人タル資格ヲ認ナルコトヲ得ス故ニ二三条
 三四条ニ列挙スルモノカ誤テ証人トナリ得ル者トナリ宣誓シヨ守固ク受ケル
 中偽証ノ罪ニ触ルハモ尤未資格者トシテ偽証罪ヲ犯ス触ルハモナル故ニ偽証
 罪ノ構成条件ノスク故如何ナル場合ニモ偽証罪ヲ構成セントス
 及之民事訴訟ニ於テハ絶対ニ何人ニ對シテモ証人ノ資格ヲ奪ハズ即本人ノ意思
 ニテハラフテ自ラ証人ノ資格ヲ失フコトヲ得又之ヲ得ルコトヲ得法律ハ絶対的ニ
 何人ニ對スルモ証人ノ資格ヲ奪ハズ(三〇九条)
 在ニ揭クモモノハ証言ヲ拒ムコトヲ得ト現令即厚告若クハ被告人ノ親族ノ干
 係アリモイナリ又三〇九条ニ在リモノハ宣誓ヲナサズモ証言ヲナシシムルコトヲ得
 之ハ刑事訴訟法三四条ニ對ス之モ参考ノタメニ尋問スルコトヲ得ト云フニ過キナ
 小ナリ

証言拒絶ノ權利ヲ有スルモノカ誤テ此權利ヲ行ハシテ証人トナリ害ヲナセハ裁
 刑四ハ此權利ヲ放棄シタルモノトナス故ニ其証言ハ有効ナリ也 証人タル權利
 ヲ行使セハ偽証罪ヲ構成ス然レニ刑事訴訟法ノ証人ノ資格ナキ者カ偽証セハ
 其証言ヲ以テ資格ナキ故偽証罪ナキナリ故ニ民事ト刑事トスニ異ルヲ知
 ルニ民事ノ場合ト刑事ノ場合トハ証人ノ資格ニ干スル規定ニ異ナル故其制裁
 モ全ノ結果ニ出テス然レニ刑法一四二条即未成年者ノ場合ト民法三二
 〇条ノ未成年者ノ場合ニモ何レ証人タル資格ニ認メザルナリ民事訴訟法ハ其參
 考人タルノ得トナスナリ故ニ此場合ニ裁判所カ証人トシテ尋問スルモ偽証スル
 コトヲ得ス即未成年者ノ場合ハ民事訴訟法ニ刑事訴訟法ニ同シク偽証
 罪ナシトス要スルニ拒絶ノ權利アルモノカ其權利ヲ行ハシテ証言ヲ偽証セハ
 偽証罪ヲ構成シ資格ナキモノハ偽証罪構成セストナスハキモノナリ
 大審院ノ判決例ハ大ニ異ナリ宣誓ノ結果トシテ偽証罪アリ故ニ証人タル資格
 ナキモノカ誤テ証人トナリ又民法ニ拒絶ノ權利アリモノカ誤テ宣誓シテ証言セハ
 偽証罪ヲ犯スハキモノトナリ故ニ未成年者ト無資格者トナシ同ハオハナリ
 第二、事實ヲ掩蔽スルコト
 刑法ニハ只事實ヲ掩蔽スル行為ヲ以テ一条件トセリ即成立セル事實ヲ成立セズ
 トシ有ルモノヲナキトセル場合ニ限り偽証罪構成ストナス然レニ偽証ノ決シテ

事實ノ掩蔽ニ止マラス事實ヲ捏造スルコトモ一条件ナルトモ無キコトヲ有ハトシテ裁
判所ヲ誤マラシムルモ有ハコトヲ無シトシテ才判所ヲ誤ラシメタルモノ其結果異ル
リナキナリ此捏造ヲ認メオハリノ理ハ何ニアハキ不備ノタメナリ

第三、偽証ヲナスコトヲ要ス

偽証ハ虚偽ノ陳述ヲ云フ故ニ事實ヲ掩蔽スルメ言ヲ発セカレハ偽証ニアラス若
証人トシテ陳述ヲナスヘキコトヲ命セラレタルモノ之ノ聞カサレハ刑法一八〇条ノ罪ヲ
構成ス又事實ノ掩蔽ノ為メ眞実ノ陳述ヲナセハ之レ又虚偽ノ陳述ニテラス故ニ偽
証罪ニアラス裁判所ノ知ラント欲スル事實ヲ述ヘ肝要ナル処ヲ除キ述ヘサルコトハ
事實ノ掩蔽ナリ(余ノ知ル処ハ是ノ大ナリトシテ述ヘガハナリ)此場合ニハ偽証罪ニアラ
ス一八〇条ノ罪ヲ構成スルナリ

第四、被告人ヲ曲庇 陷害スルコトヲ要ス

此条件シニ分テ被告人ヲ曲庇シタル場合
被告人ヲ曲庇シタル場合ハ其曲庇シタル犯罪ノ種毒ニ從テ刑罰ノ制裁ヲ異ニ
ス第一八条ニ規定ス曲庇トハ犯人ノ犯シタル行為ヲ以テ之ヲ其ノ責ニ歸スヘ
カラストオスノ行為ヲ云フ故ニ曲庇ハ其意味ナク云ヒテ其犯人ノ行フタル

罪ハ其犯人ノ行フタルモノニカラスト云フニ現ニ犯人ノ行フタルモノナルモ正當防衛ニ出
テタトト云ヒ又精神錯乱ノ際ナリト云フ偽証ヲ犯人ヨリテ責任ヲ免セシムル方法ヲ
總テ曲庇ト云フコトヲ得ベシ

第一、重罪ヲ曲庇シタルモノハ即チ重罪ノ罪ヲ免カレシムル為メ偽証シタルモノ

第二、軽罪ノ罪ヲ免カレシムル為メ偽証シタルモノ

第三、違警罪ノ責ヲ免カレシムル為メ偽証シタルモノ

此所ニ云フ軽罪違警罪ト云フハ此犯罪ナリトシテ訴ヘラレタル罪名ヲ指スモノニシテ
其訴ヘラレタル罪名ニ付テ曲庇シナシタルハ之ヲ區別スルニ過キス

曲庇ノ場合ニ曲庇スル重罪違警罪ハ被告人カ訴ヘラレタル犯罪即公訴ト目的
トナリ居ル事實ヲ云フ此ニ於テ若シ未メ訴トナラサル犯罪証言ノ結果ニヨリ他ノ事
實カ他ノ犯罪カ發覺セル恐ルル場合ハ例令偽証ヲナスト雖モ直ニ其掩蔽ニタル
事實カ重罪ナリトシテ重罪ノ曲庇ノ適用ヲナスコトヲ得スト信ス例ハ窃盜ヲ
ナシ其被害事件ニ付テ証人トシテモ其証人ハ窃盜カ強盜ナリトシテ知リ又ハ兇

器携帶ノ事實ヲ知ルモ其知ルトコロヲ述フレハ重罪トナル故ニ其事實ヲ掩蔽シテ
輕罪即窃盜ノ行為ニ付テ証言ナリ無論此ノ場合ニハ重罪ノ罪ヲ曲庇スルモ

故其偽証ハ重罪ヲ以テ論スルハカラス又軽罪ヲ以テ論スルハキヤ証人トナリ
タル事實ハ輕罪ナリ而シテ証人カ隠蔽シタル事實ハ重罪ナリ此ノ場合ニ重罪曲
底ノ罪アリキヤ輕罪曲底ノ罪アリキヤ茲ニ云フ重罪輕罪ハ公訴ノ目的トナリシモノシテ
ハキヤ曲底スル処ニモハ重罪ノ事實ニテモ其証書スル処ノ事實犯罪ハ輕罪ナリ
輕罪曲底ノ責ニ任セザルハハラス困難ナルハ此ニ云フ輕罪重罪トハ犯罪事實トキヤ
犯人カ許ハラレテ名ハ公訴ノ重罪輕罪即テ証人証言シテハハル犯罪ヲ云フモノナリ
尚疑ナリ

訴ハラレタル事實ト証人カ曲底スル犯罪ト同キ場合ト違ハタル場合トナリ訴ハラレ
タル輕罪ノ事實ニ付テ輕罪ハ曲底ヲナセハ論ナキモ輕罪ノ公訴ニ付テ違警罪
又ハ重罪ノ曲底ヲナセハ何ヲ以テカ罰スルキヤ余ハ本余ノ重罪ノ曲底トハ重罪ノ事
件トシテ訴ハラレタル事實ノ証人トナリテ犯人ノ利益ニ付テ偽証ヲナセル中ハ其ノ利
益ノ重罪ノ利益トナルモ輕罪違警罪ノ曲底ナルモ重罪ノ曲底アリトモス輕罪モ
違警罪モ皆合シ要スルニ本余ノ正解ハ重罪ノ被告人トナリタルモノヲ曲底スル
為メ輕重ノ被告人トナリタルモノニテ曲底スルト云フモノニテ重罪ノ事實ヲ曲底シ
輕罪ノ事實ヲ曲底スルモノ之ヲ意味スルニアラサハナリ

陷害ノ場合

此ノ被告人ノ不利益ノ地位ニ隔ラレタルモノナリ本余ニ於テモ同シテ斬余ノ如キ尚疑
起ル此ノ偽造ノ責任ハ訴トナリタル事實ニ付テ可キヤ証人ノ偽証トナル事實ニ付テ
定ムルキヤ第一ニ被告人ハ重罪ノ訴ニ受テ此ノ被告人ハ審理中ナリ或ハ無罪トナ
ルキヤ知リス証人ハ輕罪ノ罪ニ隔ラレタル為メ盜竊ヲ犯セルヲ自斃手モリト証言スル場
合ニハ輕罪ニ隔ラレタル証言ノ重罪ニ隔ラレタル為メ証人ハ刑罰トナルナリ若シ公
訴事實ハ重罪事件ニ付テハ証言ヲナシ証人ハ被告人ハ強盜罪ヲナサハルコ
トヲ知リテ強盜ナリト偽証セハ重罪ニ付テハ証人ト云フコトニ疑ナシ輕罪ハ凡
ソ同シ然ルニ未熟ノ果實ノ遺棄事件ニ未熟ノ果實ヲ遺棄リシモノナラス隣ヨリ
盜ミシト証言セハ輕罪ニ隔ラレタルノ處ニモ如此証言ヲナス公訴事實ト公
訴事實ニ致サル事實ニ付テ偽証ヲナセハ此ノ証人ノ責任ハ何ヲ以テ定ムルキヤ
之ハ前ト及対ノ解決ヲナサハルハカラス重罪輕罪違警罪トハ又メ云フニアラサ
實テ云フモノナリ故ニ証人ノ偽証ニ付テハ此ノ被告人ヲ隔ラレタルトスル事實ヲ以テ
此ノ偽証者ノ責任ヲ定ムル者ト思フ即ノ重罪ノ罪ヲ化シタルモノトシテ偽証ヲ輕
罪ノ被告人ニ付テナセハ重罪ニ隔ラレタルノ偽証ナリ即証人ノ偽証トナル事實

ニヨリテ其定度ヲ定ケルナリ二二〇条ノ重罪ニ輕罪ニ違警罪ニトアルハ証人ノ
 偽証スル事實ノ罪名ナリ二二八条ハ異ハモンナリ二二一条、於テ及座ノ刑ヲ定
 メタリ及座ノ刑トハ此文支那律ノ余流ヲ酌シタルモノニシテ偽証者証告者カ偽
 証証告ニヨリテ目的ヲ達セルハ其証告オレタルモノ偽証カレタルモノカ度クハト
 同等ノ刑ヲ受フルコト云フ自己カ他人ヲシテ受ケシメタル刑罰ノ程度ニ於テ自己
 受フルコト及座ノ刑ト云フナリ此及座ノ刑ハ果シテ之ヲ置クハキ必要アルヤ二二条
 ニ偽証ノ爲メ被告ノ刑ニ短セラレタル云々トナリ本条ハ偽証ノ結果生シタル場合ヲ
 想像シ偽証ノ結果生シタル中其ノ偽証ノ結果前条ノ罪ヨリ輕キハ前条ニ
 ヌルトナス又偽証等ヨリ罰セラレタル被告ノ刑期ヲ經タルハ其執行シタル
 部分欠ケテ執行シ其執行シタル刑期輕キハ前条ニヨルトナス前条即ケ隔
 害ノ場合ハ偽証者ノ目的カ隔害ニヨリテ偽証シタル罪ヲ罰スルニ過ラズ隔害
 セラレタルハモテ目的ヲ達シテ隔害セラレタルヤ否マシトハス併シ其結果ヲ生スル中
 ハ隔害ノ罪ノ外ニ猶及座ノ刑アリ故ニ法律ノ規則ハ全ク理由ナキニアラズ六結
 果ヨリ場合ヲ想像シハ結果ナキ場合ヲ想像ス然レモ此及座ノ規則ハ大
 體護レリ即ケ偽証罪ト抵触シテ相容レサル規則ナリ何故偽証罪ヲ罰スル
 ヤ先ハ隔害ノ罪ハ何故罰スルヤ何故重罪ニ隔ラレタル為メ証偽ハ罰スルヤ
 偽造ヲナセハ其結果或ハ裁判官ヲ誤ラシメ又其結果被告ノ罪ヲ受フル結
 果ヲ生スル故罰スルナリ然レモ只裁判官ヲ誤ラシメ其結果ヲ見カレモハ何故隔
 害ノ罪ニ重罪違警罪ニ區別ヲナスヲ要セカレハ然レモ本条ハ區別ヲナシ
 イカニ偽証ニヨリ裁判官ヲ誤ラシムルヲ罰スルニアラズ其外其偽造ノ結果ヲ生ス
 ルコトヲ考ヘタルハモンナリ明ナリ故ニ隔害ノ罪ヲ受ケタルハ重罪具結果ヲ包メタ
 ルモノ故具結果ヲ見ラズメタルモノヲ猶及座ノ刑ヲ得ルノ必要ヲ見カレナリ
 又二二条偽証ノタメニ被告人死刑ニ短セラレタルハ一等ヲ減ストナス理由ナシ死刑ニ
 短スルモノナリ而シテ未ダ執行セカレ前ニハ二等ヲ減ストナリ此ノ結果ヲ見カレモノニ
 対シテ二等ヲ減ストナスハ何故ナルヤ二等ニ減ストナリ此ノ結果ヲ見カレモノニ
 ケ結果ヲ見カレ其害ヲ免レル者ニ有期徒刑十五等ノ若シテ其フルハ如何之レモ
 及座ノ刑ノ抵触ナリ害ハ何モナク十五等ノ有期徒刑トナス其理ヲ弁見スルコト
 シ得ス

本条第二項若シ被告ノ死ニ隔ラレタル目的ヲ以テ云々トナリ文之レニ二二一条ニ二
 条ハ結果ニ付テノ規定ナリ被告ノ死刑ニ短セラレタル結果ヲ生スルハ其証人ノ意思

ハ種々目的アリトナスヘシ然ルニ死刑ニ処セラルルハ一事ノ減シ種々目的ノ以テ
偽証ヲナセハ死刑ニ処ストナス何故目的ノ區別ヲナスヤハ死刑ニ処セラルル刑ヲ偽
証ヲナセハ被告人ノ死ヲ豫想シテ偽証ヲナシタルモノナリ故ニ第一ノ規定ハ全ク不
必要ナリ以上ハ刑事裁判ニ付テハ偽証罪ナリ

第三段 民事裁判ニ於ケル偽証

此偽証ハ刑事ニ于スル偽証ト其性質ヲ異ニス刑事ニ于スル偽証ハ二一八条ニ從
テ被告人ヲ曲庇又ハ陷害スル条件ヲ必要トス民事ニハ被告人ヲ曲庇陷害スル
原因モナク又必要トセザル故此偽証ハ純粹ナルハ公益ニ于スル犯罪即チ刑罰ヲ
欺ノ罪ナリトシテ不可ナシ訴訟ノ係人ニ對シテハ直接ノ利害ヲ及ボスノ影響者
シ及ボスノ意思ナクモ若モ裁判所ヲ欺クノ意思ヲ以テ偽証ハ偽証ニ偽証ノ罪
ヲ構成ス偽証罪ニ於テハ民事刑事共ニ同一ノ性質トシ曲庇陷害ノ条件ヲ除キ
タリト記牒ス

鑑定又ハ通事ニ付テハ偽証ノ例ニヨリテ罰ス
鑑定人又ハ通事ハ事實ノ見聞ヲ其終ニ陳述スルノ資格ヲ有セス鑑定又
ハ鑑定上ノ意見ヲ述フルノ義務アリ又通事ハ裁判所ノ解リル言語ヲ以テ

ニテ裁判官ニ了解セシムルノ義務アルニ過キス其事實ヲ見聞シ其終ニ裁判所
ニ陳述スル証人トハ同一ナラス故ニ刑罰ハ訴訟ノ意思ヲ述ハタルモノナリ但シ鑑定
人ハ鑑定スル場合ニ於テハ裁判所ニ對シテ其目的物若クハ事項ヲ示シ其鑑定ヲ
ナシシムルナリ而シテ其鑑定ハ必ずス書面ヲ以テ其意見ヲ述ハサルハカラス然レ
ルニ若シ鑑定人ノ差出シタル書面ニ明瞭ナラザル場合アリ鑑定人ノ説明ヲ
要スル場合アリ(刑罰一〇四条)ニ鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ云々トアリ此場合
ニ鑑定人ヲ訊問スルハ必要ナリ此場合ニ鑑定人ナルヤ証人ナルヤ此場合ハ鑑
定人ノ事實ヲ掩蔽シ被告人ヲ曲庇陷害セントスルノ意思アル 鑑定トシテ罰
スヘキヤ 証人トシテ罰スヘキヤ日本刑罰ニハ鑑定人トノ區別アリテ証人ハ事實
ノ見聞ヲ其終ニ陳述スルモノナリ而シテ獨逸刑罰ニハ証人鑑定人ナル一字
ナリ此詞ハ今述フル場合ニ適用スルナラン即ち鑑定人ニシテ証人ナルモノナリ証人ニシ
テ鑑定人ノ 訊問ヲナスヘキ場合ヲ名付ケテ証人鑑定人ト名付ケタルモノナラン
現ニ刑罰ニハ証人ハ鑑定人ナル資格ナキ故此ノ場合ニハ普通ノ証人ト同シク
見做ス即自己ノ事實ノ見聞ニツキ陳述スルモノ故普通ノ証人ト異ナラシ
故ニ其鑑定人ノ虚偽ノ陳述ヲナセハ証人トシテ罰スヘキナリ尤モ刑罰ニ同シキモ

百五條ノ規定ヲ犯スモノナリ此百五條ノ規則ヲ犯スノ意思ニ有ルハ是レ則テ教
唆罪ヲ犯スノ意思アリト云フハシ論者ハ百五條ヲ犯スノ意思ヲ以テ教唆者
ノ犯意トセス重罪輕罪ヲ犯スノ意思ヲ以テ教唆者ノ犯意トナス誤レリ然
ラハ教唆者自ラ犯スコトヲ得サル犯罪人ニ教唆スル場合ニハ重罪輕罪ヲ
犯スルハ罪ハ教唆者自ラ犯スコトヲ得ルハ犯罪ト云フニテ如何ナル罪ニ
テモ人ニ重罪ヲ犯サシムルノ意思ヲ以テ犯サシムルハ教唆アリト云フテ可
ナルハシ

此ト対スル規則ハ刑法第三百二十條及第三百二十一條ニ規定スル自首ニ關スル
教唆ナルモノアリヤ否ヤ尤未自殺ハ犯罪ニアラサル故然則照ラテ之ヲ罰スル
コトヲ得ス此規則アリテ初メテ之ヲ罰スルコトヲ得ハナリ

第二注意、二二六條ニ此節ニ記シタル罪ヲ犯シタルモノ云マトマリ此條ハ然則
ノ自首ニ優イタルトアリ然則二八五條ノ罪ヲ犯シタルモノ云マトマリ二
二六條ハ其事情裁判宣告ニ至ラサル前ニトアリ然則ノ規定ニ於テハ事ノ實
条件ト云フヲ以テ自首ノ条件トス本條ハ裁判宣告ヲナス迄トアリ本條ハ条
實ニタル後ニ於テモ裁判宣告ニ至ラサル前ニハ自首ノ効力ヲ認ムトナスナリ

然ルニ實際ノ裁判例ニハ只裁判宣告ニ至ラサル前ニテ且余實前ノ条件ノ要
ストヤリ故ニ依令裁判宣告前ナルモ其事余實ニハ其自首ノ効ナシ然ルニ
偽証ハ偽証ト共ニ實余スル故ニ偽証ハ之ヲ取消スコトヲ得ルナリ

第六節 私立醫業ヲ為ス罪

第二百五十六條ハ重要ナルナル規則、如シ然ルニ本條ハ医者ノ業務ニ付テノ唯
一ノ規則ニシテ此ノ規則ナクナレハ殆ト正當ニ医者ノ保護ヲナスコトヲ得ヌ又
無免許ノ医者ヲ罪ニスルノ制裁ナシ現行法中醫業免許法アリ特別法
ニヨリ醫業免許ヲ得セサルモノハ外必ラス免許ヲ得ル場合ハ制裁ナシ故ニ
唯一制裁法ナリ

此條ノ醫業ヲナストハ如何ナルトナリヤ論者醫業トハ慣習ニ行爲ナル故此ノ
犯罪モ慣行罪ナリ只一度犯スモ慣行ヲナスニマラサル故本條ノ罪ヲ構成セ
スニ度以上犯スコトヲ要ストナスモノナリ余ハ此ノ解釈ヲ取ラス醫業ヲナストハ
慣行ニ犯罪ニマラス医者ノ行爲ニ於テモト云フナリ故ニ医者ノナスコトヲ
行爲ラシムルハ本條ニヨリ罰スルナリ

第三章 風俗ヲ害スル罪

川谷

七九

本章ハ三種ノ犯罪アリ

一、猥褻ノ処為

二、賭博

三、神佛ニ對スル公然ノ不敬

第一種

猥褻ノ所為

何故猥褻ノ所業ハ之ヲ罰スルヤ或ハ公然猥褻ヲナシ又猥褻ノ物品書画ヲ販賣スルハ何故罰スヘキヤ先ツ之ヲ研究スルニ先テ猥褻トハ何ナルヤヲ研究スヘキナリ第百五十八條ノ公然猥褻ノ所業トハ二人相對シテナスモノモ独ニシナスコトヲモ包含ス單純ニテナス猥褻ノ所業トハ何ナルヤ各自見苦トノ考ハアルヘキモ之ヲ表示スルコト具之ヲ自他付合スルコト困難ナリ裸体ハ猥褻ノ所為ナラハ裸体ノ中ハ具裸体ノ罪ヲ以テ罰入即特別罪ヲ構成シ猥褻罪ニテラス

日本ノ風俗ニテキ何人モ之ヲ目撃シ之ヲ怪マサル程度ニ至リタル所為ハ普通ノ所為風俗ナリト云ハサルハウラス然レ普通ノ之ヲ見苦シ若シハ猥褻ナリトナス処行アリ之ハ法律ノ解釈ニヨルニテアラス然レ人カ以テ然リトナス即感觸ノ問題ナリ

到底此ニ付キ一定ノ定義ヲ下スコト難シ從テ此程度ハ各國ヨリ異ニス國ノ風俗氣候ニテ異ナルモノ故我刑法上猥褻ノ判断スルニハ我國一般ノ感觸

ニヨルヘキモノナリ

第二百五十九條冊子畫畫等ハ男子ノ淫行ニ属スルモノナラシ此条ハ書ナシ支那猥褻ノモノハ畫ナク皆ナ書ノミ故ニ草案ニハ書畫トナスル様異ヲ然レ此規則ニハ公然又ルコトヲ条件トス此ハ風俗ヲ維持スル罪故公然メルコトヲ条件トスルコト正當ナル

第二種

賭博

賭博罪ハ何故之ヲ罰スルカ此疑問ヲ起スニ當テハ先ツ賭博其物ノ如何ノ知ハシ必要トス若シ賭博所為ノ直ニ社會ノ害ヲナスモノナラハ之ヲ罰スルハ當然ナリ此等ノ義ニヨリハ第一ハ金錢ヲ賭スルカ賭博ノ必要条件ナリ第二ハ偶然ノ輸贏ヲ決スル方途ナルハシ偶然ノ勝敗ヲ条件トシテ其勝負ニヨリ稼メ賭スル金錢ノ利益ヲ得表ノ目的トスルモノニ限リ賭博ノ名称ヲ下スコトヲ得ルナリ此故ニ偶然ノ輸贏ヲ条件トシタルモノニテモ稼メ金錢ヲ賭スル事實ナケレハ之ヲ以テ賭博トスルコトヲ得ス例ハ商人ノ商法ヲナスニ當リ物價ノ高低ヲ豫見シテ後日騰貴マストシテ今日廉價ノモノヲ買込ミ後日下落スト見込ミ今日之ヲ高價賣込

又ハニモ後日ノ物價ノ高低ノ条件トシテ受賞セルモノハ偶然ニ勝負ノ条件ト
 セリ然レ此為人後日ノ勝敗ノ条件トシテ金錢ヲ目的トスルニテラス高人ノ如
 為シ後日ノ利益今曰受賞セルモノヨリ生セルニ過キ又事天ノハズマシ
 又金錢ヲ賭シテモ偶然ノ勝敗ヲ目的トナシレハ之ヲ以テ賭博ト云フ事ヲ得
 ス例ハ火事ノ除具家産ヲ救ハカシメ金錢ノ防火天ニ與ハルルハ偶
 然ノ勝負ノ為メ賭セハニテラス

此賭博ニ先ツ大別ニテ二種アリ賭博者自ラノ行為ヨリテ勝負ヲ決スル方
 法アリ又ハ第三者ノ行為ヲ目的トシテ勝負ヲ決スル方法アリ其
 賭博者自ラ博具ヲ弄シテ其技術ノ優劣ニヨリ勝負ヲ決スル中ハ皆自己ノ
 行為アリ此行為ノ中ニ實際全ク慣習上賭博ト認メタル方添モアリ又ハ一競
 争ニ過キザルモノアリ慣習上賭博ノ方添ト認メタルモノハ之ヲ論スルノ要セズ
 善通ノ競争ニ付テ金錢ヲ賭スル場合尙尙懸トナル例ハ賭碁賭將棋
 如キナリ已ニ慣習上賭博ト認メタルモノハ一定スルモノ世ノ進歩ト共ニ變化シ又ハ
 之ニ準スル方添ニテナスコトアリ故ニ此ハ賭博ナリト列挙トシテ定ムル事ヲ得ズ
 第三者ノ行為ヲ目的トシテ勝負ヲ決スル場合ハ賭博者自ラ勝負ヲセズ

第三者ノナス勝負ノ条件トシテ第三者ノ勝チハ甲ノ勝若クハ乙ノ敗トナリ
 今日横濱ノ競馬ニ於テ行ハル

總テ如此自己ノ行為ニ出ツルモノハ第三者ノ行為ニ出ツル場合ニテモ苟モ金錢ヲ賭
 シ勝負ヲ計ル行為ハ皆賭博ナリト云フコトヲ得

何故ニ賭博ハ之ヲ罰スルカ余ッ所有スル財産ハ余ッ勝手ニ処分スル權利ヲ有ス
 飲食ノ料ニ供シ他人ニ与フルコト物品ヲ買ハルコト又偶然ノ勝負ヲ賭スルコトヲモ
 得ヘキナリ畢竟財産上ノ処分權ナリ之ヲ行フニ何故刑法ハ之ヲ罰スルカ即チ之
 ハ賭博ノ如ク其モノト金錢ノ処分具モノハ悪ハハキ性負シ有ニス若シ法律上
 金錢ノ贈与ヲナスコトヲ禁セオレハ賭博モ一ノ金錢贈与ノ方添ニ過キス然レ氏
 若シ之ノ賭博ノ如ク之ヲ禁スルコトナカレセハニ弊害アリ第一國ノ生産力ノ害
 ス第二他ノ犯罪ノ原因ヲナスノ財産ハ故ナク生産スルモノニアラス必ラス人ノ勞
 カニヨリ初メテ生産スルニ賭博ノ遊戯ハ導シキモノニシテ甲乙丙丁之レ
 ニ從事シ全國ノ人民ハ之ニ從事スルコトナラハ賭博ヲナスノ財源ハ果シテ
 何レヨリ出ツルモ賭博ハ金錢ヲ賭スルノ条件トス而シテ金錢ハ勞カヲナスヤシ
 ラ如何ニ方添ニテ得ルヤ到底一國ノ財産之ヲ為メ尽キザルハカラス徒ラ國

富拙ル其結果トシテ第一ニ全国人民皆虚情ニ陥リ終ニ衣食ニ困窮ニ終
ニ後シ罪ヲ犯スニ至ルハレ現ニ上州埼玉ニ於テ強盗ノ多クハ皆此賭博ノ如
為ナリ故ニ賭博ハ其処為其物ハ害ナキモ其結果ノ國ノ富ヲ枯ラシ犯罪ヲ
ナスニ至ル弊害ニ隔ル階段ヲ禁ミ此罪ヲ規受セハモナリ
刑罰ニ於テ賭博ヲ禁スルノ場合ニアリ第一百六十二条ニ規受シタル場合第二
ハ二百六十一条ニ規受セタル場合ナリ

第一の場合

賭博ノ開張ニテ利ヲ計リ又ハ博徒ヲ招結シタル場合ナリ賭博ヲ開張シテ利ヲ
計ルトハ如何ナハコトヲ云フオ賭博ヲ開張シテトハ何
賭博ニ従事スルモノニ種アリ賭徒ヲ營業トスルモノ之ヲ遊戯トスルモノ是ナリ第一
ハ即博徒ヲ營業トスルモノナリ博徒ヲ營業トスルモノハ一歩ノ法則ヲ行ハル其ノ
最重ナルハ管轄ナリ博徒ヲ營業者ニ土地ノ管轄定マリ之ヲ繩張りト云フ
而シテ營業者ニハ親分子分ナリテ親分也諸ニ散在シテ其親分居所ニ近傍
ヲ繩張りトス其中心ハ其親分ノ許可ヲ得ルニアラサレハ博徒ヲナスコトヲ得ス何
人ト云モ但シ子分ハ其管轄内ニ於テハ自由ニ博徒ヲナスコトヲ得然レ一歩ノ

租税ヲ其勝負ノ上高ニ奪ヒ之ヲ寺銭ト云テ納ム是即賭博ノ開張ニヨリ
利ヲ計ルナリ此ハ親分ニアラサレハ之ヲ犯スニトテ得ス
又博徒ヲ招結シタルトハ如何刑罰ハ第一ニ寺銭ヲ取ルノ行為ヲ罰ス第二ニ
寺銭ヲ取ルニ付テハ親分子分ノ干係ヲ結ビ置カサルハカラス此博徒ヲ招結
スルハ此干係ヲ付スルコトヲ云フナリ故ニ之ヲ嚴ニ解釈セハ只親分子分ノ關係ア
ルコトニシテ之ヲ罰スルヲ得ハナリ

只困難ナル問題ハ何ニ博徒ト云フカ親分ハ只一定ノ營業ナラ遊ヒ居ハナリ然
シ子分ハ一定ノ營業アリ其餘暇ニ於テ博徒ヲナス故ニ此子分ヲ以テ直チニ博
徒トスハコトヲ得ス故ニ親分子分ノ干係ハコトヲ知ハモ表面上一定ノ營業アル
之ヲ適用スルコトヲ得ス今日此法文ハ不適用ナリ

親分ノ犯罪ハ第二六〇条ニ規受シ其制裁モ至テ重シ

第二の場合

第二の場合ハ財物ヲ賭シ現ニ博徒ヲナシタル場合アリ(二六一条)

此ハ親分子分向是ニアラス又博徒ノ營業遊戯ニモハラ何人ト云モ財
物ヲ賭シテ輸贏ヲ争フモノニ適用ス此中ニハ親分子分營業者遊戯者共

ニ適用スル改訂キ刑ヲ課ス

財物ヲ賭ニ現ニ博奕シナストアリ現ニ博奕シナストハ如何ナル意味ニ取ルハキ
カ博奕ヲナセハ現ニナセムトナラン何故ニ現ニ文字アリヤ思フニ此ノ文字ハ
現行犯ノ意味ヲ言表シタルニアラサスヤト考フ賭博罪ニ付テハ其賭博ノ現行ヲ
覚覺シタル場合ニアラサレハ之ヲ罰セサルナラン故ニ非現行犯ナレハ法律ハ之ヲ罰
スルノ意思ニアラサス此文字ハ猥褻ノ如ク公然ナル字ト同クナリ而シテ現ニ賭
博アリレトトテ實見シタルハ犯人ヲ捕ヘサルモ罰スルコトヲ得ヘシ刑務ノ主義ニ
於テハ第一ノ場合ニ於テハ博徒ノ主タルモノヲ罰セント欲シ第二ノ場合ニ一般ノ賭
徒ヲ罰セントモナラン第一ノ場合ハ批難スルモノナシ第二ハ批難スル所アリ第二
ハ一時ノ遊戯モアリ營業者モアリ此等ノ筭テ此規則ニヨリ罰セラルル此規則
ハ未ダ十分ナラスト思フ故ニ賭博ノ營業者ハ嚴シク罰スルノ要アルカ一時ノ遊
戯者ノ必ラスレモ之ヲ罰スルノ要ナカラシ故ニ之ヲ罰スルノ要ナキカ博奕ノ營
業者ハ高親分ト等シク罰シ一時ノ遊戯者ハ之ヲ身体刑ニ処スルノ要ナキカ
ハ之ヲ罰セサルモ可ナラン然レシテ全ク罰セサルハ墮落シテ營業者トナル
ノ恐アル故ニ之ヲ防グ為メ又之ヲ罰スルハ罰金ニシテ可ナリト思ハル現ニ飲食

物ヲ賭スルモノハ此限リニアラストナスハ金ニテ飲食物ヲ求ムトハ直接間接ノ差

別ニ故ニ一時ノ遊戯者ハ体刑ニ処スルノ要ナシ

一言注意スハハ博奕シナスコトヲ知リテ房屋ヲ供ニタルモノハ博奕シナセムト同
レク罰ヌ刑務ノ房屋内ニアラサレハ博奕シナスコトヲ得スト信セムナラン然レ
船中、森林、林内、空洞中ニテナスモノ多数ヲ占ムルナリ山房屋ノ供与ヲ禁スルハ
此ヲ供与スルモノナキハ博奕ヲ減ストナセルカ加テハ設ナリ而シテ器具ヲ供与ス
ルハ從犯トシテ罰スルコト然レテ現定アリ房屋ノ供与ヲ正犯トシ器具ノ供
与ハ從犯トスハ理由ナシ房屋ヲ供与スルモノ又從犯トスヘキナリ

没收

犯罪ノ用ニ供シタルモノ犯罪ニヨリ得タルモノハ之ヲ没收スルハ四十一条ニ規定スル所
ナリ然レニ此二百六十一条第二項ヲ設クルノ要ナキカ如シ然レ本条ニ於テ特ニ没收
ノ規定ヲ設クルハ然レ例ニアラサレハナリ其賭博ヲ行フタル現場ニアリシ器具
ハ没テ没收スルナリ犯罪ヨリ得ヌ犯罪ノ用ニ供シタルモノ然レテ則ニヨリ研究ス
ルノ要也又其現場ニマダ直ク没收スルコトヲ得ルナリ思フニ此罪ハ風俗ヲ害
スル罪ナレハ之ヲ行フ器具モ風俗ヲ害スルニ足ルモノトナセル故ニ之ヲ没收スルト為

スナリ又賭博犯唯ノ証據ナル故此ノ没收ヲ規定セハナリ

猶一尙題アリ博奕ニ似テ博奕ニカラザルモノ富籤ノ僥倖是ナリ

刑法ニ行ハレテ以テ賭博ハ猶行ハルモノ富籤奉行ハ跡ヲ絶テリ余其實際

ヲ知ラス刑法公布前日本ニ於テ富籤ト称シ興行シタルモノヲ尋ヌルニ此ノ

富籤興行者ハ一度ノ場ニ根拠地ヲ定メ其根拠地ヨリ數万人ニ於テ

取賣ス例ハ札ノ總數ハ二万枚トシ價格ハ五十ギトシ一万円ヲ集メ其總額

中ニ於テ札ヲ買ヒタル人ニ對シテ分割ノ方添シ定メ一番籤ヲ取リレ人ニ十四二

番籤ヲ取リレモノニ五百円以下次第ヲ以テ分割ス而シテ此籤ヲ取ル方ハ

一度マラス然レ曰本ニ於テ行ハレハ大箱ニ札ヲ入レ之ヲ廻シ箱ノ上部ニ穴ヲ設ケ

十二三歳ノ子供ニ箱ヲ以テ刺サシメ第一番トシ漸次ニ三百塊ケテ之ヲナサシム

余ノ知ル所ハ此モノナリ日本刑法ニ禁セハ此種妻ノ富籤ヲ禁シタルナリ

第一財物ノ贖集スト云フハ札ヲ賣リ金ヲ集ムルヲ云フナラン其札ヲ籤スル

ヲ興行スルナリ此等ノ方添ヲ行フタルモノハ第二百六十二條ニ該当ス然レトモ

本条ニヨレハ此ノ唯興行者ヲ罰スル規則ニテ買フタルモノヲ罰スル規則ニア

ラス故ニ今依リニ本条ヲ犯シ得タルモノアリハ之ヲ罰スル人ハ本条ノ制裁ヲ

受ケス

如此只興行者ヲ罰シ札ノ買ヒタルモノヲ罰セカレハ社会ノ人ノシテ僥倖心ヲ禁

セシムルヲ得ス寧ロ買フ人ヲ罰スル必要アリ刑法ニハ之ヲ除ク後此富籤

購買者ヲ罰スル規則出ラヌ一ノ布告ナリ此富籤等似ノ取締法ナ

リ

何故富籤ノ興行者購買者ヲ罰スルノ必要アリヤ之ヲ禁スルコトハ理由ニ於テ本

条ニキカレシ若シ之ノ許サハ枚極心ヲ起シ人氣悪シテ賭博ト同シキ結果ヲ生ス

ト云フ人ヲ然レ賭博ハ之ヲ富籤トスル人多シ富籤ハ白日之ヲ行フアラス

之ノ營業トスルモノナシ然レ富籤ヲ興行スルモノハ常業トスルモノ之ヲ購

買スルモノハ他ニ其業ニ有リ之ヲ瘠スルカ如キコトナレ故ニ之ヲ禁スル理由ヲ見

出スコトニ若シ

賭博ト富籤トハ性質ニ於テ多少異ルコトヲ知ハ故ニ法律上ノ条件トシテ如何

ナル差異アリヤ之ヲ決スル前一尙題アリ

此富籤ニ付テ一尙題トナリタルモノハ「テ」ハ「ス」ハ「バツ」ク「ロ」レ「ヤ」リ「テ」ハ「

ヨリ金夫ノ分配ノ約束ス於是二万円ノ集マリシモノハ一人ノ當リ藏ニモナレ
 ハ其者ニ対シテ全部ノ渡スニテ又約束ノ定額ノ外倍ノ渡ケス又金
 藏ニモナレモ其者ノ對シテ先キニ購置スル代價ヲ払フ當リ藏ニ相当
 スル義務ナシ此ニツク者ハ金ノ賭博ト異ル此ニモ異ニヨリテ先キ「チーハ」
 「バカウ」ノ何レニ當ルヤヲ考フル此等ハ別ニ當リシモノニ非テ義務
 ナシ此ハ富藏ト全ク等シ又此二者ノモノハ一ノ興行者アリテ賣捌キタル人
 取得トナル故ニ此「チーハ」等ハ其方必ナシ異ナルニシテ富藏ニ非
 似シタルモノナリ

終リニ言注意スヘキハ富藏ノ犯罪ハ財物ヲ隠集シ利益ヲ僥得スル罪ナ
 リ財物ヲ隠集スルモ又富藏ヲ以テスルモ利益ノ僥得ヲケレハ之ヲ以テ富藏
 ナリト論スルコトヲ得ヌ例ハ頼母子講ニ如キ富藏ヲ以テ論スルコトヲ得ヌ
 又一進歩進ニテ取捨無尽ト云フモノアリ而シテ當リシモノハ賭全ノ中ヨリ
 一室ノ残額ノ運博ニテ後ニ當ルモノハ財源トナヌモノヲ除キテ一室ノ額ヲ得
 テ後隠集スルノ要ナシ此モ多少ノ富藏ニ似タル也アルモ組合フモノ皆
 當ラサルヲ得ヌ必ス金ヲ取ルモ故利益ヲ僥得スルコトヲ得ヌ

第三 神佛ニ対スル公然ノ不敬

神佛ニ対シテ公然ノ不敬ナク何故セザル罰スルカ第二百六十三条ニ規定ス刑
 法ハ元人事ノ法律ナリ人間間ノ干渉ヲ破ルモノヲ罰スル法律ナリ神仏アルモ
 權利義務ナキ神佛ニ対シテ不敬ヲナセハ何故罰セラルハキヤ特ニ又神仏ハ人
 間ノ弱矣ニツキ保護セラルハキ者ナリ吾人ヲ常ニ保護スルキ神仏ノ却テ
 人間ニヨリ保護セラルト云フハ位置顛倒ス故ニ亦本ノ規則ノ意味ヲ知
 ハコトヲ得ヌ然レ立派者ハ神佛ヲ保護スルノ意思ニアラス之ハ宗教心
 茂達心ヲ保護スルノ精神ニアラスト思ハル國々弁達セシタルハ宗教モノ
 好材料ト見做サル宗教ノ知カハ信仰ニヨリ存ス信仰心ヲ害セハ宗教ハ
 弁達スルコトヲ得ヌ其信仰心ヲ起スニ向テハ神佛ハ犯スルカヲナルモノナリ
 ト云フ一ノ觀念ヲ緩テノ國民ニ注入スヘキモノナリ若シ神佛ニ不敬セハ四討アリ
 トスル由ノ信仰心ヲ有セシムルハ宗教ハ不可侵ノ心ヲ養成セントスルナリ
 然ルニ神祠佛堂ニ答ナシトテ不敬ノ行為ヲナセハ誰ニ之ヲ禁スルモノナレハ
 一般ニ神祠佛堂ト唯ノ小屋ト撰フナキニ至ルハ如キトハ神佛ニ対シテモ
 信仰心ヲ起スコトヲ得ルハ從テ宗教ニセヒルヲ得ヌ故ニ日本ノ法

律ハ宗教ヲ養成スルニ専ラ認メ後テ神祠佛堂ニ對シテ不可侵ノ考ク養成
成シ公契ノ不敬ヲ禁スルナリ此不敬罪ヲ成立スルニハ公然メハユトシ要イ
故ニ第一項ニ於テ宗教心ノ結果神佛ニ礼拝ヲナスモノ又宗教ヲ布傳
スルモノニ對シテ妨害ヲ与フルモノアハ之ノ對スルナリ

第四章

死屍ヲ毀棄シ及墳墓ヲ奔掘スル罪

此犯罪ハ表題ヲ削ルハ此章ニ規定シタル罪ハ是又風俗ヲ害スルノ罪ニ
風俗ヲ害スル罪ノ外何等ノ理由ナシ此風俗ヲ害スル罪トシハ此規
定ヲ説明スルコトヲ得ハキモ風俗ヲ害スル罪ニアラストスル中ハ説明スル
コトヲ得ハナリ

前項ノ如ク刑法ハ主タル人間ヲ保護スルニ法ヲ以テ治安ヲ害スルトハ秩序ヲ紛
乱スルト云フハ如何ナル意味ヲ有スルヤ其意味ハ此社会ノ人間ハ無制限
ノ自由ヲ有シテハ互ニ衝突シテ生活スルコトヲ得ク却テ安全ノ生活ヲ為ス
ヲ得ス於是各人ノ自由シテ之ヲ制限シタルナリ各人權利義務ヲ作リ
ナリ各人ノ有スル一權利ノ分量ノ範圍内ニ自由ノ行動ヲナスコトヲ得ル
ナリ然ルニ分量ヲ犯シテ他人ニ害ヲ及ホスハ衝突起ル

其權利義務ヲ以テ常ニ其処ヲ得セシムルハ刑法ノ目的ナリ其權利義務
務ニ干係其処ヲ得ルヤ社会ノ秩序ヲ維持シ公安ヲ保ツト云フナリ故ニ生
者ノ干係以外ニハ法律ノ力ヲ及ホス必要ナキナリ死人ハ人間ニアラス人間
ノ資格ナキナリ決シテ刑法ハ人間ノ資格ヲ失ナル本石ト同シ死人ニ對シ
テ人間トシテ保護シ与ヘントスルニトラス本章ノ目的ハ死屍具物ヲ保
護スルニアラス別段ノ目的ナルナリ埋葬スル死屍ヲ傷ツケ墳墓ヲ奔
掘スル等ノ行為ヲ禁マカハ風俗ニ如何ナル影響ヲ及ホスナキヤ葬式
ノ未だニ付テ孟子カ之ヲ説明セリ是レ其原ヲ得メハモノアラン其説ニ曰ク古時
人死ニ埋葬式ナク又根柢モナク人死セハ谷ニ捨テ川ニ流セリ然ルニ巴レノ
親ヲ失ヒシ者カ之ヲ野ニ捨テタルニ後其処ヲ通過スルニ禽獸之ヲ踏マリ
故ニ子之ヲ見ルニ忍ヒス帰リ柩ヲ造リ埋葬セリ之レ埋葬セハノ初メナリト
然レハ埋葬式ハ死者ニ對シテハ其親屬カ生存同ト同シキ感覺ヲ以テ
之ヲ埋葬スルナリ若シ之ヲ以テ眞実ナリトセハ墳墓ヲ奔掘シ死体ヲ露セ
ルヲ人ノ目撃ニ何等ノ悪感情ヲ起スコトナシトスレハ人情残酷トナリ死者
ニ對シテ少シモ忍ヒサハヒ重リ終ニ生者ニ對シテモ此心ヲ養成スルト一般ナリ

台湾生蕃ト同様ナルニ至ラン然ラハ人ノ死体ニ対シテ侵害スル行為ノ一國ノ人情ノ厚クフルクメ禁スルノ必要アリ故ニ此第七章ハ風俗ヲ害スルノ罪トシテ論スルノ外ナキナリ

左ニ此規定ノ不完全ナルヲ舉ケン
埋葬スルル死屍ヲ毀棄シタルハ罰スルモ之ヲ鞭チタルハ罰セズ死者ニ對スル畏行ヲ規定ヌサルハ欠点ナリ
次ニ墳墓ヲ掘奔スル罪ハ罰スルモ石塔ヲ破壊スルモ之ヲ罰セズ

又死体ハ保護スルモ白骨ト成リシモノハ之ヲ保護セズ
又葬式ヲ妨害スル罪ヲ規定セザルハ大ナル欠点ナリ葬式ハ人情ノ厚キヲ表ヘシタル式ナリ之ヲ害スルハ風俗ヲ害スルコト最甚シ而シテ之ヲ規定セズ大ナル欠点ト云フヘシ

又死体ニ付着スル財産ヲ取ルハ如何ナル罪ヲ構成スルカ此モ又規定ヲ設ケズ欠点ナリ此ハ竊盜カ強盜カ又ハ詐欺取財ナラカハ面白キ同點ナリ然レモ死体ニ付着セル財産ハ取ルト云フコトヲ得ズ此事ニ付テハ後段財産ニ對スル罪ノ如ク於テ論セン

第五章 收賄罪

收賄ノ區域、 賄賂ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ取リヌルハ初メテ此罪ヲ構成スルヤ

裁判官檢事警察官ニ付テハ賄賂ヲ取ル場合、制限ハ即第二百八十五條ニ於テ才判官民事裁判ニ付テハ賄賂ヲ收受シ云々トアリ故ニ裁判官檢事警察官等ハ其職務上取扱フ事件ニ付テ賄賂ヲ取リシハ初メテ此罪ヲ構成ス故ニ裁判官檢事警察官ハ其職務以外ニ於テ人ノ贈与ヲ受フルモ直ニ之ヲ以テ賄賂ヲ

受ケザリト云フコトヲ得ス勿論不正ノ贈与ヲ受ケルハ官吏ノ体面ヲ汚スコト明ナリ然レモ刑罰ノ制裁ヲ受クヘキ場合ト道德上ノ制裁ヲ受クヘキ場合トハ同一視スルコトヲ得ス例ハ余ハ檢事ナリ今余ハ担任スル事件ニ付テ無罪ノ宣告ヲ受ケン

シカクモ賄賂ヲ受ケタルハ刑事事件ニ付テ賄賂ヲ受ケシモノナリ而シテ其賄賂ヲ受ケシ上職分ヲ正當ニ行フモ又意思ニ反シテ判決ヲナスモ然レテ此條ニ當ルヘシ

然レモ犯罪ノ成立ニシテモ加重ノ情状ヲ具スルハ初メテ又余カ檢事ナルヲ以テ訴訟ナルハ便宜ノ判決ヲ得ルカ否メ同御人カ金ヲ贈ルヘ余ハ職務上ニ付テ賄賂ヲ受ケシニテラス第二百八十五條ニ當ルヘキモノニテラス

然レテ第二百八十四條官吏ノ囑托ヲ受ケ云々ト規定シタリ其原因ノ何ナルヲ

究メズ只人ヨリ贈与ヲ受テハ賄賂ヲ受テメリト見做スト云フコトヲ得ハキヤ其
 刑添主首ハ決シテ然ラリルハ此文字ハ広キニ失セリ之モ官吏ウ其職務ニ干
 シテ人ノ囑托ヲ受ケル場合ト解スハキモノナラスヤト信ス只此解釈ニ困難ナ
 ルハ判事檢事等ハ民事刑事ノ文字ヲ用ヒ官吏ハ此文字ナキ故職業
 上ニテラハ贈与シテ合意ヲ如ク見ユハ然レバ如キ解釈ハ刑添此規定ヲ設
 ケシ主趣ニ及ス故ニ以テ解釈ヲ採ルナリ
 官吏ニシテ賄賂ヲ收ムルハ收賄罪成立スルモ非官吏ニシテ賄賂ヲ收ムルモ此ノ罪
 成立セズ故ニ或人ハ官吏ト非官吏ト共謀シテ賄賂ヲ取ルトキハ官吏ハ收賄罪成
 立シ非官吏ハ無罪ナリ何トナレハ官吏ニ非官吏ク贈賄セハ官吏ハ收賄罪ニ非
 官吏ハ罪ナシ自カラ其收賄ノ行為ヲナス罪ナシトスルハ况ヤ贈賄レテ罪ナシハカ
 ラスト主張ス余ハ此説ニ服セス余ハ此贈賄ニ対シテハ教唆罪ヲ適用スルノ議論
 ナリ教唆罪トハ人ニ対シテ犯罪ヲ行フコトヲ誘勸シテ之ヲ行ハシムル罪ナリ然
 ラハ官吏ニ賄賂ヲ贈リシモノハ官吏ニ勸メテ賄賂罪ヲ犯シタルモノ故教唆
 罪ニ成立スト云フナリ贈賄者ハ故賄賂罪成立スルナリ
 於是及対論者曰ク教唆罪ハ我レ犯シ得ハキ罪ニシテ我レ犯意ヲ發生シ其犯
 意ヲ以テ之ヲ他人ニ注入スルナリ注入シテ其ノ身体ヲ藉リテ一罪ヲ犯スナリ此ノ
 場合ニハ犯意ハ一ナリ(身体ニアルモ)(百五七条)ト云フ然レバ
 如此教唆者ハ犯意ヲ持分ヲ出シタルニ思フストスルハ教唆者ニ犯罪ヲハコトフ專ス
 注入スルコトヲ得スニテ教唆者タルコトヲ得スト主張ス
 之ハ教唆者ノ性質ヲ誤解シタル説ナリ教唆罪ニモ犯意ヲ要スルコト明ナリ然レバ其
 犯意ハ設ナリ教唆罪ハ第百五七条ニヨリテ初メテ教唆罪ヲ犯ナリ然レバ百五七条ヲ犯
 スノ意思ハ即チ教唆ノ犯意ナリ百五七条ヲ犯スノ意思ヲ以テ犯罪ヨハ即チ人ノ勸
 メテ犯罪ヲナシタルノ意思ヨリト云フハ此教唆者ノ意思ハ百五七条ヲ犯スノ意思
 ナリ故ニ前述ノ如キ解釈ヲ取ルモノトス

第三編 身体財産ニ対スル重罪輕罪

第一章 身体ニ対スル罪

第一節 殺人罪

刑法

八〇

殺人罪三種アリ 豫謀ノ犯意ヲ以テ殺害ヲ行ハシムル之ヲ謀殺トシ 只殺人ノ犯意
ヲ以テ殺害ヲ行フ片之ヲ故殺トス

謀殺トハ如何ナル場合ニ於ケル殺人罪ヲ云フカ 元来故殺ニテモ 謀殺ニテモ 其人生
命ヲ奪フ目的ニ於テハ結果ニ於テ異ナハコトナシ 故ニ殺害ノ結果ニ付テハ此區別ヲナ
スニ必要ナシ 而シテ此區別ヲナス理由ハ 犯罪ノ客體ニ付テ論セハ又其主體ニ付テ即
被害者ノ危害ニ付テ論セス 其他人ノ精神ニ付テ論スルニ必要アリ 謀殺トハ平坦
ナル氣ヲ以テ殺害ニ成リ 期ニ殺害ヲ決行シタル場合ヲ云フ

人ノ殺害行為ヲナスニ付テハ 大抵 具原因ナルハカラス 原因ナクシテ殺害ヲ行フハ
多クハ 精神病ニ付テモ 其原因ナル場合ニ當テ 殺害ノ念慮發生ニ 爲止ムル
得ザルニ出ワルハ 人心ニ在リ 區別ヲ生ス 即之レ殺害ノ原因ニ制セラレ 自ラ忘レテ殺
害ヲ決行スル場合アリ 又此殺害ノ原因ハ 殺害ノ原因ヨリ生シタル 猛念ニ制ス
制ニ得テ 尚殺害ヲ行フコトヲ得然シ人ヲ殺サントスルニ至ル原因ノ一斑ヲ奉
フハ 大抵三原因アリ 即チ一ハ貪慾ノ念ヨリ殺害ヲ行フコトアリ 強盗人ヲ殺
シテ財物ヲ奪フ場合如シ 二ハ色慾ノ原因ニヨリ殺害ヲ行フ場合アリ 又三人
或ハ 婦孺相計テ 亦又テ殺害スルコトアリ 或ハ 嫉妬ノ念ヨリ 夫婦互ニ殺スコトアリ

或ハ 戀情ノタメ 殺害ヲ行フコトアリ 又三ハ 怨恨ノタメニ 殺害ヲ行フコトアリ 例ハ
父ノ仇ヲ報スル爲メ 或ハ 勝負ノ争ヲテ 殺害スル場合 如シ 凡ソ此等ノ原因
アリテ 殺害ヲ行フ場合ニ 爲シ 此犯人中ニハ 直チニ 貪慾ニ制セラレ 色慾ニ制セラレ
前後ヲ顧ミスニテ 殺害ヲナスコトアリ 又貪慾ノ念マハモ 色慾ノ念アルモ 性
ヲ制スルコトヲ得ナカラ 猶遲ニテ 此等ノ諸原因ニ 基ツク 怒ノ殺害ヲナシ 又コトヲ正
フルコトアリ 例ハ 余カ 貪慾ニ制セラレ 人ノ財産ヲ得タリトスレハ 此ノ念余ノ自
體ヲ便致シテ 殺害ヲ行ハ 余ハ 平坦ノ氣ヲ失フナリ 又シテ 色慾ノタメニ 人ヲ
殺サントスル場合モ 色慾ノ念カ 全身ヲ支配シテ 殺害セリ 怨恨ノ場合ニ於テ
モ 同シ 此等ノ原因ニ 制セラレ 殺害ヲ行フコトスルニハ 常ニ 平坦ノ氣ヲ有スルモノニ
アラス 故ニ 此等ノモノハ 罪ヲ犯スト 同時ニ 夢ノ醒メタル 如ク 常ニ 後悔スルモノナリ
如此一時ノ勇氣ニ 驅ラレテ 殺害ヲ行フ中ニハ 必成ノ期スルニ アラス 只 敵ニ 當ツテ 殺
害ヲ行フナリ 之レ 即 故殺ナリ

謀殺ノ場合ハ 怨恨アルモ 色慾アルモ 之等ノモノ、 爲ニハ 殺害ヲ犯シ 凡ソ 念慮ハ 内
一ナルモ 平坦ナルヲ以テ 殺害ヲ行フナリ 故ニ 一方ハ 具殺害ヲ犯スニ 至リシ 貪慾 色欲
怨恨等ノ 念慮ハ 同一ナルモ 一旦之等ノ 念慮ヲ犯シ 後悔心ノ 有様ヲ 異ニス 常ニ

殺害ノ念屬ラ以テ必成ノ期ニテ終ニ決行セル片ニ謀殺ヤリト云フナリ
或ル原因ニ馳ラシテ殺害ノ行フキハ殆ト其原因ニ制セラレスニテ行フモノト比シテ何
レカ残酷ナリヤ

人ノ怒リノ結果殺傷ヲ行フ場合ナリ怒ヲ發スル原因ヲ作ラサレハ之ヲ行ハス危險
ナモ高之ヲ豫防スルコトヲ得ハレ

然ルニ平氣ニテ人ヲ殺害スルモノハ其危險甚メ大ナリ禽獸ヲ殺傷スルト同様ノ
心ヲ以テナス此ニ平坦ナル心ヲ以テナス故必成ヲ期スル方必テ迴ラス余裕ナルナリ

尤モ残名ナル心ヲ有スルモノニテ此犯人ニ對シテハ到底生命ヲ完フスルコトヲ得ス故
其原因即チ刑必ハ其殺害行為ノ依ラ生スル原因結果ニ差等ヲ認メス其

其原因同一トシテ又其結果モ同一ナリトシ只犯人ト爲リウ平坦ノ氣ヲ以テ必成ノ期
ニテ決行スル場合ト或念慮ニ驅ラレテ殺害スル場合トハ其殘名ナル心ハ大ニ差ナ
リト云フハ此故ニ刑必ハ謀殺ヲ重ク罰スル所以ナリ

近年獨心學派ニ於テ此謀殺ノ區別ヲ廢セントスルノ議アリ其原因ニシテ重クスヘ
モノハ刑ヲ重クシ原因ニシテ輕クスヘキモノハ刑ヲ輕クシ人ノ精神ニ立入り區別ヲナスハ
不可ナリトナス此說等者固ニ多數ヲ占ム「オルウ」ニドルコト初メテ之ヲ主張シ

多數ノ學者之ヲ發感セリ及之伊不利學者ハ却テ此謀殺ノ區別ヲ主張ス余
ハ此說ニ從テ定義ヲ下シタリ余ハ原因ニ從テ刑ノ輕重ヲ定ムルハ好マズ人ノ心ヲ區別
ニテ制裁ヲ區別スルニ必要ナリト信ス残酷ナル心アリテ初メテ後テ本節ノ各本余

ヲ説明スルコトヲ得ルナリ

謀殺故殺ノ區別ヲ廢スル理由トナハモノ猶他ニツプリハ政畧問題ナリ此ハ從來
諸國(歐洲)ノ學者ノ死刑ヲ廢止セントスルモノアリ此死刑廢止論者々未ダ

十分其說ヲ擅ニスルコトヲ得スニシテ例ハ伊不利「ホウ」ト等死刑ノ全廢
セハモ其他ノ大國ニシハ死刑ハ全廢セルモノナシ然レモ凡テ大國ニシテ死刑ヲ廢止

セニムルコトヲ得ス故ニ策ヲ案出シ死刑ヲ重クナルハ謀殺ナルヲ以テ謀殺故殺ニ名
ヲ廢セントセルモノナリ之ハ死刑廢止者ノ政略問題ニ過キス他ノハ刑必ニ對スル

非難ナリ刑必ニ於テ謀殺ノ定義ヲ揭ノ其定義ハ執行前ニ謀アル片之ヲ
謀殺ト云フトナス佛刑法ニヨルハ化罪ノ意思ノ起リシヨリ執行迄ニ多ク時間P

ルコトノ意味ス其辭狀ノ結果殺意ノ起リシヨリ實行迄時間ノ經過アリシ片謀
殺トナリ時間ナキモノハ故殺トナル即チ時間長短ニヨリ謀殺ノ區別ヲナスナリ

學者ハ謀殺故殺ハ只名稱ノ區別ニ過キサハ時間長短ニヨリ區別スルノ標準ト

川谷

ナスコトハ五支ハナシト雖モ此區別ハ只文字ノ區別ニテラス責任ノ區別ナリ謀殺
 罪シ犯スハ責任重ク故殺罪ヲ犯スハ其責任輕シ然レモ何故ニ犯罪ノ決心ヨリ
 犯罪ノ実行ニ至ル迄多少ノ時間ヲ以テ犯人ノ責任ヲ重クシ実行ニ至ル迄時間ナキ
 犯罪ノ責任ヲ輕クスルヤ時ク何故加重ノ理由トナルヤ時間ヲ以テ加重ノ理由トナス
 刑法中儘ニ監禁制練罪ニ見ハノミテ他ニ全クナシ時ニ監禁制練罪ニ於
 ケル時間ハ全ク犯罪ノ実行ニ至ス実行ノ長ク變テ故加重ノ原因トナルナリ謀故
 殺ハ犯意ト実行トノ時ノ長短ナリ之ヲ以テ加重スル理由ナシ故ニ此區別ハ廢止
 スヘトナスナリ第三ニ批難ハ佛刑法ノ主意時ノ長短ヲ以テ之カ區別ヲナスモノ
 トセハ余ハ其廢止ニ同意セザルヲ得ス決シテ時ク責任ヲ輕重スルモノニテラスナ
 レ氏時ヲ以テ謀故殺ノ區別ノ標準トナスハ獨リ佛刑法ニ見ユルニテ其他ノ國
 ノ刑法ハ決シテ時ノ以テ此區別ノ標準トナス然ラハ謀殺ハ佛刑法ニ云フ
 所ノ本義ニテ此外ハ謀殺ノ定義ナシトシテ之カ廢止ノ主張スルハ字同ク謀
 殺ニ對スル批難ナリト云フソト得ザルナリ
 考者ハ此區別ニ付テ如何ニ其批難ヲ試シヌルコトアルモ到底實際ニ於テ此區別
 シ廢止スルコトヲ得ザルハニ或ハ謀殺ナル詞故殺ナル詞ハ廢止スルニ然レ此代

ル詞ヲ以テ更ニ此内容ノ區別ヲナスニ至ルコト論ナシ現ニ伊太利ノ考者ノカコハ
 ルハ謀殺故殺ノ區別ヲ維持シテ此カ説ヲナシテ曰ク刑法カ只ハ謀殺ノ處
 置ノミソ以テ重キ犯罪ナリトシテ之ヲ罰スルハ刑法ノ規定モ宜キヲ得タルト云
 フコトヲ得ス宜シク重キ刑ヲ課スルニ至ル理由アルハ其理由ニ等シキ理由アルハ
 常ニ重キ刑ヲ科スルニ抑テ刑法ニ於テ謀殺ヲ重キ所以ハ謀殺ノ處置ヲナスモ
 ノハ元ト殘忍ノ人物ニテ魅テ物ニ忍フ人ナリ忍フベクテ犯罪ノ必成テ期スルハ必
 ス其成功シ見ルハシ殺害ノ行為常ニ成功スルトスルハ社会ノ害之レヨリ大ナルハナ
 シ如此人ハ元來人ヲ見ルコト卓著ト同視スルノ心ヲ有スルモノ故人ノ生命ヲ絶ツ
 コトスルモ意ニ付セヌ此ノ如キ人物極危險ナルハナシ此故ニ刑法ハ此ノ如キ殘酷
 ナルベク有スル人ハ到底懲戒ノ目的ヲ有スル刑ヲ以テ之ヲ懲戒スルコトヲ得ス故ニ
 全ク遮断ノ性質ヲ有スル刑ヲ以テ之ヲ社会ヨリ遮断スルコトヲ得ス此故ニ何レノ國
 ノ刑法ニ於テモ謀殺者ハ之ヲ死刑ニ処ス故ニ謀殺ニテラザルモ犯人ノ所為殘酷ノ
 心ヨリ出ラタリトスルハ其所為ハ故意ニ出テスルハ片モ猶謀殺ヲ以テ罰スルハナリ
 故ニ酷薄ナル心ヨリ行ハレハ謀故殺ノ區別ナク皆重ク罰スルノ必要アリ特ニ論
 者ク謀故殺ノ區別ヲ廢止テ犯罪ノ原因ニ付テ重軽ノ區別ノ標準トナスヘト主

張スルハ多ク理由ナキニテラガルモ其原由中重ク罰セトスル原因ハ此ノ皆残酷ナル心算有スル人ノ為又斯ノ外ナラズ何ノ方面ヨリ觀察スルモ残酷ナルモト残酷ナラザルモトノ區別アリ故ニ謀殺殺瘕止論者モ残酷ナルモノヲ重ク罰シ然ラザルモトノ輕ク罰セトスルナリ故ニ謀殺殺瘕止論者ハ凶悪ノ瘕止論ニテラスレテ只其名称ノ區別ノ瘕止ニ過キサルナリ

現行法ニ毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタルモノハ謀殺トシテ人ヲ誘導シテ殺シタルモノハ死刑ニシテ残酷ノ所為ヲ以テ人ヲ殺シタルモノハ死刑ニシテ自ラ刑ヲ免レンカ為シ人ヲ殺シタルモノハ死刑ニシテ此等ハ皆残酷ナル処為シ外ナラス今日伊太利等者ノ主張スル処ト符合スルカ如シ余ハ謀殺ノ區別ニ付テ全ク現行刑格ヲ賛成スルモハナリ

謀殺トハ冷靜ナル心ヲ以テ犯罪ノ必成ヲ期スル考ヲ抱キ殺害行為ヲ行フタル場合ナリ故ニ一殺人罪ヲ犯セル場合ニ當リ謀殺ト故殺トノ區別ヲナスニ付テ常ニ此ノ標準ニ基ツクハレ

(一) 犯人ハ果シテ犯罪ノ必成ヲ期スル心ヲ有セシヤ
 (二) 犯人ハ冷淡ナル心ヲ有セシヤ

時間ノ長短ハ犯人ノ心ニ於テ前述ノ心ノ有無ヲ捜クルノ便宜アルモ謀殺ノ定義ニハ何等ノ干渉ナキモノナリ此故ニシタリノ場合ニ於テ毒物ヲ使用スルハ多クハ死ヲ逃ルコトヲ得ス又毒物ノ使用後被害者ノ苦痛ヲ目撃スルハ心ノ冷淡ナルヲ証ス故ニ此毒殺ヲ行フモノハ皆冷淡ナル心ヲ以テ犯罪ノ必成ヲ期スル心ヲ有セルコトヲ知ルハ残酷ナル処為シ又シ然リ誘導指ホシテ人ヲ殺スモ又同シ人ノ隔弁ニ隔ルヲ見テ知テ知ラザルカ如ク平然タルハ残酷ナルコトヲ知ルハ故ニ此等ノ罪ハ謀殺ヲ以テ論ストカ又ハ死刑ニ処スルノ文字ナクモ謀殺ヲ以テ論スルコトヲ得ルハ性質ヲ有ス故ニ刑法上母亦ニ毒殺誘導指ホ殺人罪ヲ罰リタリ毒物使用隔弁等ヲ設ケルハ豫謀ヲ以テ見ルハキヲ得ルヲ以テ又直系尊族親ノ殺害ハモテ謀殺ヲ以テ論ストタリ其豫謀ノ有無ニ干セス謀殺ヲ以テ論スル其罪重キヲ以テヤリ

茲ニ一問題アリナ子懐胎中豫メ出生ノ子ヲ殺害セんと決心スルモノアリトスレハ謀殺ナルヤ否ヤ此問題ハ複雑ニシテ殺害ノ決意ヲナセル目的ノ人此世ニ存生セス此世ニ生レタハト同時ニ殺セリトモハ目的ノ人此世ニナキ斯殺意ヲ決スルハ生存セル被害者ニ對シテ豫謀ノ意思アルヤ如何若シ此胎児ヲ死ニテ生産マハ前ニ如何ナル意思アルモ之ヲ罰スルコトヲ得ス子ヲ産ムタル場合ニテモ産ムタハ其前日ノ非ヲ悔ヒ殺スコ

トテ中止スルモ其ニ罰セラルニトナシ然ルニ今晚前ニ豫謀ノ意思アリテ其意思ヲ
 今晚又ハ赤見ニ加ハルハ一方ニ於テハ産レカル前殺害ノ意思ヲ有スルモノ故無
 論其赤見ニ対シテ残忍心アルモノ故ニ赤見ニ対シテ親トシテ殺害スルモノナラハ尚
 残酷ナリト云フヘシ殊ニ赤見ハ防衛ノ道ヲ有ス最必成テ期ニテナラハモナリ故ニ
 赤見ヲ殺セルモノ謀殺罪トナスヘキ事トス然レモ只情ニ於テ忍フヘキ程アルヲ以テ刑
 法ハ重ク罰セス然レモ其罪負ハ嬰嬰殺罪ノ如キ皆謀殺罪ナリ

故殺トハ殺害ノ必成テ期スル手段ヲ講ス偶然殺害ノ行為ヲ行フタル場合
 ヲ云フ即尺人ヲ殺スノ意思ヲ以テ殺害アリタル故殺トス刑法二百九十四条ニ故意
 ヲ以テ人ヲ殺シタルモノヲ故殺トス夫故意ナル文字ノ解釋ノ妨ケトナルモノナリ過失ノ罪
 外ハ該テ犯罪ハ故意ヲ要ス然ルニ故殺罪ノ場合ニ故意ナル文字アル故犯罪外
 故意アルコトヲ要フルカ如シテ故意ナル文字ヲ研究スルニ故意ハ殺害ヲ行フ
 意思ナルカ如シ果シテ然ラハ故意ハ犯罪ト同シナリ而シテ尺人ヲ殺シタルモノ
 ハ故殺ト云フ中犯罪アリテ殺害シタルコトヲ知ルハ故ニ犯罪カニツアルコトナラハ
 (故意ト犯罪ト)豫メ謀テノ文字ニ対シテ故意トカ何カ対向ラレタルモノニテ
 無用ノ文字ナリ

人ヲ殺スルヲ以テ人ヲ殺スル如ク、犯罪ノ必成テ期ニテ人ヲ殺スト如何ナル差異アリヤ
 此必成テ期スル場合ト尺人ヲ殺スル場合トハ大ニ異ルハ必成テ期スル殺害ノ
 必ラス殺害ノ目的ヲ達スルニ必要ナル方法手段ヲ考ヘハハカラス考ヘシ之ヲナセハ
 タタシノ場合ニ於テ誤ルコト少シ犯人ノ人ヲ殺シテ其目的ノ人ヲ必ラス殺スル至ル
 片ハ社会ノ害大ナリ之ニ及ミテ尺人ヲ殺スノ意思ニテ殺スル犯罪ヲナスニ最完備スル
 方法ヲ採ルニ違ラザルナリ故ニ此方法ハ目的ニ於テ過ツコト多ク人ヲ殺スノ意思ヲ以テ
 行為ヲナスニ道理上其目的ヲ過ツ望ムハ其ノ行為ハ未タ残酷ニ極メナリト云フ
 コトヲ得サルハ例ハ同一ノ殺害方法ヲ以テ行フ場合ニテモ此ニ者ノ區別ヲナスコトヲ得
 マ例ハ人ノ咽喉ヲ握リテ窒息死ニ至ラシメントス豫メ其手段ヲ故先シテ殺害ヲ
 ナルハ必ラス目的ヲ達スヘシ及之ヒシノカク窒息死ニ至ラシタルニ至ラスト考ヘ咽喉ヲ握
 レハ必ラス成功スルコトナレ故ニ大ニ區別アルナリ

第二百九十八条ニ於テ謀殺ヲ行ヒ去マツル此条ハ無用ノ条文ナリ本条ナリト重テ誤
 ラシテ殺スル謀殺故殺ヲ以テ論ス之ニ於テ犯罪ノ向題アリ犯罪ハ目的ニ付テ一歩スル
 コトアリ又ハ受マコトナリ其一步スルハモ一步マカハ中モ其犯為アルハ常ニ犯罪アリト
 云フコトヲ得ヘシ然ラハ甲ノ謀殺殺シトシテ誤テ他人ヲ殺セルハ人ヲ殺スノ意思ヲ以テ

殺スルモノ故謀故殺ヲ以テ論スルコトヲ得ハユト明カク然レモ甲ヲ殺サントシテ過
失ニヨリテ殺スルモノハ犯意ナシ此場合ニハ乙ニ對シテハ殺意ナキナリ此場合ニハ甲ニ對
シテ有意犯ニ對シテハ無意犯ノ故ニ第二九八条ハ不用ト云々又ハナリ

第二節 殴打創傷罪

殴打創傷罪ハ結果ニ付テ之ヲ罰スルノ規則ナリ何故刑法ハ之ニ付テハ其結果ニ付
テ犯人ヲ罰スルノ利益ノ原則ニ及ストノ非難アリ刑法ノ原則ハ犯罪ノ意思犯罪ノ実
行ト一致シタル場合ニアラサレハ既遂犯トシテ罰スルコトナシ例之人ヲ殺スノ意思ヲ
以テテ殺スノ行為アリテ始メテ殺人既遂罪生スルナリ此原則ニ付テニワノ例外アリ
即チ犯罪ノ意思ナク事實ノミハ片罰罰スルハ過失罪ナリ犯罪ノ意思ノミアリテ
事實ナキ中ニ重キヲ意思ニ置キ事實ニ置カサル片重キヲ事實ニ置キ意思ニ置
カサル片之ヲ罰スルハ片アリ之ヲ未遂罪ト云フ此過失罪未遂罪ニハ場合ニハ犯罪ノ意
思ト事實ト一致トスレテ之ヲ罰ス其他ノ場合ニハ意思ト事實ト欠テハ刑法ハ之ヲ罰ス
ルコトナシ然レモ刑法ニハ殴打創傷罪ニハ犯罪ノ意思ニ重キヲ置カス常ニ結果ノ上ニ
重キヲ置キ之ヲ罰スルノ規則ヲ設ケタリ意思如何ヲ論スレテ結果ノミヲ罰スルハ過
失罪ニ外ナラス其過失罪ノ外ニ猶因ノ罪ヲ區別シテ設ケタルモノナリ之レノ例外

法ナリト論スル者アリ此論者ハ殴打創傷罪ノ結果ニ付テ犯人ノ責任ヲ定メ
ル理由ヲ誤解セムモノナリ

殴打創傷ニ付テハ道理止結果ヲ罰セザルハカラス然レモ其理由犯意ニハ前述ノ如
ク被害者ヲ殺メタル場合アリ又又殺メザル場合アリ又犯人ノ意思外ニ於テ結果ヲ生スル
場合アリ此犯人ノ意思外ニ於テ生スル片ハ犯人ハ如何ナル責任アリキ此尚題ニ付テ
ハニワノ區別ヲ要ス

一 犯罪ノ結果ハ豫知スヘクニテ(犯人)而シテ之ヲ豫知セス且ツ當然弁スヘキモ
ナリ此場合

二 犯罪ノ結果ハ犯人ニ於テ豫知スヘカラス且ツ當然弁スヘカラザル場合アリ

第一ノ場合ハ物ノ道理ニヨリ当然弁スルコトヲ豫知シ得ヘシテ豫知セザル場合ナ
リ然レモ犯人ノ智識不足トシテ豫知セザリシナリ此場合ニ犯人ハ当然生スヘキ結果
ヲ豫知セザリシ片ハ犯人ハ何等ノ豫知ナカリシモ其責任任セザルハカラス犯人
ノ行為ハ其結果ノ程度ニ達スヘキ性質ノモノナリ故ニ犯人ハ行為ノ或度ノ度ヨリ
其結果ヲ知リテナスヘキナリ然レモ過シテ之ヲ知ラズシテ之ヲ生スルナリ故ニ何令
犯人カ知ラザルモ責任任セシムヘシ然レモ片ハ凡ソノ愚物ヘ不知ラテ責任ヲ免ル

ハノ結果ヲ生スヘシ

ハノ身体ニ対シテ殴打創傷ヲナス場合ニ於テ犯人ノ意思ハ初メヨリ廿日以内ノ
疾病ニ致スコトヲラス其結果ハ癡篤疾ニ致スコトアリ又癡篤疾ニ致サントシテ
其結果死ニ致スコトアルヘシ故ニ殴打ヲナスモノハ其殴打ノ結果ノ最極臭ヲ知ラ
ザルヘカラス故ニ如此犯人ノ死為ノ性質カ当然或程度ニ至ルマテノ結果ヲ生マシム
ヘキ性質ナシニ拘ハラズ犯人カ豫知セシテ行フモノハ犯人ノ意思ナキモノトス
其結果最初犯人カ之ヲ行フ旨ニ發生スルモノナリトテ豫知セサルハカテ結果
故後テ犯人カ其結果ヲ生マシムヘキ犯意アリト云ハサルヘカラス故ニ殴打創傷ニ付
テハ殴打創傷ノ性質ハ犯人ノ意思如何ニ拘ハラズ当然一度ノ程度ニ至ル結果
ヲ生ヒシムヘキモノ故其結果アリ意思アルモノトシテ規則ヲ設ケタルモノニシテ決
シテ原則ノ例外ニアラス

前四ノ說明ニヨリテ殴打創傷罪ニ付テ特ニ犯罪ノ結果ニ罰スル規程ヲ設ケメ
ルハ殴打ノ行為ハ当然極端ノ結果ヲ生マシムルノ性質ヲ有シテ犯人ハ其結果ハ
之ヲ豫想スヘキモノナリ然ルニ自ラ豫想セサルノ理由ニヨリ其責ヲ免スルハ片ハ恰
モ人ニ殴打シテ創傷セサルモノト信シヌリトシテ其責ヲ免シトスルト同ノ即チ

結果ヲ豫想スル智識ヲ有スル人ニ重キ責任ヲ課シ之ヲ具ヘサレハ輕キ責ヲ課ス
ルニ至リ人ノ賢愚ニヨリ責任ヲ區別スルニ至ルカ故ニ其結果ニ付テ之ヲ罰スルナリ但
シ犯罪ハ結果ヨリ論スルハ犯人ハ当然之ヲ豫想スルモノ故当然其責ヲ辭スヘキ
トヲ得ス然レモ犯人ノ意思ヨリ論スルハ其結果ハ全ク其意思ヲ欠ク故全ク意思
ノアリスル所為ト同一責ニ任スルトモ犯人ヲ責ムルコト酷ニ大スルナリ道理上当然
生スヘキ結果ハ豫想スヘキナリ然レモ實際ハ犯人ハ意思ナシトセリ道理上犯人ノ意
思ハハキ所ニ事實上意思ナキ道理上意思アリ犯人ノ意思アリト同一論ス
ルコトヲ得ス多ク道理上ノ意思アリトキハ犯人ノ責任ニ付テ差等アルヘキナリ
此故ニ刑法ハ道理上ヨリ論スルハ殴打創傷ノ結果人ヲ死ニ致スコトヲ豫想スヘ
キモノナリ其死ニ至リシハ殴打致死ハ普通ノ謀殺ヲ以テ論スヘキナリ然レモ實際ハ殺
害ノ意思ナク其結果ハ豫想外ニ出ラヌナリ此故ニ刑法ハ殴打ノ原因スル結果
ニ付テハ多少慈悲セキナリトシ特別ノ規定アリトナリ刑務ニ規定スル場合ハ五アリ

- 一、殴打致死ノ場合
- 二、癡篤疾ニ致シタル場合
- 三、二十日以内ノ疾病休業ニ致シタル場合

川本

九六

四、二十日以下ノ疾痲休業ニ致スル場合

五、疾痲休業ニ至ラザリシ場合

第一、殴打致死

此五段ノ區別シナレ之ニ相当スル責任ノ課スルニ至リシナリ
殴打致死ハ事實上ノ犯意ヨリ云ハ犯人ニ於テハ全ク犯意ヲ有マスレテ此結果ヲ生マ
シメタル故此レ即殴打ノ行為ニテ誤テ死ニ致シモト云フコトヲ得ヘシ殴打創傷ハ
犯意ヲ以テナシタル行為故有意犯トシテ之ヲ罰シ致死ノ結果ハ竟思ナキ故無意犯
トテ論セラルヘカラス即有意犯ノ殴打無意犯ノ過失殺ニシテ合テ論スル中ハ有意ノ殴
打ノ重ク無意ノ過失罪ハ軽キ故常ニ犯人ハ有意ノ殴打ニ付テハ其責ヲ論スルナリ
然レ道理上ハ殺傷ハ豫想スヘキモノ故唯豫想セサルカ故ヲ以テ責ヲ免ルルコトヲ得ス
即刑法ハ殺意アリメリト見做スナリ此ニテ區別アルカ故ニ此二者ヲ調和シテ純粹ノ殺人
罪ニモ當ラス又純粹ノ過失罪ニモ當ラス之ヲ折衷シテ別ニ殴打致死罪ヲ設ケタルナリ
此折衷ニヨリテ特別ノ刑ヲ設ケタル理由ハ痲痲疾以下ノ場合ニ適用スルコトヲ得
第二、痲痲疾ニ致シタル場合
此規則ハ醫學上ノ道理トナラテ背馳ス刑法三百条ヨリハ刑法八ノ目ニツアリ耳ハ

ニツアリモト信セリ故ニ西ノナカラ夫ハ重ク一ツ天ノ罪ハ軽クトアリ然レ之ハ刑法ノ誤ナリ
醫學上耳目ハ一ツナリ故ニ刑法ノ規定ハ醫學上ノ理論ニ背馳スト云フナリ下併々損
ノ障害ノ程度ニ至リニハ耳目其他身体ノ部分ニ付テ深淺軽重ノ區別アルカ故ニ外
形上一目耳ヲ毀損セル行為ハ西目耳ノ毀損セル行為ヨリ輕ト云ハルヘカラス若シ天レ
殴打創傷罪カ結果ニ付テ他人ノ責任ヲ同トスレハ此創傷ハ深淺軽重ニ付テ責任ヲ
區別スヘシ故ニ刑法八ノ目一耳等一ヲ標準トシテ其以上ヲ追テ責任ヲ同フヘキミトス
現行刑法ハ西目兩耳ノ害ニ害其他知覚精神ヲ喪スルモノヲ痲痲ト云フ故ニ
痲痲ノ場合ハ刑法明文上之ヲ定ムル故然レト此場合ハ説明ヲ要ス及之疾痲
ニ至ラハ大ニ疑アリ三百条ニ項ハ痲痲トハ其他身体ニ殘傷ニトアリ殘傷トハ程度
如何其場合極メテ多ク其程度ス小線メ之ヲ定ムルコトヲ得ス故ニ如何テ部分ノ殘傷
ヲ痲痲トスルカ緊要ノ部分ナレ殘傷トスルカ此詞ハ辭義上不明ニ屬ス只痲痲ナル
文字ヲ掲クル故殘傷ハ結果カ痲痲ニ至ラシムルモノヲ茲ニ云フ殘傷トス即痲痲ヲ
辭義スルモノ却テ痲痲ノ字ヲ用イテ殘傷ヲ証明セサルヘカラス至ラシメテ
身体ノ部分ノ欠損ニ補足シ結果ニ至ル中皆痲痲ト云フナリ故ニ三百条ニ
項ハ意味ニ於テ不明ノ短カリ又之ヲ辭義スルモ重キニ失スル嫌疑アリ或人(鳩山氏ノ如キ)